

授業コード	11C11		
授業科目名	演習I (L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。そうしたゼミを目指す。作品を〈読む〉ための基礎体力作りを続けると同時に、〈読む〉楽しみも見出そう。
到達目標	日本文学・日本文化について、自らの視点で論じる力を習得すること。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこない、また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』について ○『万葉集』の歌群を読む実例(廣川が発表する) ○参加者各自の担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	2年生の諸君、作品を〈読む〉ことの「楽しさ」を共に見出そう。また、〈読む〉ための「深さ」というものも共に味わおう。

授業コード	11C12		
授業科目名	演習I (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他随時研究室に掲示		

講義の内容	古典文学を研究するために必要な基礎知識や手続き、見るべき参考文献の検索や入手方法などについて、『枕草子』を教材として学ぶ。
到達目標	古典文学の基礎的な研究方法を身につけること。
講義方法	担当者による教材の概説、演習の方法の解説の後、受講者各自が一段ずつ担当して調べてきたことを報告し、全員で討議する。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席を重視する(欠席4回以上の場合はその時点で「不可」の評価をつける)。平常の勉学態度と、期末のレポートによって評価する。また、報告担当に当たっていた当日、よんどころない事情以外で欠席した場合も「不可」とする。事情などがある場合は、予め相談すること。
講義構成	1、演習の方法——実際に担当者が行ってみるので、それを参考にしつつ、一年次で習得した「基礎演習」を思い出して各自演習を行う。 2、担当者が一人一時限を用いて発表を行う。それについて、受講者が質問やコメントをする。 3、まとめ

教科書	岩波文庫『枕草子』。 必ず授業までに購入しておくこと
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	授業中は積極的に発言し、わからないことは遠慮なく質問すること。この授業では、一年次では知らなかった書籍を大量に調べることになるので、共同研究室のガイダンスも行う。 必ず第一回目から出席しないと演習は出来ないので注意すること。一回目に来なかった受講者に特別に補習をすることはしない。
その他	各自が発表する際のレジメは、予め受講者と教員の分をコピーしておくこと。コピー代は自分持ちとする。コピーカードの残り枚数をよく確認し、適宜補充しておくこと。
ホームページタイトル	HPはなし。

授業コード	11C13		
授業科目名	演習I (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日昼休み、その他随時		

講義の内容	自分で研究テーマを見つけ、調査研究を行い、口頭発表し、論文にまとめます。これらの作業を自立して行えるように、近現代の女性作家が書いた短編小説を教材にして、基礎から指導します。そして各自、作品をとりあげて発表し、討議します。 随時読書会を行い、各自が作品を読んだ意見を発表し、討議して、作品を読む力を高めます。
到達目標	課題の発見、分析、論証、発表、質疑応答が、自立しておこなえること。自分の意見と人の意見との比較検討ができること。
講義方法	一人ずつ調査、分析、論証をして、口頭発表をおこない、質疑応答します。作品を読んできて、全員で討議します。
準備学習	作品を事前に読んで授業にのぞむこと。
成績評価	出席、発表、討議、レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。
講義構成	1 女性文学を学ぶとは 2 演習の方法 3 口頭発表 4 レポート・論文の書き方 5 読書会
教科書	今井泰子、藪禎子他編『短編 女性文学 近代』(おうふう、2520円)
参考書・資料	適宜プリントを配布します。
講義関連事項	特になし

担当者から一言	授業の性格上、出席を重視しますので、遅刻欠席をしないよう注意すること。
その他	特になし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11C14		
授業科目名	演習I (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		

配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	小品文学(*2000～4000字の随想・掌編小説・散文詩など)を素材にして作品研究の基本を学ぶ。 ①最初に、作品を一つか二つ選び、問題点の発見、作業課題の設定、資料の調査方法などについて具体的に実例を示す。 ②各自が一つ作品を選び、問題点、作業課題、研究課題を考え、作業課題シートに記入し提出する。 ③作業課題シートに基づいて調査研究した成果をもとに、口頭発表を行う。発表の際は、必ず資料を準備する。
到達目標	問題点の発見や、資料調査の方法を実地に身につけることを目標とした。 見て読みやすく、効率よく論点が整理されている資料を作成できる力も養いたい。
講義方法	発表を中心に、参加者全員で討議しながら進める。
準備学習	研究発表テーマについては、ふだんから十分準備をして、よく練った発表をおこなえるように努力してほしい。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	○小品文学の概略について講義する。 ○研究発表のシミュレーションとして、いくつか作品を選び見本を示す。 ○研究発表資料の作成法、資料収集や調査の方法について指導する。 ○研究課題を決め、作業課題シートを作成する。 ○作業課題シートに基づいて、研究をすすめ、資料を作成した上で口頭発表を行う。口頭発表の際には全員で質疑をかさねて内容を検討する。 ○発表をもとに期末レポートを作成する。
教科書	『明治大正小品選』(おうふう 2100円)
参考書・資料	適宜、指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	発表資料や配付資料を保存するファイルを準備すること。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11C15		
授業科目名	演習I (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマです。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析でいう前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』 後期のはじめには、早期幼児期の内的対象関係について概観します。
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普段のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	1.『チャーリーとチョコレート工場』(映画) ウォンカや子供達の性格に注意して観る。 2.課題作品の精読と各自の発表

	後期 1. ウィニコット、対象関係論、自己心理学などの理論を学ぶ。 2. 課題作品の精読と各自の発表
教科書	村上春樹『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。

担当者から一言	自分が関心をもっていることをゼミの中に遠慮なく出してください。
---------	---------------------------------

授業コード	11C17		
授業科目名	演習I (J2)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。 1年間の演習を通して、卒業研究につながるような研究テーマ(方言に限らず、広く現代日本語から)を各自で考える。
到達目標	方言研究の方法を学び、実地に調査を行ない、それらの結果をまとめるための方法を身につける。
講義方法	前期: 方言研究について講義形式で概説する 夏期休暇: 3・4年生と合同で、方言調査(単位取得のためには参加必須)を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に割り当てられた発表担当項目の準備、および、毎時終了時に提示される課題。
成績評価	総合的に評価する。 夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 方言概説 言語地図・グロットグラムの作成と読みとり 方言調査法 夏期休暇: 3・4年生と合同で、方言調査を行なう 2010年度は岡山～広島方面で調査を行なう予定。(調査対象地域については変更の可能性もある) この調査への参加は、単位取得のためには必須である。 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時配付・紹介する。
講義関連事項	2年次配当の日本語学科目・言語学概論を同時に履修すること。

授業コード	11C18		
授業科目名	演習I (J3)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜2限)、後期(水曜2限)
特記事項	自動登録		

オフィスアワー	木曜日14:40～16:10
講義の内容	日常使われる文をもとに、日本語のさまざまな文法的事象について考察する。分析の基礎となる用例収集をどう行うか、参考図書にどのようにあたるか等、研究の基礎となることから学ぶ。外国人への日本語教育における文法についても考える。
到達目標	日本語文法の諸領域に関してどのような問題があるか、その概略を知る。
講義方法	教科書の問題について、順に担当を決めて演習参加者に発表を行ってもらい、全体で討議を進める。必要に応じ、そのテーマを外国人向け日本語教科書でどう扱っているか調べる。
準備学習	日本語文法の基礎を知っておく。発表担当者は、取り上げるテーマに関して問題点を整理し配付資料を作成する。担当者以外も、疑問点をまとめておくこと。
成績評価	日常の演習への参加状況、及び、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマのほか、必要に応じて他のテーマを補いながら進める。 (1)品詞 (2)格助詞 (3)受身・使役 (4)動詞の自他 (5)コ・ソ・ア (6)ハとガ (7)授受動詞 (8)アスペクト (9)待遇表現 (10)接頭辞 (11)呼称 (12)慣用句 (13)複合動詞
教科書	加藤重広・吉田朋彦著『日本語を知るための51題』(研究社)
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	「日本語文法論ⅠⅡ」ほか、日本語学に関連する科目。
担当者から一言	積極的に授業に参加して、自分自身で興味ある研究テーマを見つけ出すことを期待します。
その他	日常触れる日本語表現に敏感になってください。
ホームページタイトル	

授業コード	11C21		
授業科目名	演習Ⅱ(L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 作品を分析し、そのプレゼンテーションをおこなうテクニックを身に付けることを目標としている。諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。
到達目標	日本文学・日本文化について自らの視点で分析し得る力の、いっそうの習得を目指す。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。 適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	昨年度の演習Ⅰで得た知見を、各自でさらに広め深めておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所での発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	3年生の諸君、自分自身の研究テーマを見出す場として本ゼミを活用してほしい。 作品をく読むことの「楽しさ」を共に見出そう。また、く読むための「深さ」というものも共に味わおう。

授業コード	11C22		
授業科目名	演習II (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	演習 I での成果をふまえて、古典文学のさらに発展した研究方法を学ぶ。教材は室町時代の御伽草子「小町さうし」である。これは女性の嫉妬をめぐる物語である。
到達目標	古典文学研究の応用を身につけること。
講義方法	御伽草子についての概説、演習の見本を担当者が行った後、受講者各自の発表とそれに対する討議を行う。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席点(出席を重視する。4回以上欠席した者は単位を認定しない)。平常の勉学態度、並びに期末のレポートによって評価する。
講義構成	1, 御伽草子概説、「小町さうし」と中世の女性について 2, 演習の見本(担当者が発表の見本を行う) 3, 受講者による演習発表と討議 4, まとめ
教科書	授業中にコピーを配布する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	「小町さうし」は現代人の注釈がない作品であるので、翻刻、校合、といった基礎作業に始まり、各自が注をつけて読み解いてゆくことを行う。非常に手がかかるので、甘くみないこと。演習の準備はおおむね二週間前から始めること。数日では絶対できないと断言しておく。 なお、各自の発表については積極的に質問や発言をすること。これも「受講態度」として評価の対象とする。
担当者から一言	一度注意されたことは二度目から覚えること。共同研究室や図書館を活用すること。

授業コード	11C23		
授業科目名	演習II (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	2年生で習得した作品分析の基礎をふまえ、卒業研究を視野に入れながら演習をすすめます。前期は国木田独歩の作品を扱い、注釈研究を試みつつ、作品分析へとつなげていきます。後期は、各自が選んだ作品について、調査、研究します。また、研究発表と並行して、随時読書会も行い、各自が意見感想を出し合いながら、読解力を高めていきます。
到達目標	文献を調査し、作品を分析し、論証し、発表することができる。適切な質疑応答ができる。作品を細部まで読み込み、自分の意見と人の意見を比較検討することができる。
講義方法	各自が調査・研究を行い、口頭発表して質疑応答をおこないます。また、同じ作品を読んできて、感想・意見を出し合い、討議をおこないます。
準備学習	口頭発表に向けて、十分な準備をおこなうこと。取り上げられる作品を事前に読んで授業にのぞむこと
成績評価	出席・発表・討議・レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。

講義構成	・注釈研究 ・作品分析 ・論文読解 ・読書会
教科書	『明治の文学 第22巻 国木田独歩』筑摩書房 ¥2400+税
参考書・資料	授業中に随時紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	出席を重視しますので遅刻欠席のないように注意すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11C24		
授業科目名	演習II (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	<p>イメージと文学のかかわりについて考察する。</p> <p>イメージ(絵画などの視覚表現)と文学がかかわりあって、表現されている事例を取り上げて研究する。</p> <p>挿絵や装幀はもちろんのこと、文学作品の画像化(映画、マンガ、アニメーションなど)、美術と文学の相互交流なども視野に含めて、文化のひろがりの中で、文学のもつ意味を再考してみたい。</p> <p>研究の枠組には、次のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小説の中の絵画 ●画家の登場する小説 ●挿絵や装釘と文学のかかわり ●詩歌や小説など文学表現のイメージ ●文学作品の画像化(コミック化・映画化)
到達目標	イメージと文学のかかわりという視点に立って、ひろがりのある場から、文学をとらえなす。文学やイメージと、現実社会とのかかわりという面にも注目して、研究をおこなう。
講義方法	いくつかの事例研究を提示した後、受講学生自身が各自でテーマを選び、作業課題シートを作成した上で、資料をもとに口頭発表を行う。
準備学習	充実した研究発表が行えるように、ふだんから研究、調査を積み重ねるようにつとめること。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ○文学とイメージの交流、挿画と装幀、文学の画像化などの研究事例のサンプルを提示する。 ○各自の研究課題を決める。 ○作業課題を確定する。 ○研究発表を行い、討議する。
教科書	プリント教材使用。発表対象の作品については別途指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ、資料を読み込み、情報を整理して、問題設定し、それを解決するプロセスを大切にしよう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11C25
-------	-------

授業科目名	演習II (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマ。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析でいう前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。そのことで現代の社会に生きている自分自身について考えたいと思います。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』、村上春樹『海辺のカフカ』
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普段のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	前期 1.導入 2.研究発表と課題作品の精読 後期 1.研究発表と課題作品の精読
教科書	宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』上中下(角川文庫)、村上春樹『海辺のカフカ』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。
担当者から一言	3年になると、そろそろ就職関係のガイダンスなども増えてきますが、それと平行して文学やその他のジャンルの作品について、考察を深めていきたいと思います。しっかりやりましょう。

授業コード	11C26		
授業科目名	演習II (J1)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学作品、および各種言語資料を日本語学的に研究する方法を説明する。 受講生は、実際に各自で、小説、詩、歌謡曲の歌詞、マンガのセリフ、広告のことば、新聞記事、ブログなどのどれかの分野の任意の日本語資料を選び、具体的に調べる。
到達目標	レポートの作成。研究課題の設定。
講義方法	作品分析の実習、および各自の口頭発表 前期はグループ学習も可とする。 後期はなるべく個人で発表する。
準備学習	日本語資料について 広く読んでおくこと
成績評価	発表とレポートによる。

講義構成	テキストにより、文章・文体についての国語学的な調べ方を学ぶ。 日本の近代現代、古典の文学作品や、各種の非文学的言語資料について、国語学的な側面から調べて考察する。 必要に応じ、文学的研究、歴史学的研究も参考にし、文化、民俗、環境などとの関係も考えながら調べを進めたい
教科書	授業開始時に伝える予定
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。
講義関連事項	なるべく3年次終了までに卒業論文の研究対象を見つけるよう望まれる。
担当者から一言	多読、濫読、精読、読、読、…… 解答を見つけるための学習だけでなく、 課題を見つけるための学習も行いたい。
その他	欠席する場合は、あらかじめメールなどの方法で連絡すること。

授業コード	11C27		
授業科目名	演習II (J2)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施し、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。
到達目標	4年次での卒業論文作成に向けての具体的な研究課題を定め、その課題の研究方法を身につける。
講義方法	前期: 方言研究の諸問題を講義する 夏期休暇: 2・4年生と合同で方言調査を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に与えられた発表課題の作成、他の発表者の発表課題に対する準備など、毎時終了時に指示する。
成績評価	総合的に評価する。夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 主要な方言研究者、方言研究書について、分担を決め、報告を行なう。 夏期休暇: 2・4年生と合同で方言調査を行なう。 2010年度は岡山～広島方面で調査を行なう予定。(調査地域は変更の可能性もある) 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	1・2年次配当の日本語学科科目で未履修の科目を併せて履修すること。

授業コード	11C28
-------	-------

授業科目名	演習II (J3)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	3年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらおう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定である。
到達目標	研究論文の形式について知る。自身の卒業論文のテーマを見つけ出す。
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。
準備学習	扱う論文を前もって読み、議論の中心点や疑問点について整理しておく。
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)フォリナー・トークについて
教科書	印刷物を配布する。
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。
担当者から一言	さまざまな論文に触れるなかで、自分自身の卒業論文のテーマを見つけ出してください。
その他	積極的な参加を望みます。

授業コード	11M11		
授業科目名	演習III (L1)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜2限)、後期(火曜2限)
特記事項	演習II担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究 作品を分析し、そのプレゼンテーションをおこなうテクニックを身に付けることを目標としている。諸君が自分自身で自分自身のための研究テーマを見つけ出す手助けをしたいと思っている。
到達目標	『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品の研究において、自らの視点から論じることができること。
講義方法	参加者各自の発表、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。適宜、講義もおこなう。また、重要な先行研究についての輪読もおこなう。さらに、関係故地への実地踏査も予定している。
準備学習	参加者各自が選んだ、『万葉集』を中心とした日本上代文学の作品について、読解を深めておくこと。
成績評価	各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。
講義構成	○『万葉集』の作品を読む実例(廣川が発表する)。 ○参加者各自の担当箇所の発表、および、参加者間の討議。 ※論文を読解するトレーニングも随時おこなうので安心されたい。 ※資料の集め方、論文の書き方についても指導する。 ※関係故地への実地踏査もおこなう予定。
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)

参考書・資料	適宜、紹介する。
担当者から一言	4年生の諸君、自分自身の研究テーマを見出す場として本ゼミを活用してほしい。作品を〈読む〉ことの「楽しさ」を共に見出そう。また、〈読む〉ための「深さ」というものも共に味わおう。3年生の良き手本となるよう頑張してほしい。

授業コード	11M12		
授業科目名	演習III (L2)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜3限)、後期(木曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	演習Ⅰでの成果をふまえて、古典文学のさらに発展した研究方法を学ぶ。教材は室町時代の御伽草子「小町さうし」である。これは女性の嫉妬をめぐる物語である。
到達目標	古典文学研究の応用を身につけること。
講義方法	御伽草子についての概説、演習の見本を担当者が行った後、受講者各自の発表とそれに対する討議を行う。
準備学習	発表準備は最低二週間前に始めること。
成績評価	出席点(出席を重視する。4回以上欠席した者は単位を認定しない)。平常の勉学態度、並びに期末のレポートによって評価する。
講義構成	1, 御伽草子概説、「小町さうし」と中世の女性について 2, 演習の見本(担当者が発表の見本を行う) 3, 受講者による演習発表と討議 4, まとめ
教科書	授業中にコピーを配布する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	「小町さうし」は現代人の注釈がない作品であるので、翻刻、校合、といった基礎作業に始まり、各自が注をつけて読み解いてゆくことを行う。非常に手がかかるので、甘くみないこと。演習の準備はおおむね二週間前から始めること。数日では絶対できないと断言しておく。 なお、各自の発表については積極的に質問や発言をすること。これも「受講態度」として評価の対象とする。

担当者から一言	一度注意されたことは二度目から覚えること。共同研究室や図書館を活用すること。
---------	--

授業コード	11M13		
授業科目名	演習III (L3)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	2、3年生で習得した作品分析の基礎をふまえ、卒業研究を視野に入れながら演習をすすめます。前期は国木田独歩の作品を扱い、注釈研究を試みつつ、作品分析へとつなげていきます。後期は、各自が選んだ作品について、調査、研究します。また、研究発表と並行して、随時読書会も行い、各自が意見感想を出し合いながら、読解力を高めていきます。
到達目標	文献を調査し、作品を分析し、論証し、発表することができる。適切な質疑応答ができる。作品を細部まで読み込み、自分の意見と人の意見を比較検討することができる。

講義方法	各自が調査・研究を行い、口頭発表して質疑応答をおこないます。また、同じ作品を読んできて、感想・意見を出し合い、討議をおこないます。
準備学習	口頭発表に向けて、十分な準備をおこなうこと。取り上げられる作品を事前に読んで授業にのぞむこと
成績評価	出席・発表・討議・レポート等によって評価します。特に出席、発表を重視します。
講義構成	・注釈研究 ・作品分析 ・論文読解 ・読書会
教科書	『明治の文学 第22巻 国木田独歩』筑摩書房 ¥2400+税
参考書・資料	授業中に随時紹介します。
講義関連事項	なし
担当者から一言	出席を重視しますので遅刻欠席のないように注意すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11M14		
授業科目名	演習III (L4)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	<p>イメージと文学のかかわりについて考察する。</p> <p>イメージ(絵画などの視覚表現)と文学がかかわりあって、表現されている事例を取り上げて研究する。</p> <p>挿絵や装幀はもちろんのこと、文学作品の画像化(映画、マンガ、アニメーションなど)、美術と文学の相互交流なども視野に含めて、文化のひろがりの中で、文学のもつ意味を再考してみたい。</p> <p>研究の枠組には、次のようなものがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小説の中の絵画 ●画家の登場する小説 ●挿絵や装釘と文学のかかわり ●詩歌や小説など文学表現のイメージ ●文学作品の画像化(コミック化・映画化)
到達目標	イメージと文学のかかわりという視点に立って、ひろがりのある場から、文学をとらえなす。文学やイメージと、現実社会とのかかわりという面にも注目して、研究をおこなう。
講義方法	いくつかの事例研究を提示した後、受講学生自身が各自でテーマを選び、作業課題シートを作成した上で、資料をもとに口頭発表を行う。
準備学習	充実した研究発表が行えるように、ふだんから研究、調査を積み重ねるようにつとめること。
成績評価	口頭発表、期末レポート、出席等によって評価する。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ○文学とイメージの交流、挿画と装幀、文学の画像化などの研究事例のサンプルを提示する。 ○各自の研究課題を決める。 ○作業課題を確定する。 ○研究発表を行い、討議する。
教科書	プリント教材使用。発表対象の作品については別途指示する。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	自分自身でテーマを見つけ、資料を読み込み、情報を整理して、問題設定し、それを解決するプロセスを大切にしよう。
その他	特になし。

ホームページタイトル	なし。
------------	-----

授業コード	11M15		
授業科目名	演習III (L5)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(月曜2限)、後期(月曜2限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	文学作品における「対象との同一化」がテーマ。「対象」とは簡単に言うと、支えになってくれる存在です。精神分析でいう前エディプス期の内的対象関係のモデルを参考に、近代から現代の日本文学を中心にした多ジャンルの芸術作品から材料を探し、登場人物の同一化や同一性(アイデンティティ)の揺らぎを検討します。そのことで現代の社会に生きている自分自身について考えたいと思います。
到達目標	文学作品における「対象との同一化」について発表や討議を行い、人間と言葉との関わりについて理解を深める。
講義方法	課題として選んだ作品を分担して精読する作業と、各自の関心に沿って選んだ作品の研究発表を平行して行います。はじめは例として映画を取り上げたりします。 課題作品: 宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』、村上春樹『海辺のカフカ』
準備学習	課題作品を読んでくる。発表を準備する。
成績評価	普通のゼミ発表やコメントなどで評価します。
講義構成	前期 1.導入 2.研究発表と課題作品の精読 後期 1.研究発表と課題作品の精読
教科書	宮部みゆき『ブレイブ・ストーリー』上中下(角川文庫)、村上春樹『海辺のカフカ』上下(新潮文庫) 教科書売場や生協で。
担当者から一言	3年になると、そろそろ就職関係のガイダンスなども増えてきますが、それと平行して文学やその他のジャンルの作品について、考察を深めていきたいと思います。しっかりやりましょう。

授業コード	11M16		
授業科目名	演習III (J1)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜3限)、後期(水曜3限)
特記事項	演習Ⅱ担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	前もって予約すること		

講義の内容	各種言語資料の日本語学的研究。 文学作品、および各種言語資料を日本語学的に研究する方法を説明する。 受講生は、実際に各自で、小説、詩、歌謡曲の歌詞、マンガのセリフ、広告のこぼれ、新聞記事、ブログなどのどれかの分野の任意の日本語資料を選び、具体的に調べる
到達目標	自身で設定した課題をもとに レポートもしくは研究論文を書く。
講義方法	各自の口頭発表を主とする 発表は自分の設定したテーマによって行う
準備学習	日本語資料の分析と考察

成績評価	発表による
講義構成	研究発表と研究についての相談 3年生の発表も併行して行われるので、適宜、助言・質問などをするよう望まれる。
教科書	各自で研究材料を設定し、それに関する諸資料を集める。
参考書・資料	授業の中で適宜、紹介する。

授業コード	11M17		
授業科目名	演習III (J2)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(水曜1限)、後期(水曜1限)
特記事項	演習II担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	金曜日昼休み		

講義の内容	方言の社会言語学的研究 地域差・年齢差・性差に注目し、方言の動態について臨地面接調査を実施し、その結果を分析する。学年末には資料集を作成する。
到達目標	これまでに習得してきた知識・技能を卒業論文に活かせるようレベルアップを図る。
講義方法	前期: 方言研究の諸問題を講義する 夏期休暇: 2・3年生と合同で方言調査を行なう 後期: 方言調査の結果について発表
準備学習	各自に割り当てられた発表課題以外に、毎時終了時に課題を提示する。
成績評価	総合的に評価する。夏期休暇の方言調査への参加は必須。
講義構成	前期: 主要な方言研究者、方言研究書について、分担を決め、報告する。 夏期休暇: 2・3年生と合同で方言調査を行なう。 2010年度は岡山～広島で調査を行なう予定。(調査地域変更もありうる) 後期: 調査項目を分担担当し、調査結果を報告し、検討する。 調査結果はグロットグラムの形にまとめる。 学年末にはグロットグラム集を作成する。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	1・2年次配当の日本語学科目・言語学概論で未履修の科目を併せて履修すること。

担当者から一言	受講登録に際しては、担当者の指示を受けること。
---------	-------------------------

授業コード	11M18		
授業科目名	演習III (J3)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	4年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜3限)、後期(金曜3限)
特記事項	演習II担当教員のクラスのみ履修できる		
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	日本語に関する論文を精読する。担当者を決めて、論文の内容について発表を行ってもらう。論文のテーマは、日本語の文法に関するものだけでなく、ことばの意味に関わるものや、さらに、社会言語学的なものも扱う予定
-------	--

	である。
到達目標	受講者自身の卒業論文のテーマを見つけ、論文という形式に慣れる。
講義方法	その日の発表者を中心に、全体で討議をしながら進める。
準備学習	扱う論文を前もって読み、議論の中心点、疑問点等を整理しておく。
成績評価	平常の授業への参加状況と、学年末のレポート。
講義構成	次のようなテーマに関する論文を順に精読する。 (1)受身・使役について (2)授受表現について (3)コ・ソ・アについて (4)複合辞について (5)自動詞・他動詞について (6)副詞について (7)擬音語・擬態語について (8)待遇表現について (9)人物呼称について (10)フォリナー・トークについて
教科書	印刷物を配布する。
参考書・資料	授業中に指示する。
講義関連事項	日本語学・日本語教育に関わる他の科目。
担当者から一言	本科目は4年次生のうち希望者が、3年次生の演習Ⅱと一緒に参加して、選択科目として履修するものです。
その他	履修者は事前に担当教員に相談してください。

授業コード	11094		
授業科目名	関西のことばと文学(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)、渡邊順子(ワタナベ ジュンコ)、安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	講義の前後 その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	<p>関西のことばが使用されている各種の文学作品等に親しみ、関西方言への関心を深める。</p> <p>関西の方言について考えることによって、日本の言語、文化等への理解を深める。</p> <p>関西に関わりのある文学作品に親しむことで、日本文学への関心を深める。</p> <p>関西と関係の深い俳人たちやその作品、阪神大震災に関する俳句などについて鑑賞する。</p>
到達目標	関西の言語や文化について理解を深める。
講義方法	<p>適宜、プリントを配布し、講義スタイルで行う。プリント資料により、学習を深めてほしい。メモを取る習慣をつけること。</p> <p>関西に関連する文学作品などを紹介してゆく。 あわせて、大阪、神戸、京都など関西の諸方言について紹介する。 言語、文学、風土、文化などについて、ともに考えて行きたい。</p>
準備学習	日頃、自分たちの使っている言葉について自省してみる。
成績評価	<p>出席状況とレポートによる。</p> <p>担当教員ごとにレポートを課す。</p> <p>レポートは締め切り日時厳守。</p>
講義構成	<p>1 担当、安井寿枝 6回 文学作品のなかの阪神間 山崎豊子とその作品について 谷崎潤一郎『細雪』と山崎豊子『女系家族』の比較</p> <p>2 担当、渡邊順子 3回 「はんなりしゃんと〜」橋本多佳子・桂信子他(女性俳人たちと作品) 「あたらしものずきの気風」日野草城・西東三鬼・山口誓子(男性俳人たちと作品) 阪神大震災と神戸(俳句の震災関連作品を通して)</p> <p>3 担当、小谷博泰 4回ないし5回</p>

	<p>灰谷健次郎、野坂昭如、田辺聖子などの文学作品と関西方言 関西方言の音韻、語法、語彙</p> <p>この他に地域連携科目としての学外からの講師による講演が1回加わる見込みである。</p>
教科書	適宜、プリントを配布する。
参考書・資料	<p>順次、授業において紹介してゆく。</p> <p>資料は、その気になって意識すれば、ふんだんに存在する。</p> <p>関西方言の話者にとっては、自分がしゃべることば、思ったり考えたりすることばじたいが関西のことばである。</p> <p>CDなどの視聴覚資料を講義にまじえて紹介することがある。</p>
講義関連事項	<p>上方落語、映画、漫画、流行歌等、小説以外にも関西のことばが使われる作品は多いので、関心の対象を広く持ってほしい。</p> <p>CM,インターネットの掲示板、ケータイ・メールなどにも、関西のことばは使われる。</p>
担当者から一言	<p>解答を見つけるための学習だけでなく、課題を見つけるための学習も行いたい。</p>

授業コード	11018		
授業科目名	漢文学Ia (前)		
担当者名	周防朋子(スホウ トモコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜2限

講義の内容	中国古典文学を読むための基礎を身につける。なお、中国思想史及び文学史についても解説したい。漢詩を中心に講義を進めるが、漢文についても触れる予定である。
到達目標	漢詩の規則を理解し、漢詩と日本文学との関係を理解することができる。
講義方法	テキストに従って講義を進め、適宜資料を配布する。(但し、学生を指名して訓読やコメントを求めることがある)
準備学習	日頃から漢和辞典を使って、言葉の意味を調べるようにすること。
成績評価	定期試験[70%]、平常点(授業態度、出席等)[30%]。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 漢詩の規則 2 陶淵明の詩 3 李白の詩 4 杜甫の詩 5 白居易『白氏文集』 6 日本の漢詩文 <p>以上のテーマについて、1～数時間をあてて講義する。 なお、受講生の希望や教員の判断により、順序を変更することがある。</p>
教科書	松浦友久 『漢詩 -美の在りか-』 岩波新書
参考書・資料	授業中に適宜指示する。

担当者から一言	<p>厳しく指導するが、ある程度漢文がよめるように指導するのでついてくること。</p> <p>なお、授業中配布した資料は、再配布しない。</p> <p>4回以上欠席した者の単位は不可とする。</p>
その他	<p>授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切ってかばんの中に入れておくこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる</p>

授業コード	11019		
授業科目名	漢文学Ib (後)		
担当者名	周防朋子(スホウ トモコ)		

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜2限
講義の内容	中国古典文学を読むための基礎を身につける。中国思想史、及び文学史についても解説したい。本講義では、漢文を中心に講義を進めるが、漢詩についても触れる予定である。		
到達目標	諸子百家について理解し、日本文学との関係が理解することができる。		
講義方法	テキストに従って講義を進め、適宜資料を配布する。(但し、学生を指名して訓読やコメントを求めることがある)		
準備学習	日頃から漢和辞典を使って、言葉の意味を調べるようにすること。		
成績評価	定期試験[70%]、平常点(授業態度、出席等)[30%]。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 漢文の訓読について 2 儒家の思想 3 道家の思想 4 法家の思想 5 唐詩 6 白居易『白氏文集』 7 日本の漢詩文 <p>以上のテーマについて、1～数時間をあてて講義する。 なお、受講生の希望や教員の判断により、順序を変更することがある。</p>		
教科書	松浦友久『漢詩 -美の在りか-』 岩波新書		
参考書・資料	授業中に適宜指示する。		
担当者から一言	厳しく指導するが、ある程度漢文がよめるように指導するのでついてくること。 なお、授業中に配布した資料は、再配布しない。 4回以上欠席した者の単位は不可とする。		
その他	授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切つかばんの中に入れておくこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる		

授業コード	11020		
授業科目名	漢文学IIa(前)		
担当者名	本間洋一(ホンマ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
講義の内容	六朝時代に記録された短篇の怪異物語を読み楽しみながら、漢文の訓読・解釈の力を涵養し、作品の背景にある考え方などを明らかにするとともに日本との違いなどについても考えてみたい。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.漢字に対する知識と理解を高めることができる。 2.漢文の基本的な語法を修得し、読解力を高めることができる。 		
講義方法	講読(講義)が中心となるが部分的に指名して訓読や現代語訳をしてもらうこともあるでしょう。		
準備学習	<ol style="list-style-type: none"> 1.テキストの予習や復習につとめてください。 2.授業で採り上げる参考図書に親しんでください。 		
成績評価	前期末に行う試験の結果に出席状況を加味して評価します。		
講義構成	<p>方術と異聞に関わる逸話を読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.六朝志怪小説の世界 2.美女とは？・巨大な猿(麗娟他) 3.術師の能力(徐光他) 4.術師と権力者(1)左慈 5.術師と権力者(2)左慈 6.仙人に気に入られた男(1)壺公 7.仙人に気に入られた男(2)壺公 8.仙人に気に入られた男(3)壺公 9.仙人に気に入られた男(4)壺公 10.予言(韓友・由拳姫) 		

	11.首を飛ばす・異星人(落頭民他) 12.漢武帝と李夫人(1)―愛の妄執― 13.漢武帝と李夫人(2)―愛の妄執― 14.謎解き(費孝先) 15.定期試験
教科書	本間洋一編『中国古小説選』(和泉書院) ¥1500

授業コード	11021		
授業科目名	漢文学IIb(後)		
担当者名	本間洋一(ホンマ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	唐の時代に創作された小説を読みながら、漢文の訓読・解釈力を高めるとともに、作品の背景や構造などについても理解を深めよう。		
到達目標	1.漢字に対する知識と理解を高めることができる。 2.漢文の基本的な語法を修得し、読解力を高めることができる。		
講義方法	講義が中心となりますが、時には指名して訓読や現代語訳をしていただくこともあるでしょう。		
準備学習	1.テキストの予習や復習につとめてください。 2.授業で採り上げる参考図書に親しんでください。		
成績評価	後期末に試験を実施し、その結果と出席状況などを加味し評価します。		
講義構成	恋愛譚を読み。 1.唐代伝奇小説の世界 2.恋の発端(「雀護」1) 3.恋の悩み(「雀護」2) 4.幼なじみの恋(「無双伝」1) 5.恋するゆえの孤独(「無双伝」2) 6.運命の争乱(「無双伝」3) 7.都からの脱出(「無双伝」4) 8.乱後のめぐり合い(「無双伝」5) 9.無双の思慕(「無双伝」6) 10.チャンス(「無双伝」7) 11.無双からの手紙(「無双伝」8) 12.無多奪還作戦(「無双伝」9) 13.古生の智謀(「無双伝」10) 14.辛苦の果てに(「無双伝」11) 15.定期試験		
教科書	本間洋一編『中国古小説選』(和泉書院) ¥1500		

授業コード	11A11		
授業科目名	基礎演習I(N1)(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などで		
-------	--	--	--

	テーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことから、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の決まりや書き方、ゼミで発表するとき配るレジュメ(資料)の作り方、パワーポイントなどを使った発表の仕方を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第0講から第6講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	前期科目である「基礎演習Ⅰ」は、下記教科書の第6講までをあつかいます。 第0講 この本で伝えたいこと: 大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1: 大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2: 役立つノートとは 第3講 テキストの読み方: より深い読解のために 第4講 要約の仕方: 内容本意でまとめる 第5講 きちんと考える方法: 自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用: 図書館探索と資料の検索
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
担当者から一言	今後の学習の基礎となる授業ですから、しっかり取り組んでください。

授業コード	11A12		
授業科目名	基礎演習Ⅰ(N2)(前)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜12時30分～13時		

講義の内容	「基礎演習」では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる「演習」で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学ぶ。 大学の授業、特に「演習」科目では、自主的な学習態度が重視される。「演習」での研究発表は、単に書物の内容をまとめて報告するだけでは十分ではない。図書館などでテーマに沿った情報を探することは大切ではあるが、さらに重要なのは、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、資料を作成して口頭発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業である。自主的に考え、自らの思考を表現するために必要な事項を、20人程度のクラスで実践的に理解し、大学で学ぶための基本的な学習能力を身につけることが、「基礎演習」の目標である。 教材は、専門領域(たとえば近代日本文学)にかかわりがあるものも取り入れて、学問のおもしろさの一端を知る機会としたい。
到達目標	大学で学ぶための基礎的な技能を身につける。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進める。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を行う。ノートの取り方、本の情報のつかみ方、要約や発表の仕方などを学ぶ。同時に甲南大学の図書館で、各種データベースや検索エンジンを使って情報を検索する方法のガイダンスも実施する。
準備学習	設定したテーマについて、関心を持ち、自主的に情報・知識を得るように努力すること。 ネットに依存せずに、書物の検索方法を身につけるよう心がけること。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価する。なお、出席を重視する。
講義構成	前期科目である「基礎演習Ⅰ」は、下記教科書の第6講までをあつかう。 第0講 この本で伝えたいこと: 大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1: 大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2: 役立つノートとは 第3講 テキストの読み方: より深い読解のために

	第4講 要約の仕方:内容本意でまとめる 第5講 きちんと考える方法:自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用:図書館探索と資料の検索
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	各自ファイル等を準備して、配布プリントなどを整理し、演習時にはかならず持参すること。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11A13		
授業科目名	基礎演習I (N3)(前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	火曜日・金曜日昼休み(12:20~12:50) (学生の希望する時間との調整により他の曜日時間でも可)		

講義の内容	<p>大学生活への期待に胸をふくらませている新入生の皆さん、大学の講義は、これまで皆さんが受けてきた授業とは、そのあり方自体が大きく異なっています。大学での学修を意義あるものにするためには、受動的な学習態度から能動的な学習態度への切り替えが、ぜひとも必要です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、そうした切り替えを円滑に行い、専門領域での学修が支障なくおこなえるように、皆さんを導くために設定されています。</p> <p>「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、20名前後のクラスで、ノートの取り方、情報の整理法や検索法、さまざまな文章の読解の技術、要約の方法、自分独自の考え方の創造、レポートや論文の書き方など、理解や表現の基礎的な力をきたえることを目標としています。</p> <p>技術だけを鍛錬するのではなく、基礎演習における課題実習をこなしていくことをとおして、専門領域につながる文章の読解力や、表現力を身につけることも重視しています。ことばによって理解し、ことばによって表現することは、人間力の基本です。同時にそれは、日本語日本文学科の学修の基本に深くかかわっています。また、さらにそれは、実社会で生きてゆくための基本的な力でもあります。</p> <p>課題をこなすうちに、日本語日本文学の専門分野の一端に触れられるような工夫もしたいと考えています。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」が、きびしくも楽しい、充実した修練の場となることを願っています。</p> <p>大学では、〈新たな知の世界〉が皆さんを待っています。その〈知〉を自らの糧とできるよう、この「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を活用してください。</p>
到達目標	大学での学習方法に慣れ、各自の専門とする分野の学習が順調に進むよう必要な知識・方法を身につける。
講義方法	<p>教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。ノート取りの方法、読解の技術、発想法の訓練等を中心にして、図書館ガイダンスも織り込み、各種データベース、検索エンジンなどの使い方を習得し、情報収集能力を磨きます。</p> <p>小レポートや課題が適宜課され、実践の中で、理解し、表現する力を向上させます。</p> <p>毎時間全員に発言の機会を与えるので、常に積極的な態度で臨んでください。</p>
準備学習	毎回終了時に、次回への課題を提示します。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	<p>「基礎演習Ⅰ」では、教科書の第6講までをあつかいます。</p> <p>第0講 4/6:この本で伝えたいこと:大学で何を学ぶのか? 第1講 4/13:ノートの取り方1:大学の多様な授業スタイル 第2講 4/20:ノートの取り方2:役立つノートとは 第3講 4/27,5/11,18:テキストの読み方:より深い読解のために 第4講 5/25,6/1:要約の仕方:内容本位でまとめる 第5講 6/8,15,22:きちんと考える方法:自分の意見を言うために 第6講 6/29,7/6:図書館の利用:図書館探索と資料のまとめ 7/13: (上記日程は変更することがあります)</p>
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)

参考書・資料	適宜、紹介します。
講義関連事項	教科書は第一週(4月10日)から使用するので、事前に購入しておくこと。
担当者から一言	・高校までの、「クラス担任による授業」のような位置づけです。 授業内容はもちろんのこと、学生と教員のコミュニケーションを大切にしたいと思います。 ・資料を整理するA4サイズのファイルを準備してください。 ・教材を工夫して、日本語・日本文学の世界のおもしろさを伝えたいと思います。
その他	担当者連絡先 tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11A14		
授業科目名	基礎演習I (N4)(前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40~10:40		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことから、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。ノートの取り方、本の情報のつかみ方、要約や発表の仕方などを学びます。同時に甲南大学の図書館で、各種データベースや検索エンジンを使って情報を検索する方法のガイダンスも行います。
準備学習	講義構成で示した教科書の第0講から第6講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	前期科目である「基礎演習I」は、下記教科書の第6講までをあつかいます。 第0講 この本で伝えたいこと: 大学で何を学ぶのか 第1講 ノートの取り方1: 大学の多様な授業スタイル 第2講 ノートの取り方2: 役立つノートとは 第3講 テキストの読み方: より深い読解のために 第4講 要約の仕方: 内容本意でまとめる 第5講 きちんと考える方法: 自分の意見を言うために 第6講 図書館の利用: 図書館探索と資料の検索
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	適宜、紹介します。
担当者から一言	「実り」のある大学生生活にするために、ともに頑張ってください。

授業コード	11A21		
授業科目名	基礎演習II (N1)(後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日昼休み、その他は随時研究室に掲示		

講義の内容	<p>大学生活への期待に胸をふくらませている新入生の皆さん、大学の講義は、これまで皆さんが受けてきた授業とは、そのあり方自体が大きく異なっています。大学での学修を意義あるものにするためには、受動的な学習態度から能動的な学習態度への切り替えが、ぜひとも必要です。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、そうした切り替えを円滑に行い、専門領域での学修が支障なくおこなえるように、皆さんを導くために設定されています。</p> <p>「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」では、20名前後のクラスで、ノートの取り方、情報の整理法や検索法、さまざまな文章の読解の技術、要約の方法、自分独自の考え方の創造、レポートや論文の書き方など、理解や表現の基礎的な力をきたえることを目標としています。</p> <p>技術だけを鍛錬するのではなく、基礎演習における課題実習をこなしていくことをとおして、専門領域につながる文章の読解力や、表現力を身につけることも重視しています。言葉によって理解し、言葉によって表現することは、人間力の基本です。同時にそれは、日本語日本文学科の学修の基本に深くかかわっています。また、さらにそれは、実社会で生きてゆくための基本的な力でもあります。</p> <p>課題をこなすうちに、日本語日本文学の専門分野の一端に触れられるような工夫もしたいと考えています。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」が、きびしくも楽しい、充実した修練の場となることを願っています。</p> <p>大学では、〈新たな知の世界〉が皆さんを待っています。その〈知〉を自らの糧とできるよう、この「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を活用してください。</p>
到達目標	大学の授業に関する基礎的なスキルを身につけること。
講義方法	<p>下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、ワープロの高度な活用法、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。</p> <p>小レポートや課題が適宜課され、実践の中で、理解し、表現する力を向上させます。</p>
準備学習	あらかじめ教科書を熟読しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します(欠席が基だしい場合は単位修得が危ぶまれますから注意してください)。また、課題提出も怠らないようにしてください。
講義構成	<p>後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10講までをあつかいます。</p> <p>第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方</p>
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	適宜、紹介します。
担当者から一言	今後、日本文学(近代、古典)、日本語学のいずれを中心に勉強するにしても、必ず知っておくべき基礎的なことを身につける授業ですので、欠席しないよう注意してください。なお、担当者は中世文学が専門なのでその関係の話題が多くなるかも知れませんが、偏りが無いよう配慮します。

授業コード	11A22		
授業科目名	基礎演習Ⅱ(N2)(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後、その他随時		

講義の内容	<p>講義の内容・目的 この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な「学習方法」について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは、大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるといものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、それをプリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基本的なことがらを、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。</p>
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせ

	せませす。レポートや論文の決まりや書き方、ゼミで発表するとき配るレジュメ(資料)の作り方、パワーポイントなどを使った発表の仕方を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート・口頭発表によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10項までをあつかいます。 第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)
参考書・資料	授業中に紹介します。
講義関連事項	なし

担当者から一言	口頭発表の経験を積んでもらいます。人前で話すことは誰でも緊張しますが、伝えたいという気持ちを持つことと、慣れることが大切です。出席を重視しますので、遅刻欠席のないように注意すること。特に自分の発表予定の日は必ず発表すること。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11A23		
授業科目名	基礎演習Ⅱ(N3)(後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)で必要とされる、基礎的で一般的な学習の方法について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのももちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、プリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基礎的なことから、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	後期科目である「基礎演習Ⅱ」は、下記教科書の第7講から第10講までを扱います。 第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版』(北大路書房)

授業コード	11A24		
授業科目名	基礎演習II (N4)(後)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		

講義の内容	この授業では、大学のさまざまな授業、特に2年次から始まる演習(ゼミ)が必要とされる、基礎的で一般的な学習の方法について学びます。大学の授業、特にゼミは、今まで皆さんが受けてきた授業とは大きく異なります。ゼミでの発表は、単に本に書いてあることを報告するだけで終わるというものではありません。図書館などでテーマに沿った情報を探ることが大切なのはもちろんですが、大学ではさらにその先に、調べた内容を整理して自分なりの考えをまとめ、プリントを作って発表したり、レポートの形にまとめたりするという作業があります。こうした一連のプロセスに必要な基礎的なことがらを、20人程度のクラスで学び、大学で学ぶ心構えを身につけてもらおうというのが、この基礎演習という授業です。
到達目標	他者に対して自らの考えを正確に伝えることができる能力を身に付けること。
講義方法	下記教科書の内容にもとづいて進めていきます。それぞれの項目についての概説のあと、課題実習を組み合わせます。レポートや論文の作成法、レジュメ(資料)の作成法、口頭発表の仕方を中心にして、パワーポイントなどについても学び、表現の方法を学びます。
準備学習	講義構成で示している教科書の第7講から第10講の部分にひととおり目を通しておくこと。
成績評価	それぞれの項目についての課題実習・レポート等によって評価します。なお、出席を重視します。
講義構成	後期科目である「基礎演習II」は、下記教科書の第7講から第10講までを扱います。 第7講 レポート・論文の書き方1:基本編 第8講 レポート・論文の書き方2:内容編 第9講 レジュメの作り方:発表のための資料 第10講 ゼミ発表の仕方:聞く気にさせる話し方
教科書	藤田哲也編著『大学基礎講座 増改版－充実した大学生活をおくるために－』(北大路書房)

授業コード	11037		
授業科目名	近世文学研究(近世文学特殊講義)(後)		
担当者名	富田志津子(トミタ シヅコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜1限

講義の内容	昨年度に引き続き、松尾芭蕉の『奥の細道』を読む。 テキストは、影印本を用い、変体仮名を解説する。語彙、事項、時代背景、などを考察しながら、文と句を解釈し、鑑賞する。 昨年度の続きで、今年度は「松島」から始める。
到達目標	近世文学に親しみ、芭蕉の作品の本質を知る。 また、変体仮名の解説にも熟達する。
講義方法	講義形式。ただし、変体仮名解説は、学生にあてるので、予習しておく必要がある。 受講人数によっては、担当を決めて、学生の調査・発表形式にすることもある。
準備学習	授業予定の箇所を、変体仮名で読んでおく。できれば、ノートに翻字し、分からない字をチェックする。 変体仮名解説は、学生にあてて読ませるので、前もって調べておくこと。
成績評価	期末試験、ただし試験も出席も重視する。
講義構成	1, 導入 2, 松島 3, 松島 4, 石巻 5, 平泉 6, 尿前の関 7, 尾花沢 8, 立石寺

	9, 最上川 10, 羽黒 11, 羽黒 12, 酒田 13, 象潟 14, まとめ
教科書	上野洋三編『影印 奥の細道 付参考図集』(和泉書院)
参考書・資料	なし
講義関連事項	なし
担当者から一言	必ず、予習をして、授業を受けて欲しい。
その他	なし

授業コード	11032		
授業科目名	近世文学講読I (前)		
担当者名	森田雅也(モリタ マサヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	『西鶴諸国はなし』巻1と巻2を読む。講義の目的は二つである。一つはテキストに影印本を使用することによって、変体仮名に慣れさせること。また、一つは解釈を検討することによって、当時の読みを再現し、読者の作品受容の在り方を捉え、その上で受講者各自に作品の文芸性について考えさせる。		
到達目標	変体仮名の字母(元字)の修得。変体仮名の翻字。近世文学の時代背景の理解。		
講義方法	講読形式		
準備学習	基本的には本文の字母調べ。授業において随時指示する。		
成績評価	出席点20%試験あるいはレポート80%で総合的に評価する。		
講義構成	以下の章を読む。 1. 『西鶴諸国はなし』と上方 2. 変体仮名と序① 3. 変体仮名と序② 4. 巻1の5「不思議の足音」 5. 巻1の5「不思議の足音」 6. 巻1の5「不思議の足音」 7. 巻1の7「狐四天王」 8. 巻1の7「狐四天王」 9. 巻1の7「狐四天王」 10. 巻2の1「姿の飛のり物」 11. 巻2の1「姿の飛のり物」 12. 巻2の1「姿の飛のり物」 13. 巻2の5「夢路の風車」 14. 巻2の5「夢路の風車」 15. 総説		
教科書	森田雅也編著『西鶴諸国はなし』(和泉書院) ¥1,800 『仮名変体集』(新典社) ¥350		
参考書・資料	随時		
講義関連事項	上方・幽霊・妖怪		
担当者から一言	テキストの文字は読みやすく、変体仮名は一ヶ月もあれば読めるようになります。幽霊・妖怪の話が怖い人は受講しないように。		
その他	質問は授業後かm-morita@kwansei.ac.jp		

授業コード	11033
-------	-------

授業科目名	近世文学講読II(後)		
担当者名	森田雅也(モリタ マサヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	『西鶴諸国はなし』巻4を読む。講義の目的は二つである。一つはテキストに影印本を使用することによって、変体仮名に慣れさせること。また、一つは解釈を検討することによって、当時の読みを再現し、読者の作品受容の在り方を捉え、その上で受講者各自に作品の文芸性について考えさせる。
到達目標	変体仮名の字母(元字)の修得。変体仮名の翻字。近世文学の時代背景の理解。
講義方法	講読形式
準備学習	基本的には本文の字母調べ。授業において随時指示する。
成績評価	出席点20%試験あるいはレポート80%で総合的に評価する。
講義構成	以下の章を読む。 1. 『西鶴諸国はなし』と上方 2. 『西鶴諸国はなし』と百物語① 3. 『西鶴諸国はなし』と百物語② 4. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 5. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 6. 巻4の3「命に替はる鼻の先」 7. 巻4の4「驚くは三十七度」 8. 巻4の4「驚くは三十七度」 9. 巻4の5「夢に京より戻る」 10. 巻4の5「夢に京より戻る」 11. 巻4の6「かなしの大仏」 12. 巻4の6「かなしの大仏」 13. 巻4の7「恋のちらし紋」 14. 巻4の7「恋のちらし紋」 15. 総説
教科書	森田雅也編著『西鶴諸国はなし』(和泉書院) ¥1,800 『仮名変体集』(新典社) ¥350
参考書・資料	随時
講義関連事項	上方・幽霊・妖怪
担当者から一言	テキストの文字は読みやすく、変体仮名は一ヶ月もあれば読めるようになります。幽霊・妖怪の話が怖い人は受講しないように。
その他	質問は授業後かm-morita@kwansei.ac.jp

授業コード	11046		
授業科目名	近代文学研究(近代文学特殊講義)(前)		
担当者名	権藤愛順(ゴンドウ アイジュン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	明治末年の耽美主義文学を学びます。 明治42(1909)年、文芸雑誌「スバル」が刊行されました。雑誌「スバル」に集った青年文学者たちは、西欧世紀末の耽美主義・象徴主義・印象主義などの影響を受けつつ、日本に新しい表現の土壌を拓きました。 耽美主義文学は、西欧の文芸作品はもとより、絵画表現なども積極的に摂取し、実に多様な表現や、ものの見方を文芸の世界にもたらしました。 講義では、毎回実作品を共に読み、明治世紀末の耽美主義文学の多様性を学ぶことを目的としています。文学表現だけではなく、絵画や音楽、明治末年の都市、そこに花咲いた文化なども取り込みながら耽美派の世界を楽しみましょう。
到達目標	近代日本文学の多様な表現を知る。

	文学だけでなく、文学の世界と連動した他分野の様々な表現を身につける。 日本だけではなく、19世紀末のヨーロッパの文学・思想の世界を知る。
講義方法	講義形式。作品に対する意見を求める場合もある。
準備学習	毎回授業終了時に、次回までの課題を配付します。配付された作品は、授業準備として必ず読んでくる事を望みます。
成績評価	出席及びレポート
講義構成	1) 近代耽美主義文学の概要 2) 森鷗外『青年』と世紀末思想 3) 森鷗外「麻睡」と人間の心の世界 4) 印象主義と文学—木下杢太郎を中心に— 5) 本質へと向かう旅—明治末年の追憶文学— 6) 五感の交響—北原白秋の詩を読む— 7) 耽美派とアール・ヌーヴォー 8) 癒しの室内から都市の楽しみへ—耽美派と都市表現Ⅰ 銀座— 9) 塔から見下ろす都市と貧民の街—耽美派と都市表現Ⅱ 浅草— 10) 悪魔主義の誕生—谷崎潤一郎の登場—
教科書	なし。授業中にプリントを配布する。
参考書・資料	なし。授業中にプリントを配布する。
講義関連事項	特になし
担当者から一言	明治末年の耽美主義文学は、20代前半の青年たちが中心となった文学運動です。小説や詩を読むだけではなく、様々な視覚あるいは聴覚表現なども合わせて共に味わいましょう。
その他	特になし

授業コード	11038		
授業科目名	近代文学講読I(前)		
担当者名	田口道昭(タグチ ミチアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	与謝野晶子の短歌を読む。「その子二十櫛に流るる黒髪のおごりの春のうつくしきかな」や「やは肌のあつき血潮にふれも見でさびしからずや道を説く君」で知られる与謝野晶子は、古典的な和歌から近代短歌へとジャンルの更新に大きな役割を果たした歌人である。この講義では、与謝野晶子の歌のキーワードとなる言葉を中心に、第一歌集『みだれ髪』をはじめ、代表的な歌を分析、鑑賞する。また、古典和歌や晶子以降の女性歌人にも触れる。
到達目標	近代の女性が表現したものが何であったかを知るとともに、短歌の解釈と鑑賞を通じて、日本文学や日本語に対する感性を磨く。
講義方法	講義は、与謝野晶子の短歌一つ一つの表現に注釈を加えて、読み解いていくと同時に、古典和歌や晶子以降の歌人たちの歌との比較のなかからその特質を明らかにしていきたい。
準備学習	授業で取り上げる短歌について、まず自分なりに理解し、鑑賞すること。
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。出席は、毎回とる。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての確に理解できているかどうかを評価する。
講義構成	第1回 与謝野晶子紹介 第2回 キーワード(以下同じ)・春 第3回 恋 第4回 髪 第5回 性 第6回 仏教 第7回 先達 第8回 花 第9回 星

	第10回 友 第11回 京都 第12回 旅 第13回 故郷・母 第14回 家族・生活 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。
教科書	資料を配布する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	11039		
授業科目名	近代文学講読II (後)		
担当者名	田口道昭(タグチ ミチアキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	正岡子規とその周辺について考える。子規といえば、「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」などの俳句や「くれなゐの二尺のびたる薔薇の芽の針やはらかに春雨の降る」などの短歌をはじめ、近代の俳句や短歌の革新や「写生文」を主張して、近代的な新しい文章を作る上でも大きな役割を果たしたことで知られる。この講義では、子規の作品を鑑賞するとともに、子規とその周辺を探りつつ、子規が文学史上に果たした意義について考えてみたい。
到達目標	正岡子規の仕事を検討することを通して、近代の短歌や俳句、文章の革新とはどのようなものであったか、考えることができる。また、短歌や俳句の鑑賞を通じて、日本文学や日本語に対する感性を磨くことができる。
講義方法	講義は、一つ一つの作品の表現に注釈を加えて、読み解いていくと同時に、古典和歌や晶子以降の歌人たちの歌との比較のなかからその特質を明らかにしていきたい。
準備学習	授業で取り上げる俳句や短歌について、まず自分なりに理解し、鑑賞すること。
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。出席は毎回出席とする。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての確に理解できているかどうかを評価する。
講義構成	第1回 はじめに・正岡子規について 第2回 子規と芭蕉 第3回 子規と蕪村 第4回 子規と古今集・紀貫之 第5回 子規と源実朝 第6回 子規と万葉集 第7回 子規の周辺の人々(1) 第8回 子規の周辺の人々(2) 第9回 子規と高浜虚子 第10回 子規と長塚節 第11回 子規と伊藤左千夫・長塚節 第12回 子規と斎藤茂吉 第13回 映像の中の正岡子規 第14回 子規と夏目漱石 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。
教科書	資料を配布する。
参考書・資料	適宜指示する。

授業コード	11040		
授業科目名	近代文学講読III (前)		
担当者名	太田路枝(オオタ ミチエ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
講義の内容	<p>明治、大正期の文学作品を精読します。精読とは、ストーリーの展開を楽しむ一般的な読書とは異なり、細部に注意を払い、一語一句あますことなく確認しながら丁寧に読むことです。また、作品の背景を念頭におき、時を経た2010年の視点から作品を分析します。</p> <p>泉鏡花、樋口一葉、夏目漱石、森鷗外の作品を扱います。</p>		
到達目標	<p>明治・大正期の文学作品を研究対象として読み、オリジナリティのある解釈ができるようになることを目指します。</p>		
講義方法	<p>講義を中心とします。発言や小レポートで意見を求めることもあります。また、映像化された作品を鑑賞する機会をもうけます。</p>		
準備学習	<p>最低限、講義で扱う作品に目を通しておきましょう。次回の授業までに課題を与える場合もあります。</p>		
成績評価	<p>平常点(講義への取り組み・小レポート等)とレポートによって評価します。</p>		
講義構成	<p>泉鏡花「外科室」 樋口一葉「にごりえ」 夏目漱石「夢十夜」 森鷗外「高瀬舟」 一つの作品に、二回から四回の講義をあてる予定です。</p>		
教科書	<p>なし。プリントを配布します。</p>		
参考書・資料	<p>講義中に指示します。</p>		
担当者から一言	<p>文学の世界を通して、少し昔の日本を愉しみましょう。</p>		

授業コード	11041		
授業科目名	近代文学講読IV(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	<p>一葉の文学 —「女と女」の関係を軸として—</p> <p>樋口一葉の生涯は、短く激しいものでした。そして、一葉の小説には、社会における格差の問題、恋の苦悩、家族の問題などが追及されており、この世に生きる人々の様々な苦しみ、美しい文体で描かれています。こういった問題をとらえながら、今年度は特に、一葉の小説に描かれた、「女と女」の間にある格差や抑圧の問題を軸として考えていきます。</p>		
到達目標	<p>樋口一葉の生涯と作品を学び、一人の作家の世界を総合的にとらえ、考察することができること</p>		
講義方法	<p>教科書の他、写真や映像、朗読テープなど、視聴覚教材も用います。随時、意見や感想などを書いたり発表したりしてもらいます。それらも成績に加味する予定です。教科書や、配布するプリントなどをよく読んでおくこと。</p>		
準備学習	<p>教科書を読んでおくことが望ましい。</p>		
成績評価	<p>レポート(50%)、提出物・出席・授業態度等(50%)によって評価します。3分の2以上の出席をしなければ成績を評価しません。</p>		
講義構成	<p>(1) 樋口一葉の生涯 (2) 「大つごもり」(明治27年12月) (3) 初期作品の世界—「大つごもり」まで— (4) 「たけくらべ」(明治28年1月) (5) 晩年の作品—「うらむらさき」(明治29年2月)と「われから」(明治29年5月)— (6) 一葉の日記</p> <p>※各テーマ、1～3回の講義をあてる予定です。都合により内容を一部変更することもあります。</p>		
教科書	<p>樋口一葉・岡田八千代校註『たけくらべ・にごりえ』(角川文庫クラシックス 昭和43年7月初版)</p>		
参考書・資料	<p>教科書にない作品については、プリントを配布します。参考文献は授業中に紹介します。</p>		
講義関連事項	<p>特になし</p>		

担当者から一言	一葉の作品は、擬古文で書かれているため少し読みにくいと感ずるかもしれません。しかし、注釈を見ながら声に出して読めば、十分理解できるでしょう。言葉の壁を越えたところにある豊かな世界を見つけてください。
その他	特になし
ホームページタイトル	特になし

授業コード	11F11		
授業科目名	研究演習 (L1)(後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜日9:40～10:40		

講義の内容	卒業研究をより実りのあるものにするための実践的演習。 日本上代文学の諸作品について、どのような切り口から分析することができるのかを、参加者全員で共に考えて行きたい。		
到達目標	一昨年度の演習Ⅰ、昨年度の演習Ⅱ、それぞれにおいて得た知見を、各自で広め深めておくこと。		
講義方法	参加者各自の発表、および、それに基づく参加者間の討議。廣川も全般にわたり討議に加わり指導する。		
準備学習	各自が見出した研究テーマを見直しておくこと。		
成績評価	参加者各自の発表内容、および、他の参加者の発表のおりにどう有効な提言を為すことができたかを、総合的に判断する。		
講義構成	参加者各自が卒業研究で扱う内容についての発表をおこない、その発表について具体的に指導する。また、参加者も有効な提言をするように努める。 適宜、資料の集め方、論文の書き方についても指導する。		
教科書	この演習を円滑に運営すべく、適宜プリントを配布する。		
参考書・資料	適宜、紹介する。		
担当者から一言	4年生の諸君、卒業論文を納得いく形で仕上げるために、共に頑張ろう。		

授業コード	11F12		
授業科目名	研究演習 (L2)(後)		
担当者名	田中貴子(タナカ タカコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜昼休み、そのほかは随時研究室に掲示		

講義の内容	古代から中世(テーマによっては近世も含む)の散文文学や文学と宗教、文学と絵画などのテーマで卒業論文を作成する受講者を指導する。		
到達目標	卒業論文を提出すること。		
講義方法	前期には授業が設定されていないが、 1. 卒論題目決定の際、 2. 夏期休業前の相談、 3. 夏期休業後の報告、 の3点については、必ず担当者にあらかじめアポイントメントをとった上で相談すること。メールでもよい。 後期にはテーマごとに数人ずつ班を組み、田中貴子研究室にて面談する。質問等があれば随時メールで受け付ける。メールアドレスは受講者のみに知らせる。		

準備学習	適宜指示する。
成績評価	日常の勉学態度、ならびに提出された卒業論文によって評価する。
講義構成	「講義方法」の項目を参照のこと。 前期の相談時期については担当者の研究室ドアに掲示するので必ず確認すること。また、アポイントメントの取り方についても掲示するので、四月初旬には確認すること。 おおまかなスケジュールは以下の通り。 1, 四月から五月初旬にかけて→題目決定 2, 夏期休業前→夏期休業中に行うべき作業や読むべきものについての指示。 3, 夏期休業後(九月末)→夏期休業中の進捗状況の報告。 4, 10~11月→適宜相談。ひたすら調べ、書くこと。 5, 12月末→下書き完成をめどとする。 6, 1月→提出(提出のための注意事項が掲示されるので確認すること) 7, 2月→口頭試問 8, 3月→合格の場合のみ、晴れて卒業認定！
教科書	石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書。 必ず各自購入し、あらかじめ読んでおくこと。引用のしかた、注の書き方などが丁寧に記述してある。こうしたことについては、授業での講義はしない。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	卒業論文に関する参考文献のデータなどを記すノート等を用意しておくこと。
担当者から一言	就職活動などで多忙であると思うが、卒業論文は後期からやれば間に合うなどという安易な気持ちは捨てること。必ず、前期から取り組むように。

授業コード	11F13		
授業科目名	研究演習 (L3)(後)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	授業終了後等		

講義の内容	卒業論文のテーマを決定し、受講者の報告、口頭発表を中心に指導を行います。
到達目標	必要な手順をふんで、報告を行いながら、卒業論文を完成できること。
講義方法	卒業論文のテーマに関する報告・発表を中心とし、関連する文献、作品も読む。
準備学習	資料調査、参考文献の精読、発表内容の文章化等
成績評価	出席、卒論への取り組み方、発表などを総合的に判断する。
講義構成	・卒業論文の構成の検討 ・報告 ・口頭発表
教科書	授業開始時に伝える。
参考書・資料	授業の中で紹介する。

担当者から一言	前期から随時指導します。必ず前期から取り組み、進めていくこと。
---------	---------------------------------

授業コード	11F14		
授業科目名	研究演習 (L4)(後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	4年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	4年間の勉学の集大成としての卒業研究(卒業論文)作成に必要な実践的知識を講義するとともに、受講者の研究テーマについての中間報告を中心に進める。 それぞれの研究テーマについて、受講者全員が関心を持って、切磋琢磨しながら論文を完成することができるようにしたい。
到達目標	卒業研究の作成に必要な実践的知識を身につける。
講義方法	論文作成に必要な知識を伝えるとともに、受講者が研究テーマについて中間報告を行う。
準備学習	卒業研究に必要な文献を収集し、ノートを取り、問題点、研究テーマを明確に把握できるようにふだんから研鑽を怠らないようにつとめる。
成績評価	出席および、中間報告(発表)によって行う。
講義構成	1卒業論文のアウトラインの検討 2中間報告(1回目) 3中間報告(2回目) 4卒業論文の書式等の指導 * 講義開始までに各自、卒業論文のアウトライン(目次案、および内容の概略)を示せるように準備しておくこと。 * 中間報告の際は、資料を準備すること。
教科書	なし。
参考書・資料	適宜指示する。
講義関連事項	特になし。
担当者から一言	「研究演習」開始までにテーマを明確にして、資料収集等準備作業に取り組むこと。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。

授業コード	11F15		
授業科目名	研究演習(L5)(後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	卒業論文のテーマを決め、形式・内容について指導します。
到達目標	卒業論文を完成させる。
講義方法	各自の卒業論文のテーマに関する発表が中心。参考のために、課題作品の精読も平行して続けます。
準備学習	論文の構想をまとめ、発表の準備をする。
成績評価	出席と発表
講義構成	出席者に応じて変化する。
教科書	特になし

授業コード	11F16
-------	-------

授業科目名	研究演習 (J1)(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日3限、火曜日4限・水曜2限、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	文学作品、および各種言語資料の国語学的研究
到達目標	論文の作成
講義方法	作品分析の実習、および各自の口頭発表
準備学習	夏休みの課題としてのレポート提出
成績評価	発表とレポートによる。
講義構成	テキストにより、文章・文体についての国語学的な調べ方を学ぶ。 日本の近代現代、古典の文学作品や、各種の非文学的言語資料について、国語学的な側面から調べて考察する。 必要に応じ、文学的研究、歴史学的研究も参考にし、文化、民俗、環境などとの関係も考えながら調べを進めたい
教科書	授業開始時に伝える予定
参考書・資料	甲南大学図書館、日本語日本文学科共同研究室 大阪府立図書館、兵庫県立図書館などにはやく慣れておくこと。
講義関連事項	11月の中ごろまでに卒業論文の下書きの段階に入るよう、 12月中旬には一応の下書きを仕上げるよう望まれる。 そのためには、9月末までに、夏休みの宿題として、中間報告をまとめておくこと。

担当者から一言	映画、まんが、CM、ケータイ、掲示板、アニメなど、 ことばがあれば、それを「ことば」と意識すれば、何でも 日本語学の研究資料となる。
その他	欠席する場合は、あらかじめメールなどの方法で連絡すること。

授業コード	11F17		
授業科目名	研究演習 (J2)(後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	金曜日 昼休み		

講義の内容	卒業研究(卒業論文)作成のための全体指導および個別指導を行なう。 卒業研究のための調査(資料収集)等は、この演習が始まる(後期開始)までに終わっておくこと。 したがって、調査に関する指導は、前期中にオフィスアワーや、別途指示する時間に行なう。
到達目標	各自の選んだ課題に沿って、卒業研究を完成させる。
講義方法	論文作成指導。
準備学習	毎時、個人ごとに、次回までに準備しておくべき課題を提示する。

成績評価	総合的に評価する。
講義構成	各個人・グループの、調査・研究の進捗状況に応じて、相談を受け、アドバイスをする。
教科書	使用しない。
参考書・資料	随時紹介・配付する。
講義関連事項	日本語学科目で未履修のものがあれば併せて受講すること。

授業コード	11F18		
授業科目名	研究演習 (J3)(後)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	木曜日14:40~16:10		

講義の内容	卒業論文作成のために、テーマの設定の仕方、先行研究参照の仕方、論文の執筆方法等を学ぶ。
到達目標	卒業論文の形式について学び、各自のテーマをもとに論文を執筆する。
講義方法	演習参加者が各自の卒業論文テーマに沿って発表を行い、全体で討議する。
準備学習	演習Ⅰ、演習Ⅱで扱った、日本語に関する諸問題の中から、自身の卒業論文のテーマを設定し、関連する先行研究について調べておく。
成績評価	演習への参加状況(発表内容、出席状況を含む)。
講義構成	過去二年間にわたって演習で考えた以下のようなテーマを発展させて扱う予定。 (1)複合格助詞について (2)副詞について (3)擬音語・擬態語について (4)類義表現について (5)敬語について (6)慣用句について (7)ことばの変化について 以上のテーマに限らず、各人の興味に沿ったテーマを扱う。
教科書	プリント資料
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学に関する科目。

担当者から一言	卒業論文についての相談は随時受けますので、E-mailで日時を相談してください。
その他	他の履修者の発表からも自分の研究に対するヒントを見つけてください。

授業コード	11069		
授業科目名	言語学概論I(前)		
担当者名	久後貴行(クゴ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	普段何気なく使っていることばですが、よく見るとそこに驚くべき仕組みを見いだすことができます。この授業では、ことばとはどのようなものか、そしてことばについて考察する言語学とは何なのかについて学びます。例は主に日本語や英語を用いますが、そのような個別の言語に限定されない、ことば一般に当てはまる概念や考え方を扱います。
到達目標	日本語や英語などの個々の言語にそれぞれ文法はありますが、それらをより高所から眺めた、ことば一般に広く当てはまる概念や考え方を学びます。さまざまなことばに見られる多様性、そして多様性の中にも観察される一貫性を発見することになるでしょう。
講義方法	主に講義形式で、教科書に沿って、ポイントを整理しながら進めて行きます。時には教科書にはない練習問題も解きながら進める予定です。
準備学習	特に何かの語学を専攻している必要はありませんが、一見身近で当たり前のように思える言語現象をきちんと

	考察するという粘り強さは必要です。 毎回、教科書10ページ程度進みますので、その箇所は熟読して出席して下さい。
成績評価	定期試験70%、授業内での積極的関与度30% 10回以上授業に出席しなければ、成績評価しません。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 言語学の基本概念 第5回～第7回 語の構造 第8回～第11回 文の構造 第12回～第14回 語の意味 第15回 試験
教科書	『言語学[第2版]』、風間喜代三他著、東京大学出版会
担当者から一言	言語学はことばという非常に身近な対象を、同じことばによって説明しようという学問分野です。時に難しいところもありますが、言語学以外の問題を考えるためのヒントもたくさん含まれています。好奇心旺盛な方の参加を期待しています。

授業コード	11070		
授業科目名	言語学概論II(後)		
担当者名	久後貴行(クゴ タカユキ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	普段何気なく使っていることばですが、よく見るとそこに驚くべき仕組みを見いだすことができます。この授業では、ことばとはどのようなものか、そしてことばについて考察する言語学とは何なのかについて学びます。例は主に日本語や英語を用いますが、そのような個別の言語に限定されない、ことば一般に当てはまる概念や考え方を扱います。		
到達目標	日本語や英語などの個々の言語にそれぞれ文法はありますが、それらをより高所から眺めた、ことば一般に広く当てはまる概念や考え方を学びます。さまざまなことばに見られる多様性、そして多様性の中にも観察される一貫性を発見することになるでしょう。		
講義方法	主に講義形式で、教科書に沿って、ポイントを整理しながら進めて行きます。時には教科書にはない練習問題も解きながら進める予定です。		
準備学習	特に何かの語学を専攻している必要はありませんが、一見身近で当たり前のように思える言語現象をきちんと考察するという粘り強さは必要です。 毎回、教科書10ページ程度進みますので、その箇所は熟読して出席して下さい。		
成績評価	定期試験70%、授業内での積極的関与度30% 10回以上授業に出席しなければ、成績評価しません。		
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～第4回 文の意味 第5回～第7回 言語の多様性 第8回～第10回 言語の変化 第11回～第14回 言語の音 第15回 試験		
教科書	『言語学[第2版]』、風間喜代三他著、東京大学出版会		
担当者から一言	言語学はことばという非常に身近な対象を、同じことばによって説明しようという学問分野です。時に難しいところもありますが、言語学以外の問題を考えるためのヒントもたくさん含まれています。好奇心旺盛な方の参加を期待しています。		

授業コード	11063		
授業科目名	現代日本語研究I(前)		
担当者名	吉岡鎮香(ヨシオカ シズカ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	社会ではあらゆる場面で、その場にふさわしい形式・文体の表現が求められる。 大学生活や社会生活で必要とされる日本語表現を、文章と口頭の両面から実践的に学ぶ。		
到達目標	社会で通用する日本語表現は一日にしてならず。毎日使いこなしてこそ、大切な場面で実力発揮できる。		
講義方法	前半は講義と実践学習形式。後半はグループワークと発表形式。		
準備学習	毎回の講義時に指示する。		
成績評価	小テスト、発表、出席率 講義回数の3分の1以上欠席したものは失格。		
講義構成	講義構成 第1回 講義の説明・小テスト 第2～第6回 敬語について(間違いやすい敬語・接客用語など) 第7～第10回 手紙の書き方(葉書と封書・公用文・案内状) 第11～第15回 グループまたは個人による発表		
教科書	随時プリントを配布。		

授業コード	11064		
授業科目名	現代日本語研究II(後)		
担当者名	辻加代子(ツジ カヨコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	本講義では、現代日本語に関わる研究項目のうち敬語に焦点をあて、特に地域社会の言語生活において大きな役割を果たしている方言敬語についての理解を深めることを目指す。中央語の敬語の歴史の変遷に関しても基本的事項を説明する。近畿中央部をはじめ各地で行われた方言敬語にかかわる調査・研究について紹介し、身近な方言敬語独自の機能や運用について受講生とともに考える。		
到達目標	1.現代において規範とされている標準語の敬語の意味・機能・運用について説明できる。 2.中央語の敬語の歴史の変遷の概略を説明できる。 3.方言敬語研究の概略について理解できる。 4.全国の方言敬語の分布と地域差について概略を説明できる。 5.敬語調査の方法について理解し、簡単な調査票の作成、得られた結果の分析を行うことができる。 6.母方言の敬語について具体的、客観的に説明できる。		
講義方法	基本的に講義形式によるが、受講生によるアンケート調査・面接調査などの実習、および調査結果の分析などの作業を取り入れる。		
準備学習	授業中に示す参考図書や参考論文は積極的に読むようにすること。		
成績評価	出席20%、小レポートと報告30%、期末テスト50%		
講義構成	第1回 イントロダクション:講義内容、授業方針等について説明する。 第2回～第3回 敬語の基礎知識:現代標準語の敬語の分類、意味・機能・運用の概要説明。 中央語の敬語の歴史等につき概略を説明する。 第4回 現代方言敬語の基礎知識:方言敬語の分布状況や地域差について説明する。 第5回～第6回 方言敬語研究の方法:主要な敬語調査の方法論と調査結果について説明する。 第7回～第12回 方言敬語の実際:方言敬語使用が盛んな関西地方における使用実態の詳細、 その他の特徴的な方言敬語の実際について説明する。 受講生が自身の場面に応じた敬語行動を調べ、報告する。 第13～第14回 方言敬語の役割:標準語の敬語や世界諸言語の敬語的表現と比較、対照し、 方言敬語の役割について考える。 第15回 まとめ		
教科書	指定しない。配布プリントを用いる。		
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。		

担当者から一言	普段の日常使っている言葉を見つめ直すことにより、日本語の中の多様性に気づき、その多様性を客観的データを用いて整理していける力を養ってほしい。
---------	--

授業コード	11047		
授業科目名	現代文学研究(現代文学特殊講義)(後)		
担当者名	諸岡知徳(モロオカ トモノリ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜4限
オフィスアワー	なし		

講義の内容	現在では物語と声は切り離せないものだといえる。物語とはその字義通り、近代以前には声に出して語るという行為と分かち難く結びついていた。近代に入って文学の世界では音読から黙読へという受容の変容があり、物語ということばが概念的なものとなっていった。近代化のメディアの拡大が音声文化から文字文化への移行を加速させたともいえよう。ただ、演劇や大衆芸能では物語と声の関係は続いていた。さらに、トーキー映画の登場によって、映画などのマスメディアは、そうした大衆文化の文脈を継承しつつ、近代の物語と声とを結びつける、大きな役割を果たしたといえる。声を伴うマスメディアの影響は、テレビという形で戦後も継続されて、普及した。こうした文化的な歴史の流れのなかで、声と物語の関係について、さまざまな問題を考えていきたい。
到達目標	音・声がさまざまな物語と結びつき、独自の表現をもつこと、および音・声と物語の結びつきがどのようにして可能になったのか、について理解を深めること。
講義方法	授業形式での講義(パワーポイント使用)。講義は時間通りに始めるので、遅刻はしないこと。
準備学習	特になし。日頃からさまざまなメディアにおける音・声に関心をもっておくこと。
成績評価	成績評価は2度のレポートを主にして(60%程度)、出席状況・受講態度など(40%程度)を参照する。レポートの提出日時、課題は講義時に連絡する。
講義構成	テーマ : 物語の声／声の物語 取り上げる内容は、以下に記す通り。 ① 小説、詩など ② コミック ③ 映画 ④ テレビドラマ ⑤ アニメ 以上の項目について、物語と声の関する諸問題を中心に講義を行う予定。
教科書	必要時に随時プリントを配布する。
参考書・資料	必要がある場合は、講義中に指示する。
講義関連事項	特になし

担当者から一言	各講義の内容は関連することが多いため、欠席が多いと内容の理解に支障が出ることもある。なるべく欠席しないように心掛けてください。
その他	なし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11042		
授業科目名	現代文学講読I(前)		
担当者名	岩見幸恵(イワミ サチエ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限

講義の内容	村上春樹の短篇小説集『東京奇譚集』を中心に取り上げる。作家の経歴、作品の事件的背景、引用、地図等について考察し、最新作『1Q84』やその他の短篇小説集と比較する。
-------	---

到達目標	日本近代文学・現代文学に限らず文学・芸術全般において優れた読者・鑑賞者となる。
講義方法	授業方式で講義を行なう。最初は作家の伝記的問題を検討し、その後に作品集及び収録作品の梗概を把握。その後ディテールについて論じる。
準備学習	シラバスに記した作品集の中の何れか1作品以上を読むこと。また第一印象を大事にするためにメモを残すこと。
成績評価	期末試験(40%)、レポート(40%)、出席率(20%)によって総合的に評価する。10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	1、オリエンテーション 2、作者の伝記 3、短篇集の構成 4、『螢、納屋を焼く・その他の短編』 5、『神の子どもたちはみな踊る』 6、『象の消滅』 7、『めくらやなぎと眠る女』 8、『東京奇譚集』①「偶然の旅人」 9、『東京奇譚集』②「ハナレイ・ベイ」 10、『東京奇譚集』③「どこであれそれが見つかりそうな場所で」 11、『東京奇譚集』④「日々移動する腎臓のかたちをした石」 12、『東京奇譚集』⑤「品川猿」 13、連作としての意味 14、『1Q84』について 15、まとめ
教科書	村上春樹『東京奇譚集』(新潮文庫、420円)
参考書・資料	作品に関する研究書と論文。
講義関連事項	適宜プリントを配布する。授業に繰り返し使用するので、各自ファイリングし毎回持参すること。
担当者から一言	提出物は自ら学習した証です。確実に提出すること。

授業コード	11043		
授業科目名	現代文学講読II(後)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	「庭」をあつかった作品を比較検討することで、近現代の作品を作家や作品別ではなくテーマやイメージを手がかりに読む読み方の実践に触れることが目的です。そのプロセスを通して、文学研究と精神分析の関連も考えていきたいと思います。何らかの精神分析の理論的なモデルに当てはめるといふより、個々のイメージの豊かさを探求することを心がけようと思います。扱う作品は、現実とは違う異世界へ入っていくというパターンのものが中心です。ただの異世界ではない。我々の心の中とリンクしているような世界です。そこで主人公らは外的な様々な行動や事件を経験するだけでなく、それよりもむしろ心理的な様々な感情の揺れに動かされます。作品の一部あるいは全体を読みながら、そのような点を考えていきます。
到達目標	大学で文学作品を読むという作業がどのようなものかを理解する。
講義方法	いくつかの作品を順に扱います。その週にやる部分について、出席者に意見を求め、それにコメントを加えています。必要に応じ、パワーポイントやプリントで解説します。
準備学習	授業で読む作品を精読し、コメントを考える。
成績評価	レポートを中心に、出席、授業中のコメント等を加味
講義構成	1. 庭をあつかった短編 ポー「アルンハイムの庭」、佐藤春夫「西班牙犬の家」など 2. 梨木香歩『裏庭』 3. 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』第1部 こうした作品を中心に、他の作品も随時プリントなどで配布する予定です。
教科書	梨木香歩『裏庭』(新潮文庫) 村上春樹『ねじまき鳥クロニクル』第1部、泥棒かささぎ編(新潮文庫)

授業コード	11044		
授業科目名	現代文学講読Ⅲ(前)		
担当者名	重松恵美(シゲマツ エミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	「現代文学におけるユーモア」 ユーモアのある文学作品は、私たちの生活を豊かなものにします。辛さ苦しさの中にも、ユーモアは見出されます。ユーモアは一体どこから生まれてくるのか。現代の小説およびエッセイを読みながら考えてみましょう。
到達目標	1. 読解力(各論) 作品をていねいに読み、理解する。 2. 思考力(各論) 作品について、受講生一人一人が考える。 3. 文章力(各論) 作品について考えたことを、レポートにまとめる。 4. 思索力(総論) 現代社会における文学の意義について考察する。
講義方法	講義(作品解説)とレポート執筆 *レポートについて 授業時間中にレポート執筆の時間をとります。 レポートの執筆途中に授業終了時間を迎えた人、および、レポート執筆日(全5回)に欠席した人は、自宅等で書き上げて、後日提出してください。 *テキストについて 『モノレールねこ』『イン・ザ・プール』『とっても不幸な幸運』の3冊はテキスト指定(要購入)。 その他の作品はプリント配布です。
準備学習	授業の予習復習として、授業時間以外にも作品を読む時間をつくるように心がけてください。読書の習慣がない人は、毎日15分、週に2時間(毎日10ページ、週に短編を1~2編)を目標にして、日々の生活の中に読書の時間を組み込んでください。 テキスト3冊はいずれも短編連作で読みやすいものです。3冊とも入手し、学期末までに読了してください。
成績評価	レポート15点×5回、小レポート1点×10回、出席1点×15回
講義構成	第1~2回 香月日輪(こうづき・ひのわ)『妖怪アパートの幽雅な日常 1』2003年 第3~4回 田中啓文(たなか・ひろふみ)『ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰』2004年 第5~7回 加納朋子(かのう・ともこ)『モノレールねこ』2006年 第8~10回 奥田英朗(おくだ・ひでお)『イン・ザ・プール』2002年 第11~13回 畠中恵(はたけなか・めぐみ)『とっても不幸な幸運』2005年 第14~15回 高野秀行(たかの・ひでゆき)『怪魚ウモッカ格闘記 インドへの道』2007年
教科書	加納朋子『モノレールねこ』文春文庫、税込530円 奥田英朗『イン・ザ・プール』文春文庫、税込530円 畠中恵『とっても不幸な幸運』双葉文庫、税込619円
参考書・資料	香月日輪『妖怪アパートの幽雅な日常 1』講談社文庫 田中啓文『ハナシがちがう! 笑酔亭梅寿謎解晰』集英社文庫 高野秀行『怪魚ウモッカ格闘記』集英社文庫
担当者から一言	現代文学とは、有体に言えば私たちの娯楽です。そして、現代文学を楽しく味わうことで、活字に日々親しむようになり、あらゆる学問の基礎となる読書の習慣を身につければ、これは一生の財産です。この授業を通じて、皆さんの日々の生活に何らかの変化が訪れることを期待しています。

授業コード	11045		
授業科目名	現代文学講読Ⅳ(後)		
担当者名	重松恵美(シゲマツ エミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	「長編小説濫読」 現代小説の楽しみといえば、時間を忘れ、寝食を忘れて、長編小説をむさぼり読む! これに尽きるのではない
-------	--

	でしょうか？ 読者を夢中にさせる長編小説の魅力に迫ってみたいと思います。
到達目標	1. 読解力(各論) 作品をていねいに読み、理解する。 2. 思考力(各論) 作品について、受講生一人一人が考える。 3. 文章力(各論) 作品について考えたことを、レポートにまとめる。 4. 思索力(総論) 人間にとって文学とは一体何なのかを追究する。
講義方法	講義(作品解説)とレポート執筆 1. レポートおよび小レポートについて 授業時間中にレポートもしくは小レポート執筆の時間をとります。 レポート(全3回)の執筆途中に授業終了時間を迎えた人、および、レポート執筆日に欠席した人は、自宅等で書き上げて、後日提出してください。 2. テキストについて 授業ではプリントを配布し、各作品について幾つかの場面を紹介・解説します。全受講生に共通のテキスト購入はありません。ただし、対象作品のうち1作品を各自選んで入手し、その作品については授業時間外に通読してください。 3. 最終レポートについて 最終レポートは、各自が読了した作品と、配布プリント、授業ノート、国語辞典等を持ち込んでの論述試験とします。 なお、この授業におけるすべてのレポートは、講義(教員による解説)のまとめではなく、受講生各自の意見表明であることに留意してください。
準備学習	授業の予習復習として、授業時間以外に作品を読む時間を確保してください。 『グイン・サーガ』『傭兵ピエール(全2冊)』『新・三銃士(全2冊)』『夢は荒れ地を』『闇の子供たち』のいずれかを入手し、学期末までに読了してください。『グイン・サーガ』については、ハヤカワ文庫1～16巻もしくは新装版全8巻で読了とみなします。
成績評価	レポート20点×3回、小レポート1点×10回、最終レポート15点、出席1点×15回
講義構成	第1～3回 栗本薫(くりもと・かおる)『グイン・サーガ』全130巻+外伝21巻 1979～2009年 第4～7回 佐藤賢一(さとう・けんいち)『傭兵ピエール』上下巻、1996年 第8回 藤本ひとみ(ふじもと・ひとみ)[原作 A・デュマ]『新・三銃士 ダルタニャンとミラディ』少年編、青年編、2008年 第9～12回 船戸与一(ふなど・よいち)『夢は荒れ地を』2003年 第13回 梁石日(ヤンソギル)『闇の子供たち』2002年 第14回 レポートの書き方についての解説と、最終レポートの執筆 第15回 関連作品(映像資料含む)紹介
教科書	指定テキスト(受講生全員購入)なし。参考書5点のうち任意の1点を入手(購入)すること。 なお、出版社の在庫状況(9月時点)により一部作品を変更する場合があります。
参考書・資料	栗本薫『グイン・サーガ』ハヤカワ文庫、1～16巻各巻609円(税込) 栗本薫『グイン・サーガ』早川書房(新装版)、全8巻各巻945円(税込) 佐藤賢一『傭兵ピエール』集英社文庫、上巻740円(税込)、下巻680円(税込) 藤本ひとみ、原作A・デュマ『新・三銃士 ダルタニャンとミラディ』講談社文庫、少年編840円(税込)、青年編660円(税込) 船戸与一『夢は荒れ地を』文春文庫、939円(税込) 梁石日『闇の子供たち』幻冬社文庫、720円(税込)
担当者から一言	前期授業で活字の魅力に目覚めた方や、長編小説の骨太な魅力に挑戦してみたい方を募集します。いわゆる斜め読みのスピード重視の読書法と、気になる場면을繰り返し読み込む緻密な読書法を併用して、作品への理解を深めてください。高度な日本語力と深い思索力を身につけたい皆さんの、半年間の自己鍛錬を支援する授業です。

授業コード	11092		
授業科目名	国語科教材研究(後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜12時30分～13時		

講義の内容	中学校高学年の「国語」、高等学校の「国語総合」を基準にしながら、国語教材の意味と価値について考察する。教材と歴史状況、「国語」領域の拡大、評論教材の研究、文学教育と文学理論、作文教育の可能性などの
-------	--

	視点から、国語教材のあり方について理論的にとらえることを中心としたい。 国語教材の意味を多面的に考察するとともに、教材を自主的に創造することができる力を養いたい。
到達目標	「国語」科の教材の多様性について学ぶ。 自主的な教材作りに取り組むことによって、教材化のプロセスを追体験する。
講義方法	各テーマごとに、配付資料をもとに講義を行う。
準備学習	教材に関連する問題について広く関心を持ち、広角度の読書をこころがけること。
成績評価	期末レポート、出席等によって行う。
講義構成	1 教材と社会 ドーデー『最後の授業』をめぐって 2 「国語」の拡張とメディア・リテラシー 3 表現教育の可能性 4 文学理論と文学教育 5 評論教材の研究 6 文法と古典 *それぞれの項目について2～3回程度の講義を行う。
教科書	配布プリントを使用する。
参考書・資料	講義時、プリント等で指示する。
講義関連事項	特になし。

担当者から一言	○受講学生は第1回目の講義にかならず出席すること。 ○講義で紹介する書物をたくさん読んでほしい。
その他	特になし。

授業コード	11093		
授業科目名	国語教育研究(前)		
担当者名	橘 幸男(タチバナ ユキオ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	在室しているかぎり、いつでもどうぞ。		

講義の内容	<p>中学校・高等学校の教員には、生徒を指導するための見識と、温かい心と、具体的な指導技術が強く求められており、その力を養成しないで教員になるわけにはいかない。この講義では、中学校・高等学校の国語教育を取り巻く諸課題について実践的に考えるとともに、国や府県の教育の動向、求められている教員像、教員の具体的な任務内容等について広範囲に学習することによって、教壇に立つ者としての適応力を磨く。</p> <p>この科目は、学習指導案の作成・検討、模擬授業(50分間の授業およびテーマ別のミニ授業)、事例研究などの要素を取り入れて、教育実習や教職生活を円滑にスタートできるようにすることを目指すので、全回にわたって出席する意欲のある者に限って受講を認める。</p> <p>なお、この科目は「国語科教育法Ⅰ・Ⅱ」の履修・修得を終えた者の方が履修効果が高まるであろうことを付け加えておく。</p>
到達目標	<p>①中学校または高等学校の国語科を効果的に指導する実践力を身につける。</p> <p>②教員採用試験を克服し、実際に教壇に立つことができるようにするための力を高める。</p>
講義方法	講義、模擬授業、討論、事例研究などによって構成する。
準備学習	<p>自分の研鑽・実践を振り返り、国語教育に関する自己の課題を認識し、それを文章にまとめておくこと。</p> <p>中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の解説編(国語科)を読み返しておくこと。(高等学校編は、発行された後に行うこと。)</p> <p>教育に関するニュースを新聞などから収集しておくこと。</p>
成績評価	出席状況、演習課題・レポート、試験等により総合的に評価する。
講義構成	<p>受講者数に応じて、各回の内容構成や所要時間数が異なるが、最終的には次のような内容を網羅するものとする。</p> <p>①求められている国語科教員像と、生徒に対する指導のあり方</p> <p>②国語科教員の任務と、必要な資質の育成</p>

	③国語科教員の理解力(読む力、聞く力)の深化 ④国語科教員の表現力(書く力、話す力)の深化 ⑤国語教育の指導法の特徴と問題点 ⑥国語教育の指導過程と授業構成 ⑦国語科の教材研究のあり方 ⑧国語科の教材開発への取り組み ⑨指導の工夫とその成果(授業構成に関して) ⑩指導の工夫とその成果(発問・板書に関して) ⑪学習指導要領の検討と指導実践への取り組み ⑫国や府県の教育の動向と、国語教育の諸課題 なお、必要に応じて、随時、教育に関するニュース等を探り入れる。
教科書	文部科学省「中学校学習指導要領解説・国語編」(東洋館出版社、144円) 文部科学省「高等学校学習指導要領解説・国語編」(発行所・価格ともに未詳。発行されたい購入すること) 中学校および高等学校国語科の検定済み教科書(出版社名は問わない)
参考書・資料	資料は、ほぼ毎回到わたって配布する。 その他の参考書・資料は、講義の中で紹介・指示をする。
講義関連事項	欠席連絡・面談予約などは、tatibana@center.konan-u.ac.jp へ。
担当者から一言	毎時間、受講生全員が実践的な活動をできるようにする。受講者は4年次生が望ましい。

授業コード	11048		
授業科目名	古典と現代I(後)		
担当者名	権藤愛順(ゴンドウ アイジュン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	古典作品とそれを題材にした作品を読んでいます。 文学表現に留まらず、能や映画を鑑賞しながら、古典作品を様々な側面から分析していきます。 表現の世界には、どのような普遍的なものがあり、受け継がれ、あるいは変容してきたのかを学びます。 古典と現代だけに留まらず、古典と西洋芸術との結びつきによって、いかに表現の世界が深まったのかなど、視野を広げて豊かな世界を学びましょう。
到達目標	古典と近現代文学がいかにしてつながり、変容してきたのかを知る。 文学を読み、日本の文化の深層に流れるものを感じる。 能などを鑑賞することで、古典の世界やその表現を肌で感じ、日本独自の表現技法や意味を知る。
講義方法	講義形式ですが、毎回作品を読んだ感想を各自に質問します。 授業には、能の鑑賞、また、作品を題材とした映画鑑賞の時間があります。
準備学習	授業で取り上げる作品はテキストを購入し、授業までに読了しておくことを望みます。 簡単に手に入らない教材については、事前にコピーを配付します。
成績評価	出席とレポート。とくにレポートを重視します。
講義構成	①能「道成寺」鑑賞 ②郡虎彦「道成寺」を読む —嫉妬に狂う女たちはいかに表現されたか— ③「道成寺」と西洋の出会い —恐怖はどのようにして表現されたか— ④芥川龍之介「藪の中」を読む —物語の謎は解けるか?— ⑤芥川龍之介「藪の中」を読む —なぜ“夫”が殺されるのか— ⑥黒澤明「羅生門」鑑賞 ⑦男の恋のいろいろ —谷崎潤一郎『少将滋幹の母』、芥川龍之介『好色』など— ⑧日本文学に描かれた〈母〉—谷崎潤一郎『母を恋ふる記』、折口信夫「身毒丸」など—
教科書	谷崎潤一郎『少将滋幹の母』 谷崎潤一郎『母を恋ふる記』 芥川龍之介『藪の中・好色』

授業コード	11049		
授業科目名	古典と現代II(後)		
担当者名	西山 克(ニシヤマ マサル)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	「怪異」「予知夢」をキーワードに、日本の中世・近世社会に生み出された古典を読み解き、その現代社会への影響をさぐる。たとえば『太平記』諸本には多くの怪異が語られ、怨霊の動きが書きとめられている。また『春日権現験記絵』には諸階層の夢が絵画化されている。さらには、中世社会を理解するための一級史料である古記録・古文書のなかにも、怪異や夢の記録が膨大な量で残っている。中世や近世を生きた人々にとって、怪異や予知夢は現実的な対応を必要とするものであった。その文芸への反映として古典を捉え、現代社会との関係を考えてみる。
到達目標	前近代社会と近現代社会の「精神」を対照させながら捉えることで、時間の異文化についての認識を深める。
講義方法	パワーポイントを活用しながら、またレジメを活用しながら、講義を進める。
準備学習	どのような史資料を使用するかは初回の講義で解説するので、図書館や研究室で確認しておくことが望ましい。
成績評価	授業への積極的な関与と提出されたレポートで総合的に判断する。
講義構成	第1回 オリエンテーション 第2回～8回 中世の怪異の記録を読む 第9回～12回 中世の夢の記録を読む 第13～14回 近世社会から近現代へ
教科書	特に指定はしない。
参考書・資料	東アジア怪異学会編『怪異学の可能性』(角川書店)
担当者から一言	重要なのは好奇心。

授業コード	11088		
授業科目名	ことばの研究(前)		
担当者名	佐竹久仁子(サタケ クニコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	「ことばとジェンダー」がテーマです。基礎的な知識として、日本の「女性語」研究や英語圏と日本の「ことばと性差」研究の流れをまず紹介したうえで、近年の「ことばとジェンダー」研究において課題とされている具体的なトピックをいくつかとりあげます。 講義をととして「女であること／男であること」とことば、また、ジェンダーに関する知識やイメージとことばはどのようにかかわっているのかという問題を考えます。
到達目標	1. 「ことばとジェンダー」の関係を考えるための知識を身につける。 2. 身近な言語使用や言語表現からこの問題に関するテーマを見つけることができるようになる。
講義方法	前半は主に教科書の内容に解説を加えるかたちで講義をおこないます。後半は、講義のほか各自が見つけたテーマの発表と議論をまじえてすすめていきます。
準備学習	授業の進行にあわせて教科書を読んで予習しておいてください。
成績評価	レポート(60%)、課題提出2回(20%)、発表(20%)によって評価します。
講義構成	第1回 講義の内容や方針の説明 第2回～第3回 日本の「女性語」研究 第4回 ジェンダーと表現 第5回 英語圏の「言語とジェンダー」研究の出発点 第6回 社会言語学の「性差」研究 第7回～第8回 異性間と同性間の会話分析 第9回～第11回 近年の「ことばとジェンダー」研究の視点／発表

	第12回「女ことば／男ことば」規範と「役割語」／発表 第13回～第15回「女ことば／男ことば」概念の歴史／発表
教科書	中村桃子2001『ことばとジェンダー』勁草書房 ISBN4-326-65247-0
参考書・資料	講義中に紹介します。
担当者から一言	質問、議論を歓迎します。

授業コード	11087		
授業科目名	こどもの文学・文化(前)		
担当者名	畠山兆子(ハタケヤマ チョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本のアニメーション番組史を踏まえて、子ども時代から見なれた映像を、自覚的に見直すことによって、「なにを見てきたのか」、「見せられてきたのか」を考える。メディア・ミックスの進んだ今日の日本社会で、「見る物語」の構造を知ることは重要であり、本講義では、意識的な視聴者を育てることを目的とする。また、日本製アニメーション番組の海外文化摩擦についても考える。		
到達目標	意識的な映像の視聴者となること		
講義方法	映像を使った講義が中心となる。		
準備学習	日常的なテレビ視聴を意識すること		
成績評価	授業中の提出物・出席を含む(40%)、課題レポート(60%)を総合して評価する。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 「見る」とは何か 2 テレビアニメーション史前史 漫画映画 3 アニメーション番組史 4 番組の検討(1)「鉄腕アトム」 5 番組の検討(2)「ドラえもん」 6 番組の検討(3)「ポケットモンスター」 7 番組の検討(4)「名探偵コナン」 8 海外文化摩擦 フィリピンの場合 9 メディア・ミックス戦略 10 キャラクター受容 		
教科書	畠山兆子・松山雅子『新版 物語の放送形態論』世界思想社 定価1800円＋税		
講義関連事項	「メディア・リテラシー」の講義において、画像、映像の作り手体験ができます。関心のある人は、受講ください。		
担当者から一言	古いアニメーション番組や、めったにみられない珍しい映像を見られます。また、受講生のテレビ番組に対する見方が変わることを期待して講義をしています。		

授業コード	11061		
授業科目名	社会言語学I(前)		
担当者名	西尾純二(ニシオ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	世界的に見ても日本語は方言差の大きい言語であるといわれている。しかし、そもそも方言とは何なのだろう。この講義では、まず「方言とは何か」を考えることから始める。そのために、テキストの中でも、方言に関するケースを中心に扱う。日本の方言が、どのようにして生まれ現在に至るのか。方言の誕生や変化は、私たちの日常生活のあり方と関わっている。ことばを無機質な研究対象として捉えるのではなく、自分の生活とのかかわりの中で観察できるセンスを身に付けてほしい。		
到達目標	言語地図から言語変化のプロセスや地域的分布の特徴を読み取ることができるようになる。		
講義方法	テキストに添った形での講義であるが、テキストの内容をきっかけにレジュメを配布して、講義を深めていきます		

	す。また、受講生にはたくさん質問をします。
準備学習	テキストで使用される事例は、受講者の母方言でない場合が多い。テキストを事前に読んでおいて、自分の方言に当てはめて問題意識を持つておくことが望ましい。
成績評価	出席・受講態度:30% 期末レポート:70% 毎回出席をとります。
講義構成	1. イントロダクション 2. 堺・南大阪のことば(テキスト外) 3-4. 東の方言・西の方言(ケース7) 5-6. 新しい方言・古い方言(ケース9) 7-8. 方言のイメージ(ケース6) 9-10. 方言と共通語(ケース10) 11-12. 日本語の方言・アメリカ英語の方言(テキスト外) 13-14. 街の中のことば—日本の言語景観—(テキスト外) 15. 総括 理解度に応じて進行速度を調整する。
教科書	上野智子ほか編(2005)『ケーススタディ 日本語のパラエティ』おうふう
参考書・資料	講義内で随時紹介します。 テキストのほかに配布資料がA4またはA3で15~25枚程度あります。 配布資料が多いという意見がありますが、決してそうは思いません。 ファイルなどに整理していくとよいでしょう。
講義関連事項	社会言語学Ⅱ(後)に内容が接続します。
担当者から一言	授業もコミュニケーションの一形態です。ともによい授業を作っていきましょう。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/nishio/jn_index.html

授業コード	11062		
授業科目名	社会言語学Ⅱ(後)		
担当者名	西尾純二(ニシオ ジュンジ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
講義の内容	日本語のパラエティは方言だけではない。男ことば・女ことば、若者語、幼児語、話しことば・書きことば・メールのことば、接客のことば、上品なことば・下品なことば……。様々な生活シーンには、それぞれに特徴ある日本語が用意されている。そして、その特徴ある日本語を私たちは通常、無意識に使用している。その無意識の日本語を意識化して観察することで、日本語という言語のどのような特徴が見えてくるであろうか。ある言語の特徴は、音声・文字・文法などのいくつかの観点から説明できる。ここでは、ことばの多様性という観点から日本語の特徴を考えていきたい。		
到達目標	1. 日常の言語生活の中に、問題意識を持つことができるようになる。 2. 問題意識を持った言語事象についての実態を把握するためのリサーチをプランすることができるようになる。		
講義方法	テキストに添った形での講義であるが、テキストの内容をきっかけにレジュメを配布して、講義内容を深めていきます。また、受講生にはたくさん質問をします。		
準備学習	日常の言語生活を注意深く観察してください。 とくに、テキストで紹介しているテーマに関して、自分の身の回りに存在する注目すべき言語事象を書きとめておくことが期末レポート作成の助けになるでしょう。		
成績評価	出席・受講態度:30% 期末レポート:70% 毎回出席をとります。		
講義構成	1. イントロダクション 2-7. 日本語の社会的位相 女のことば 男のことば(ケース1) 若者ことば キャンパスことば(ケース4) 8-12. 心理的位相		

	ことばの切りかえ(ケース11) 忌避することば・慶弔のことば(ケース14) 12-14. 様式的位相 メール・ネットのことば(ケース20) テレビの方言(テキスト外) 15 総括&レポート課題についてのレクチャー
教科書	上野智子ほか編(2005)『ケーススタディ 日本語のバラエティ』おうふう
参考書・資料	講義内で随時紹介します。 テキストのほかに配布資料がA4またはA3で15~25枚程度あります。 配布資料が多いという意見がありますが、決してそうは思いません。 ファイルなどに整理していくとよいでしょう。
講義関連事項	社会言語学 I と関係が深い講義です。
担当者から一言	様々なケースの解説の中に、社会言語学の様々な理論が紹介されます。聞き逃しのないように！ そして、期末レポートの課題にしっかりと応用できるようにしてください。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/nishio/jn_index.html

授業コード	11034		
授業科目名	上代文学研究(上代文学特殊講義)(前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	水曜日9:40~10:40		

講義の内容	日本上代文学の『万葉集』に載る作品を読むことをとおして、日本の文化についての知見を広めそして深めるための実践的な講義。古典作品を深く読む楽しさも味わってほしい。 今期は、『万葉集』の第三期の歌人、大伴旅人と山上憶良の作品を読む。
到達目標	3年次および4年次の学生を対象とした本講義としては、日本語および日本文学についての論点を自らの力で見出すことができることを、到達目標に据える。
講義方法	毎回配付するプリントに基づいて講義する。ひとつひとつの作品を丁寧に解説し、また、写本の複製本やデジタルカメラの画像なども示しながら、分かりやすい形で進めていく。
準備学習	『万葉集』についての基礎的な知識を得ておくこと。
成績評価	定期試験の成績に拠る。
講義構成	○「筑紫文学圏」について 大伴旅人について 山上憶良について 旅人と憶良 ○「筑紫文学圏」の作品について 大伴旅人の作品を(読む) 山上憶良の作品を(読む)
教科書	鶴久氏、森山隆氏編『萬葉集』(おうふう)
参考書・資料	講義の進行に合わせて、適宜紹介する。
担当者から一言	作品を(読む)ことの「楽しさ」を共に見出そう。そして日本文化についての知見を共に広め深めよう。

授業コード	11026		
授業科目名	上代文学講読I(前)		
担当者名	阪口由佳(サカグチ ユカ)		
配当年次	1年次	単位数	2

開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
講義の内容	上代文学とは、まさに誕生期の文学である。遡りうる最も古い文学作品である『古事記』の表記や内容を知ること、それ以後に記された作品を理解する上でも必要なことであろう。当授業では『古事記』に収められている物語を読み解いてゆく。前期では『古事記』の中巻、初代の神武天皇から応神天皇までを読む。		
到達目標	『古事記』中・下巻に収められている物語を読み、そのストーリーを知る。上代の文章に触れ、読解力を伸ばし、書き手の工夫を感じとる力を身につける。		
講義方法	講義形式だが、「聞くだけ」ではなく、積極的な姿勢で受講してほしい。		
準備学習	テキストとプリントを復習する。		
成績評価	定期試験(50%)、授業中に行う小テスト(30%)、出席点・日常点(20%)によって評価する。		
講義構成	I 『古事記』の概説 1 『古事記』へのアプローチ 2 『古事記』の成立と文体 3 『古事記』の構成と主題 II 『古事記』の講読 1 神武天皇①—神から天皇へ 2 神武天皇②—開化天皇まで 3 崇神天皇—三輪山伝説 4 垂仁天皇—もの言わぬ御子 5 景行天皇—ヤマトタケル① 6 景行天皇—ヤマトタケル② 7 仲哀天皇—神功皇后 8 応神天皇—后妃と御子 9 応神天皇—天之日矛 10 応神天皇—秋山の神と春山の神		
教科書	特になし。プリントを配布する。 ただし『古事記』の本文は基本的に西宮一民『古事記 修訂版』(おうふう 平成十二年)に拠る。		
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。		
担当者から一言	『古事記』はすべて漢字で書かれていながら漢文ではないという難しさがあり、それゆえ独学ではなかなか読みづらいものがあるかと思います。この授業をきっかけに、『古事記』に親しみ、その難しさをおもしろさに変えてもらえればと願っています。 『古事記』は一つのストーリーがきちんと構成されており、登場人物も生き生きと描写されています。時代を超えて共通するところを「感じ」、古代的なところを「知り」ながら、ともに『古事記』の世界を楽しめるような授業にしたいと思います。		

授業コード	11027		
授業科目名	上代文学講読II(後)		
担当者名	阪口由佳(サカグチ ユカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
講義の内容	上代文学とは、まさに誕生期の文学である。遡りうる最も古い文学作品である『古事記』の表記や内容を知ること、それ以後に記された作品を理解する上でも必要なことであろう。当授業では『古事記』に収められている物語を読み解いてゆく。後期では『古事記』の下巻、仁徳天皇から推古天皇までを読む。		
到達目標	『古事記』中・下巻に収められている物語を読み、そのストーリーを知る。上代の文章に触れ、読解力を伸ばし、書き手の工夫を感じとる力を身につける。		
講義方法	講義形式だが、「聞くだけ」ではなく、積極的な姿勢で受講してほしい。		
準備学習	テキストとプリントを復習する。		
成績評価	定期試験(50%)、授業中に行う小テスト(30%)、出席点・日常点(20%)によって評価する。		
講義構成	I 『古事記』の概説 1 『古事記』へのアプローチ 2 『古事記』の成立と文体		

	<p>3 『古事記』の構成と主題</p> <p>Ⅱ 『古事記』の講読</p> <p>1 仁徳天皇①</p> <p>2 仁徳天皇②</p> <p>3 履中・反正天皇</p> <p>4 允恭天皇</p> <p>5 安康天皇</p> <p>6 雄略天皇①</p> <p>7 雄略天皇②</p> <p>8 清寧天皇</p> <p>9 顕宗・仁賢天皇</p> <p>10 まとめ</p>
教科書	特になし。プリントを配布する。 ただし『古事記』の本文は基本的に西宮一民『古事記 修訂版』(おうふう 平成十二年)に拠る。
参考書・資料	適宜授業中に紹介する。
担当者から一言	<p>『古事記』はすべて漢字で書かれていながら漢文ではないという難しさがあり、それゆえ独学ではなかなか読みづらいものがあるかと思います。この授業をきっかけに、『古事記』に親しみ、その難しさをおもしろさに変えてもらえればと願っています。</p> <p>『古事記』は一つのストーリーがきちんと構成されており、登場人物も生き生きと描写されています。時代を超えて共通するところを「感じ」、古代的なところを「知り」ながら、ともに『古事記』の世界を楽しめるような授業にしたいと思います。</p>

授業コード	11096		
授業科目名	書道		
担当者名	本間洋一(ホンマ ヨウイチ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(金曜2限)、後期(金曜2限)
講義の内容	毛筆書道の基本を身につけよう。対象とする書体は、楷書・行書・草書・隷書・かなの五書体です。		
到達目標	楷・行・草・隷・仮名連綿といった書体の基本的な筆づかいを会得し、文字表現に生かすことができる。		
講義方法	実質実習形態となります。担当者の作成した資料(実物大の手本も配布)に基づき、半紙に臨書作品を書いていただき、添削を経た上で清書して提出してもらいます。		
準備学習	担当教員作成のプリント(初回講義時に配布)で授業の進度の説明を行うので、事前に練習するなど意欲を高めておくのが望ましい。		
成績評価	毎回の出席が原則である。提出された作品により評価します。		
講義構成	<p>4月 楷書の基本 「孔子廟堂碑」</p> <p>5月 同上 「九成宮」「雁塔聖教序」</p> <p>6月 同上 顔真卿の書</p> <p>7月 行書の基本 「蘭亭序」</p> <p>9月 同上</p> <p>10月 草書の基本</p> <p>11月 隷書の基本</p> <p>12月～1月 かなの基本</p>		
教科書	担当者作成の資料を配布します(無料)。		
担当者から一言	作品を毎回必ず提出してもらいます。これが評価の対象になりますので、出席する事が何より大切とお考え下さい。		

授業コード	11009		
授業科目名	卒業研究		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)、木股知史(キマタ サトシ)、中島孝幸(ナカハタ タカユキ)、都築直也(ツゾメ ナ		

	オヤ)、田中雅史(タナカ マサシ)、田中貴子(タナカ タカコ)、廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)、塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	4年次	単位数	8
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(集中講義)、後期(集中講義)
特記事項	自動登録		
オフィスアワー	指導教員による。		

講義の内容	日本語日本文学科の学生としてそれぞれの指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱで学んできたことをもとに、各自のテーマに沿った内容で論文をまとめる。		
到達目標	<p>甲南大学文学部日本語日本文学科は、次の4つの力を有する学生に学士号を授与すると定めている。</p> <p>(1) 教養ある社会人として、社会貢献や社会人に求められる責任感と倫理観を意識することができ、現代社会の発展に貢献できる学生</p> <p>(2) 人間と文化に関する教養について基礎的な知識と常識を有する学生</p> <p>(3) 日本語および日本文学に関して基本的な学識を修得している学生</p> <p>(4) 社会生活をおくる上で必要な能力を有する学生。特に、他者とのコミュニケーションに際して自己の意見を分かりやすく相手に説明する意志と能力を有し、かつその手段を活用できる能力を有すること、並びに、事象を論理的に考察して問題を発見し、収集した情報を整理・分析し、それらを総合して問題解決を図る意志と能力を有すること</p> <p>本「卒業研究」は、論文をまとめて本学科の卒業生として学士号を得て行くことを目指す科目である。よって、本「卒業研究」の到達目標も、上記の(1)～(4)の条件を十分満たすこと、と設定する。</p>		
講義方法	指導教員の指示による。(講義科目ではない)		
準備学習	それぞれの指導教員の演習Ⅰ、演習Ⅱで培って来た研究方法に基づき、卒業研究論文をまとめることができるための学習を進めておくこと。		
成績評価	提出された論文を、主査(指導教員)と副査(学科内教員)の2名で査読し、2月に口頭試問をとりおこなう。そのうえで、「担当者名」欄に記されている教員全員によって審査し評価する。		
講義構成	自主的に年間の研究計画を立て、継続して研究を進める。 学生自身が具体的かつ独自の論点を準備し、積極的に指導教員の指導を受ける。指導教員は、その独自の論点の精度を上げるべく、指導する。 学生が所属するそれぞれのゼミによって、それぞれ特色ある学習・研究の態勢を取っている。 (講義科目ではない)		
教科書	指導教員の指示による。		
参考書・資料	適宜、指導する。		
講義関連事項	指導教員と適宜連絡を取るように。		
担当者から一言	大学4年間のすべての結晶である卒業研究を素晴らしいものとするために、努力を惜しまないでほしい。		

授業コード	11071		
授業科目名	対照言語学I(後)		
担当者名	張 麟声(チョウ リンセイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	この授業では、対照言語学を言語研究のための対照言語学と言語教育のための対照言語学の2種類に分け、それぞれの研究方法や研究の現状について講義する。		
到達目標	この授業を通して、対照言語学の概要を知り、その研究方法の基礎を身につける。		
講義方法	教員による講義、及びと学生の発表の両方で実施する。		
準備学習	授業中に指示する。		
成績評価	平素の学習状況、レポート等によって総合的に評価する。		
講義構成	1. 対照言語学と個別言語学 2. 対照言語学と比較言語学 3. 日本語をめぐる比較言語学的研究の歴史と現状(1) 4. 日本語をめぐる比較言語学的研究の歴史と現状(2) 5. 二種類の対照言語学 6. 日本における対照言語学の流れ 7. 言語研究のための対照言語学的研究(1)主題マーカ-を例に<1> 8. 言語研究のための対照言語学的研究(2)主題マーカ-を例に<2> 9. 言語研究のための対照言語学的研究(3)同類を表す副助詞を例に 10.		

	言語研究のための対照言語学的研究(4)動詞の自他と使役の関係を例に 11. 言語教育のための対照言語学的研究(1)テンスとアスペクトを例に<1> 12. 言語教育のための対照言語学的研究(2)テンスとアスペクトを例に<2> 13. 言語研究のための対照言語学的研究(3)テンスとアスペクトを例に 14. 対照言語学の基本的手順 15. まとめ
教科書	プリントを使用する。
参考書・資料	張麟声著『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
講義関連事項	授業中に指示する。
担当者から一言	この授業を通して、常に目を世界に向けることに慣れよう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/zhang/lin_index.htm

授業コード	11072		
授業科目名	対照言語学II (前)		
担当者名	金 美善(キム ミソン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜4限

講義の内容	韓国語は日本語と統語構造が類似していることから日本語母語話者にとってもっとも学びやすい言語であるとされます。しかし、音韻構造や待遇表現など日本語との相違点が目立つ言語でもあります。この授業では、新聞記事、ドラマの台詞、コリアンポップの歌詞、学校教科書など様々な韓国語の文を日本語に訳しながら、両言語の構造的特徴について対照を行います。なお、文体や言い回しなどの面にも注目して両言語の類似点や相違点を具体的に触れていきます。		
到達目標	他言語(朝鮮語)を通して日本語を客観的に観察する力を養っていきます。		
講義方法	講義形式と演習形式を並行して行います(ただし、受講者の人数によって変更あり)。		
準備学習	韓国語の基礎的知識(ハングルが読める程度でもよい)が必要です。		
成績評価	出席状況、分担発表、レポートを総合して評価します。		
講義構成	1回目 オリエンテーション(4回目-10回目の分析対象の設定) 2回目 対照言語学概論 1 3回目 対照言語学概論 2 4回目-10回目 日韓両言語の構造分析 11回目-13回目 分担発表 14回目 まとめ		
教科書	プリントを配布します。		
参考書・資料	韓日辞書		

授業コード	11035		
授業科目名	中古文学研究(中古文学特殊講義)(前)		
担当者名	井上新子(イノウエ シンコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限

講義の内容	平安後期から末期にかけて制作されたと考えられる十編の短編物語と一断章とから成る『堤中納言物語』の所収各編をとりあげ、各物語の性格と平安後期物語の特質について考える。当該物語集に収められた各編は、機知や笑い、アイロニーなど、多様な性格を有している。本講義では、物語の表現の形成と詩歌の関わりの問題・物語の人物像の形成をめぐる問題・物語の読みの多様性といった問題をとりあげ、論じる。平安後期という史的		
-------	--	--	--

	空間において、『源氏物語』という大きな遺産を継承し、各編がどのような独自の切り口によって新たな物語世界を拓いていったのか、その具体的様相をながめてみたい。なお、平安後期物語の特質を見つめることを核とするので、『狭衣物語』へも眼を向け、あわせて論じることとする。
到達目標	『堤中納言物語』所収各編の内容と特質を理解する。各自の関心に応じ、各編について調査・考察し、レポートをまとめる。
講義方法	一編につき、読解と作品論とを合わせた数回の講義を考えている。作品の性格の追究にあたっては、各編の特質をふまえ、回ごとにいくつかの視点を用意しながら、分析を試みる。抽出した特質については、『狭衣物語』との共通性も視野に入れ、文学史上での相対化をも目指したい。最終回には、十編に共通する性質について見通しを述べてみたい。基本的には講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。
準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。
成績評価	出席状況(15%)・授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。
講義構成	第1回 『堤中納言物語』についての概説(成立・作者・編者・参考文献等) 第2回 「ほどほどの懸想」を読む(1) 本文読解・前 第3回 「ほどほどの懸想」を読む(2) 本文読解・後 第4回 「ほどほどの懸想」を読む(3) 物語の表現の形成と詩歌 第5回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(1) 本文読解・前 第6回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(2) 本文読解・後 第7回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(3) 男主人公と史的空間 第8回 「逢坂越えぬ権中納言」を読む(4) 薫・狭衣から鎌倉王朝物語の男君たちへ 第9回 「虫めづる姫君」を読む(1) 本文読解・前 第10回 「虫めづる姫君」を読む(2) 本文読解・中 第11回 「虫めづる姫君」を読む(3) 本文読解・後 第12回 「虫めづる姫君」を読む(4) 笑われる女の系譜・体制の中の異端者 第13回 「虫めづる姫君」を読む(5) かぐや姫の系譜・女の生への批評 第14回 『堤中納言物語』各編の特質 第15回 まとめ
教科書	池田利夫訳・注 笠間文庫『堤中納言物語』(笠間書院、1575円)
参考書・資料	適宜、講義の中で紹介する。
講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。分析の前提として、当該物語の理解が不可欠なので、なるべく当日扱う一編を前もって読んできて欲しい。
担当者から一言	『源氏物語』の達成を経て出現した後期物語の巧緻な世界を楽しみ、平安文化の広がりのおもしろさをながめてみたい。
その他	時間があれば、『堤中納言物語』や『狭衣物語』以外の物語における試みとの関連性についても、なるべく言及したい。

授業コード	11028		
授業科目名	中古文学講読I(前)		
担当者名	井上新子(イノウエ シンコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	『源氏物語』夕霧巻(前半)を読む。当該巻は『源氏物語』第二部に位置し、鈴虫巻に続く巻である。夫・柏木に先立たれた朱雀院の皇女・落葉の宮に、故柏木の親友・夕霧が思いを寄せる。その恋の進展がもたらす様々な波紋が、詳細に語り取られた巻となっている。当該巻の前半部分を対象とする。平安時代の作品を解読する上での基礎知識を確認しつつ、本文を読みすすめる。何が話題として選択され、どこに焦点をあてて、いかに語られているのか、という点に留意しながら、物語本文を分析したい。登場人物の人物造型の考察、語りの有り様の分析、引用の分析等を通じて、精緻に構築された物語世界を鑑賞する。また、「国宝源氏物語絵巻」夕霧図が現存するので、当該図についても物語の展開に即してあわせて考察してみたい。
到達目標	(1) 平安時代の歴史的・文化的環境を理解しながら、物語の本文を読解する。 (2) 『源氏物語』の特質について、理解を深める。
講義方法	巻頭から、毎回数頁ずつ読みすすめる。本文を解釈し、いくつかの問題をとりあげながら、鑑賞を深めたい。基本的に講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。

準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。
成績評価	出席状況(15%)・毎回の授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。
講義構成	第1回 『源氏物語』についての概説 成立・作者・物語文学史上の位置等の諸問題。参考書の紹介と、物語冒頭桐壺巻から夕霧巻にいたる直前までの物語の流れの解説とを行う。 第2回～第14回 教科書の輪読及び考察 夕霧巻巻頭から数頁ずつ本文を区切り、語釈及び解釈、これをもとにした解説を行いながら、読みすすめる。さらにその回の本文の内容に応じ、登場人物・語り・文化的及び歴史的背景・和歌の機能といった諸問題をとりあげ、考察したい。なお、対象とする範囲は、教科書160頁7行目までとする。また、「国宝源氏物語絵巻」の絵が現存する箇所については、これらもあわせて鑑賞する。 第15回 まとめ 夕霧巻(前半)をまとめ、『源氏物語』の特質の一端についても、言及したい。
教科書	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳 古典セレクション『源氏物語』11(小学館、定価1680円)
参考書・資料	鈴木一雄監修・伊井春樹編集 国文学「解釈と鑑賞」別冊『源氏物語の鑑賞と基礎知識』夕霧(至文堂)。他は、適宜講義の中で紹介する。
講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。参考書は自由。
担当者から一言	『源氏物語』の緻密な表現の世界を堪能することを、第一の主眼としたい。
その他	時間があれば、他の王朝物語との影響関係についても言及したい。

授業コード	11029		
授業科目名	中古文学講読II(後)		
担当者名	井上新子(イノウエ シンコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限

講義の内容	『源氏物語』夕霧巻(後半)を読む。当該巻は『源氏物語』第二部に位置し、鈴虫巻に続く巻である。夫・柏木に先立たれた朱雀院の皇女・落葉の宮に、故柏木の親友・夕霧が思いを寄せる。その恋の進展がもたらす様々な波紋が、詳細に語り取られた巻となっている。当該巻の後半部分を対象とする。平安時代の作品を解説する上での基礎知識を確認しつつ、本文を読みすすめる。何が話題として選択され、どこに焦点をあてて、いかに語られているのか、という点に留意しながら、物語本文を分析したい。登場人物の人物造型の考察、語りの有り様の分析、引用の分析等を通じて、精緻に構築された物語世界を鑑賞する。		
到達目標	(1)平安時代の歴史的・文化的環境を理解しながら、物語の本文を読解する。 (2)『源氏物語』の特質について、理解を深める。		
講義方法	夕霧巻後半部分を読む。毎回数頁ずつ読みすすめる。本文を解釈し、いくつかの問題をとりあげながら、鑑賞を深めたい。基本的に講義形式であるが、時折受講者に質問をすることもある。		
準備学習	教科書の予習、教科書・授業プリント類の復習。		
成績評価	出席状況(15%)・毎回の授業の最後に出す小課題への取り組み(20%)・レポートの成績(65%)を勘案し、総合的に評価する。なお、レポート未提出の場合、「欠席」と評価する。		
講義構成	第1回 『源氏物語』についての概説と夕霧巻前半部分の内容の紹介 成立・作者・物語文学史上の位置等の諸問題。参考書の紹介と、物語冒頭桐壺巻から夕霧巻後半部分にいたる直前までの物語の流れの解説とを行う。 第2回～第14回 教科書の輪読及び考察 夕霧巻後半部分(160頁8行目)から数頁ずつ本文を区切り、語釈及び解釈、これをもとにした解説を行いながら、読みすすめる。さらにその回の本文の内容に応じ、登場人物・語り・文化的及び歴史的背景・和歌の機能といった諸問題をとりあげ、考察したい。なお、対象とする範囲は、教科書160頁8行目から巻末までとする。 第15回 まとめ 夕霧巻(後半)をまとめ、『源氏物語』の特質の一端についても、言及したい。		
教科書	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男 校注・訳 古典セレクション『源氏物語』11(小学館、定価1680円)		
参考書・資料	鈴木一雄監修・伊井春樹編集 国文学「解釈と鑑賞」別冊『源氏物語の鑑賞と基礎知識』夕霧(至文堂)。他は、適宜講義の中で紹介する。		

講義関連事項	受講の際、教科書持参は必須。参考書は自由。
担当者から一言	『源氏物語』の緻密な表現の世界を堪能することを、第一の主眼としたい。
その他	時間があれば、他の王朝物語との影響関係についても言及したい。

授業コード	11036		
授業科目名	中世文学研究(中世文学特殊講義)(前)		
担当者名	佐藤愛弓(サトウ アユミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	説話文学にはさまざまな研究方法がある。この授業では、説話作品をその研究方法とともに紹介し、それによってどのようなことが明らかになるのか解説する。
到達目標	授業で紹介した4つの研究手法を参考にして、それぞれが具体的に説話作品を分析し、期末レポートにまとめる。
講義方法	講義
準備学習	とくになし。
成績評価	期末レポート85%、平常点15% (但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 【研究方法その一】同話、類話と詳細に比較する。 3 『今昔物語集』の蟬丸説話 4 蟬丸説話の変遷 5 【研究方法その二】資料の性質から考える。 6 袈裟功德説話の構造 7 袈裟曼荼羅について 8 【研究方法その三】歴史資料に関連記事をさがす。 9 真夜中の殺害事件 10 被害者を調べる。 11 加害者を調べる。 12 事件の顛末 13 【研究方法その四】前後の話から考える。 14 空飛ぶ亀の話 15 亀の正体
教科書	授業中にプリントを配布します。

授業コード	11030		
授業科目名	中世文学講読I(前)		
担当者名	二本松泰子(ニホンマツ ヤスコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	中世は、貴族の社会が衰えを見せ始め、武士の台頭が始まる時代です。平清盛が率いた平家政権から源頼朝の率いる鎌倉幕府へと世の中が大きく変動します。その平家と源氏の戦いの顛末を描いたのが『平家物語』です。『平家物語』は、平家と源氏の戦いを中心に、平安末期から鎌倉初期にかけての武士や貴族たちの様子を描きます。それは、歴史的事実を記録しただけでなく、ときにはあえて史実を離れた叙述を選び、さまざまな説話を散りばめたりもします。そうして、歴史的事実(史実)だけでは描ききれない、社会の深層を紡ぎ出します。この授業では、『平家物語』の中から、「生田の森合戦」や「一の谷合戦」など神戸を舞台とする巻第9を扱います。軍記物語について、実感を伴った理解を目指してください。
到達目標	中世軍記物語の本質を理解し、作品の成立を支えた当時の社会や文化の実相を認識することができる。
講義方法	『平家物語』巻第9を1回の授業ごとに1章段ずつ取り上げ、その章段の背景や研究史、問題点、研究課題などを

	詳しく解説しながら、物語を読み進めます。 テキストの本文のほかにも、担当者が用意する資料や視聴覚教材を併用してゆきます。
準備学習	『平家物語』巻第9の内容について、簡単なあらすじを理解しておいてください。
成績評価	①授業実施回数の3分の2以上の出席。(50点) ②最終授業日に実施する試験。(50点) ※試験は授業内容に基づいた論述問題を出題します。授業を正しく理解していれば基準点に達することができるように設定します。 授業への積極的な取り組み(質疑応答、討議への積極的参加など)は臨時加点の対象として高く評価します。欠席や遅刻の過多、消極的姿勢(質疑に応じないなど)、不真面目な態度などは厳しく減点の対象とします。
講義構成	第1週目 『平家物語』の概説 第2週目 「三草合戦」 第3週目 「老馬」 第4週目 「一二之懸」 第5週目 「二度之懸」 第6週目 「坂落」 第7週目 「越中前司最期」 第8週目 「忠教最期」 第9週目 「重衡生捕」 第10週目 「敦盛最期」 第11週目 「知章最期」 第12週目 「落足」 第13週目 「小宰相身投」 第14週目 『平家物語』と神戸 第15週目 試験
教科書	『平家物語 下』(新日本古典文学大系45、梶原正昭・山下宏明校注、1993年10月、岩波書店)
参考書・資料	國文學一解釈と教材の研究 2002年10月号 學燈社 あなたが読む平家物語 有精堂出版 アエラ・ムックー平家物語がわかる。 朝日新聞社
担当者から一言	高等学校で学習する程度の古文単語、文語文法、日本文学史の知識は必要最低条件となります。「文学好き」や「読書好き」であることにとどまらない広い意識を望みます。
ホームページタイトル	鷹書研究会
URL	http://takasyoken.exblog.jp/

授業コード	11031		
授業科目名	中世文学講読II(後)		
担当者名	二本松泰子(ニホンマツ ヤスコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	中世は、貴族の社会が衰えを見せ始め、武士の台頭が始まる時代です。平清盛が率いた平家政権から源頼朝の率いる鎌倉幕府へと世の中が大きく変動します。その平家と源氏の戦いの顛末を描いたのが『平家物語』です。『平家物語』は、平家と源氏の戦いを中心に、平安末期から鎌倉初期にかけての武士や貴族たちの様子を描きます。それは、歴史的事実を記録しただけでなく、ときにはあえて史実を離れた叙述を選び、さまざまな説話を散りばめたりもします。そして、歴史的事実(史実)だけでは描ききれない、社会の深層を紡ぎ出します。この授業では、『平家物語』の中から、木曾義仲の活躍を描く巻第7を扱います。北陸路を突き進む木曾義仲。迎え討つ平家軍。北陸地方で繰り広げられた合戦を中心に、物語の叙述を支えた背景を考察します。時代の転換期を描こうとしたこの作品の意義と価値について学んでください。
到達目標	中世軍記物語の本質を理解し、作品の成立を支えた当時の社会や文化の実相を認識することができる。
講義方法	『平家物語』巻第7を1回の授業ごとに1章段ずつ取り上げ、その章段の背景や研究史、問題点、研究課題などを詳しく解説しながら、物語を読み進めます。 テキストの本文のほかにも、担当者が用意する資料や視聴覚教材を併用してゆきます。

準備学習	『平家物語』巻第7の内容について、簡単なあらすじを理解しておいてください。
成績評価	①授業実施回数の3分の2以上の出席。(50点) ②最終授業日に実施する試験。(50点) ※試験は授業内容に基づいた論述問題を出题します。授業を正しく理解していれば基準点に達することができるように設定します。 授業への積極的な取り組み(質疑応答、討議への積極的参加など)は臨時加点の対象として高く評価します。欠席や遅刻の過多、消極的姿勢(質疑に応じないなど)、不真面目な態度などは厳しく減点の対象とします。
講義構成	第1週目 『平家物語』の概説 第2週目 「火打合戦」 第3週目 「願書」 第4週目 「倶利伽羅落」 第5週目 「篠原合戦」 第6週目 「真盛」 第7週目 「還亡」 第8週目 「主上都落」 第9週目 「維盛都落」 第10週目 「忠教都落」 第11週目 「経正都落」 第12週目 「一門都落」 第13週目 「福原落」 第14週目 平家一門と神戸 第15週目 試験
教科書	『平家物語 下』(新日本古典文学大系45、梶原正昭・山下宏明校注、1993年10月、岩波書店)
参考書・資料	國文學一解釈と教材の研究 2002年10月号 學燈社 あなたが読む平家物語 有精堂出版 アエラ・ムックー平家物語がわかる。 朝日新聞社
担当者から一言	高等学校で学習する程度の古文単語、文語文法、日本文学史の知識は必要最低条件となります。「文学好き」や「読書好き」であることにとどまらない広い意識を望みます。
ホームページタイトル	鷹書研究会
URL	http://takasyoken.exblog.jp/

授業コード	11057		
授業科目名	日本語音声学I(前)		
担当者名	郡 史郎(コオリ シロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	音声を使わなければしゃべることはできない。そしてその使い方ひとつで様々なニュアンスや感情が表現できる。 この講義では、しゃべる道具としての音声のしくみとその効果的な使い方について解説する。これを知ることは日本語の研究や教育に欠かせない。 前期ではまず全体像を提示した後、子音と母音について解説する。
到達目標	・自分や他者の発音の特徴を分析し論評できる技能を身につけること。 ・じょうずなしゃべり方、わかりやすい話し方をするための基礎知識を得ること。 ・日本語学習者に適切なアドバイスを行えるための基礎知識を得ること。
講義方法	教科書にもとづいた講義を基本とするが、授業中に提示する音声の聞き取りや分析を受講者が行い(おおむね毎回)、それについて意見交換する。
準備学習	・日本語能力以外、特別な知識は前提としない。 ・日常生活で自分の発音や他人の発音に注意するよう心がけること。
成績評価	期末試験(5割)、2回(予定)の小テスト(2割)、出席および授業での課題への取り組み度(3割)
講義構成	以下の順序で行う予定であるが、スケジュールは状況により変更することがある。

	第1回 導入 第2回 五十音図とそのしくみ 第3回 話しことばと音 第4回 五十音図の限界(かなで書けない音・かなに表れない発音) 第5回 音と文字(かな)の関係 第6回 アクセント・イントネーション 第7-8回 もっといろいろな音(様々な言語音とその分類) 第9回 発音のしくみ(音声生理) 第10-12回 日本語の子音 第13回 日本語の母音 第14回 まとめ 第15回 テスト
教科書	「日本語教育能力検定に合格するための音声23」アルク
参考書・資料	田中真一・窪蘭晴夫『日本語の発音教室—理論と練習』くろしお出版, 1999年 ISBN 978-4874241769

授業コード	11058		
授業科目名	日本語音声学II(後)		
担当者名	郡 史郎(コオリ シロウ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	音声を使わなければしゃべることはできない。そしてその使い方ひとつで様々なニュアンスや感情が表現できる。 この講義では、しゃべる道具としての音声のしくみとその効果的な使い方について解説する。これを知ることは日本語の研究や教育に欠かせない。 後期ではアクセント、イントネーション、リズムを主にとりあげるが、音声の理論的研究の手法や音声教育についても解説する。		
到達目標	・自分や他者の発音の特徴を分析し論評できる技能を身につけること。 ・じょうずなしゃべり方、わかりやすい話し方をするための基礎知識を得ること。 ・日本語学習者に適切なアドバイスを行えるための基礎知識を得ること。		
講義方法	教科書にもとづいた講義を基本とするが、授業中に提示する音声の聞き取りや分析を受講者が行い(おおむね毎回)、それについて意見交換する。		
準備学習	・日本語能力以外、特別な知識は前提としない。 ・日常生活で自分の発音や他人の発音に注意するよう心がけること。		
成績評価	期末試験(5割)、2回(予定)の小テスト(2割)、出席および授業での課題への取り組み度(3割)		
講義構成	以下の順序で行う予定であるが、スケジュールは状況により変更することがありえる。 第1回 導入 第2-4回 イントネーション 第5回 音を目で見る 第6-9回 アクセント 第10回 音節とリズム 第11回 音韻論 第12-13回 音声教育・じょうずなしゃべり方 第14回 まとめ 第15回 テスト		
教科書	「日本語教育能力検定に合格するための音声23」アルク		
参考書・資料	田中真一・窪蘭晴夫『日本語の発音教室—理論と練習』くろしお出版, 1999年 ISBN 978-4874241769		

授業コード	11003
-------	-------

授業科目名	日本語学概論I(前)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み(都染研究室)		

講義の内容	この講義の目的は、多くの学生にとっての母語である日本語を客観的に観察し、そのしくみや働きに関する基礎知識を習得することである。 音声・音韻、文字・表記など日本語のしくみ(構造・体系)について概説し、各分野における問題点やそれらに対する諸説を通して、日本語学的な見方・考え方を紹介する。
到達目標	方言をはじめとする日常の言語生活における諸問題を、日本語がどのように機能しているのかという観点から分析的に考える習慣を身につけ、的確な日本語運用能力を高めるようにしたい。
講義方法	・教科書を使用して講義をすすめるので講義には必ず持参すること。 その他、関連資料は適宜配布する。 ・講義では、具体的な言語資料として、日常生活に密着したものを紹介してゆく。 ・確認テストを実施し、講義内容の理解度をみる。 ・小レポートを課し、専門分野の文献に触れる機会を設ける。
準備学習	毎回終了時に次回講義への準備課題を提示する。
成績評価	・出席確認は毎時間行なう。 ・小レポート・小テストの他に前期末筆記試験を実施する。 ・単位取得のためには、2/3以上の出席を必要とする。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
講義構成	・講義概要説明、総論(1回) ・音声・音韻(7回) ・語彙(3回) ・意味(3回) 上記の講義回数に変更になる場合がある
教科書	『現代日本語学入門』 荻野綱男編 明治書院 ・過年度の教科書とは異なるので注意すること。 ・教科書は1回目の講義から使用するので、各自準備しておくこと。 ・後期(日本語学概論Ⅱ)も同じ教科書を使用する。
参考書・資料	参考書:講義中に紹介する。 資 料:随時プリント等を配布する。
講義関連事項	日本語教育に関心のある学生は「日本語教育概論」を併せて受講すること。
担当者から一言	・あらかじめ予定されている休講の場合、翌週(もしくは同じ週)の火曜日5時限に補講を行なう。 ・担当者の急病など、授業当日の朝に休講が決定した場合、休講掲示とともに課題を掲示するので、指示に従うこと。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
その他	・担当者e-mailアドレス tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11004		
授業科目名	日本語学概論II(後)		
担当者名	都染直也(ツゾメ ナオヤ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限
オフィスアワー	金曜日昼休み(都染研究室)		

講義の内容	この講義の目的は、多くの学生にとっての母語である日本語を客観的に観察し、そのしくみや働きに関する基礎知識を習得することである。 音声・音韻、文字・表記など日本語のしくみ(構造・体系)について概説し、各分野における問題点やそれらに
-------	---

	対する諸説を通して、日本語学的な見方・考え方を紹介する。
到達目標	方言をはじめとする日常の言語生活における諸問題を、日本語がどのように機能しているのかという観点から分析的に考える習慣を身につけ、的確な日本語運用能力を高めるようにしたい。
講義方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使用して講義をすすめるので講義には必ず持参すること。 ・その他、関連資料は適宜配布する。 ・講義では、具体的な言語資料として、日常生活に密着したものを紹介してゆく。 ・確認テストを実施し、講義内容の理解度をみる。 ・小レポートを課し、専門分野の文献に触れる機会を設ける。
準備学習	毎回終了時に次回講義への準備課題を提示する。
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・出席確認は毎時間行なう。 ・小レポート・小テストの他に前期末筆記試験を実施する。 ・単位取得のためには、2/3以上の出席を必要とする。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ・方言と共通語(4回) ・社会言語学(1回) ・文字と表記(4回) ・敬語(2回) ・文法(3回) <p>上記の講義回数に変更になる場合がある</p>
教科書	『現代日本語学入門』 荻野綱男編 明治書院 <ul style="list-style-type: none"> ・過年度の教科書とは異なるので注意すること。 ・教科書は1回目の講義から使用するので、各自準備しておくこと。 ・前期(日本語学概論Ⅰ)と同じ教科書を使用する。
参考書・資料	参考書: 講義中に紹介する。 資料: 随時プリント等を配布する。
講義関連事項	日本語教育に関心のある学生は「日本語教育概論」を併せて受講すること。
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ予定されている休講の場合、翌週(もしくは同じ週)の火曜日5時限に補講を行なう。 ・担当者の急病など、授業当日の朝に休講が決定した場合、休講掲示とともに課題を掲示するので、指示に従うこと。 ・3年次以上の再履修者は、1週目もしくは2週目のオフィスアワーに担当者の研究室へ来て個別ガイダンスを受けること。
その他	・担当者e-mailアドレス tsuzome@center.konan-u.ac.jp

授業コード	11065		
授業科目名	日本語学特殊講義I(後)		
担当者名	張 麟声(チョウ リンセイ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	この授業では日本語教育学の基礎的研究を学習者母語非限定の場合と限定の場合に分けて、それぞれのあるべき姿について考える。母語限定の場合に関しては、中国語を母語とする日本語学習者の中間言語に見られる母語のプラス及びマイナスの転移をとらえ、前者を生かし、後者を防ぐためのストラテジーを講義する。
到達目標	この授業を通して、日本語教育学的研究の一斑を知り、そのための基礎的な能力を身につける。
講義方法	教員による講義、及び、学生による発表。
準備学習	授業中に指示する。
成績評価	平素の学習状況、レポート等によって総合的に評価する。
講義構成	1. 日本語教育学の基礎的研究とは 2. 学習者母語非限定の場合の研究(1) 3. 学習者母語非限定の場合の研究(2) 4. 学習者母語非限定の場合の研究(3) 5. 学習者母語非限定の場合の研究(4) 6. 学習者母語非限定の場合の研究(5) 7. 学習者母語非限定の場合の研究(6) 8. 学習者母語非限定の場合の研究(7) 9. 学習者の母語を限定した場合の研究(1) 10. 学習者の母語を限定した場合の研究(2) 11. 学習者の母語を限定した場合の研究(3) 12. 学習者の母語を限定した場合の研究(4) 13. 学習者の母語を限定した場合の研究(5) 14. 学習者の母語を限定した場合の研究(6) 15. まとめ

教科書	張麟声著『中国語話者のための日本語教育研究入門』大阪公立大学共同出版会 張麟声著『日本語教育のための誤用分析——中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
参考書・資料	白畑知彦ほか著『英語習得の「常識」と「非常識」』大修館書店
講義関連事項	授業中に指示する。
担当者から一言	たとえ将来日本語教師にならなくても、周りに外国の方がたくさん生活している今日、その知識を少し知っておくことが必要であろう。
その他	特になし。
ホームページタイトル	なし。
URL	http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/zhang/lin_index.htm

授業コード	11066		
授業科目名	日本語学特殊講義II(前)		
担当者名	金 美善(キム ミソン)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	外国人の話す日本語を観察すると、母語と日本語との構造的な関係、世代と生活文化との関係、さらには日本の言語政策、(多)言語意識といったホスト社会との関係などさまざまな関係性をのぞくことができます。この授業では、「移民言語」に焦点を当て、日本語を母語としない人々の話す日本語について考えていきます。授業では、言語接触に関連した社会言語学の理論や具体的な言語資料を紹介しながら、日本語の多様性を読み取る方法について学んでいきます。
到達目標	日本語の多様性を、従来の地域方言、社会方言に加え、エスノレクト(ethnolect)の可能性を考えていきます。言語の多様性と規範との関係について、自分なりの考え方を持つことを目標とします。
講義方法	配布プリントを用いた講義形式になるが、参加者が実際にデータに触れ、その内容を分析し、意見交換を行う機会をもうけます。
準備学習	最近はやりの「多文化共生」について、その「具体的実態」を調べて、ことばの面でも考えておきましょう。
成績評価	出席状況やレポートを総合して評価します。
講義構成	1回目 オリエンテーション 2回目 移民と言語問題1 3回目 移民と言語問題2 4回目 在日外国人と言語問題1 5回目 在日外国人と言語問題2 6回目 在日コリアンの言語1 7回目 在日コリアンの言語2 8回目 在日コリアンの言語3 9回目 在日コリアンの言語4 10回目 日本語の多様性1 11回目 日本語の多様性2 12回目 総括、課題発表日 13回目 課題発表日 14回目 まとめ
教科書	講義中に提示します。 プリントを配布します。
参考書・資料	講義中に紹介します。

授業コード	11073
授業科目名	日本語教育概論I(前)
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)

配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。日本語教育と国語教育との違いは何か、日本語教育の方法や教材としてどんなものが用いられているか、また、日本語教育のために知っておかなければならない文法とはどのようなものか、等について講義する。
到達目標	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。
講義方法	テキストと配付資料に沿って講義する。
準備学習	日本語教育、異文化共生等をめぐるニュースに触れ、関心を高めること。
成績評価	学期末の試験70%、出席・提出物等の平常点30%の割合。毎回、出席票うらに質問、感想等のコメントを必ず書いてもらいます。
講義構成	テキストに沿って、以下の事柄について講義する。 (1)外国語としての日本語の教育 (2)教授法の背景 (3)授業の方法 (4)実際指導の具体例 (5)教授法の変遷
教科書	『教師用日本語教育ハンドブック7 教授法入門』(国際交流基金日本語国際センター)凡人社発行
参考書・資料	講義内で紹介します。
講義関連事項	日本語学、言語学に関する講義。

担当者から一言	外国人に対する日本語ボランティアに興味のある人は、ボランティア先を紹介しますので、積極的に取り組んでください。
その他	日本語を教える技術だけでなく、異文化コミュニケーションや異文化理解に対する興味も深めてください。

授業コード	11074		
授業科目名	日本語教育概論II(後)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	外国人に対する日本語教育についての概略を知る。本講義においては、特に、日本語教育における文法について考える。外国人に対して日本語を教える際には、日本語教育に合った文法を知っておく必要がある。その文法について学び、どうすれば外国人にとって分かりやすい説明が可能かを考える。
到達目標	日本語教育文法についての概略を知る。
講義方法	配布資料に沿って、日本語教科書での当該事項の扱いについても触れながら講義を進める。
準備学習	扱う文法項目についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
成績評価	学期末の試験70%、出席・提出物等の平常点30%。
講義構成	以下のテーマについて講義する。 (1)コソア (2)助詞の用法 (3)動詞の活用 (4)形容詞 (5)自動詞と他動詞 (6)アスペクト (7)受身 (8)使役 (9)モダリティ (10)目的節・理由節 (11)条件節 (12)連体修飾 (13)やりもらい (14)敬語
教科書	プリント資料を配付する。
参考書・資料	講義時間中に指示する。
講義関連事項	日本語学、言語学に関する講義。

担当者から一言	外国人に対する日本語ボランティアに興味のある人は、ボランティア先を紹介しますので、申し出てください。
その他	日本語を教える技術だけでなく、異文化コミュニケーションや異文化理解に対する関心を高めてください。

授業コード	11075
-------	-------

授業科目名	日本語教育研究I(前)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日5限。2号館7階の原田研究室(273)に来てください。または授業終了後に声をかけてください。できれば、予約を入れておいてくれると助かります。		

講義の内容	外国人に対する日本語教育について、日本語によるコミュニケーションとは何かをテーマに学習します。特に、多文化共生社会や異文化コミュニケーションの考え方から、日本語教育のための文法能力と社会言語的能力を中心に理論と実践の両方の側面から学びます。
到達目標	1. 多文化・多言語共生社会での日本語教育及び日本語教師の活動を理解すること 2. 外国語教育としての日本語文法の体系的な教え方を学ぶこと 3. 文献を読み理解し要点を把握して、他の人に伝え発表できること 4. 自分の意見を整理して他の人に説明し、発表できること
講義方法	講義とあわせて、グループ討論、発表、文献の購読などを行います。一方的に講義を行うのではなく、双方向授業の形式で行います。課題への主体的取り組み、授業への積極的参加、自己の意見の意欲的な説明と発表を期待します。
準備学習	1. 日本語教育、日本語教授法、日本語教育文法の基礎知識が必要なため、「日本語教育概論Ⅰ,Ⅱ」で学んだ、外国人に対する日本語教育の概略と外国人に対する日本語教育文法の基本を修得していることが前提です。未修得の学生は、『新・はじめての日本語教育Ⅰ』(アスク講談社)を読むようにしましょう。 2. My KONANIに、持参するべき資料や連絡事項を掲載しているので、毎回チェックしてから授業に参加するようにしましょう。
成績評価	出席30%のほかに提出物、発表、試験により総合的に評価します。
講義構成	以下のテーマを取り上げます。一つのテーマが複数回になることや、テーマの順序が入れ替わることがあります。 ・日本語教師の仕事と役割 ・多文化の中での日本語コミュニケーション ・異文化コミュニケーションと日本語教育 ・日本語文法と表現 ・日本語文法をどう教えるか ・日本語能力とは何か
教科書	特に指定はしません。必要に応じて資料を配布します。
参考書・資料	『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社刊、 『多文化共生のコミュニケーション—日本語教育の現場から』アルク 『日本語教師のための外国語教育学』風間書房 『欧米人が沈黙するとき—異文化間のコミュニケーション』大修館書店

授業コード	11076		
授業科目名	日本語教育研究II(後)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	月曜日4限。2号館7階の原田研究室(273)に来てください。または授業終了後に声をかけてください。できれば、予約を入れておいてくれると助かります。		

講義の内容	外国人に対する日本語教育について、日本語の言語と文化、異文化コミュニケーションと異文化理解をテーマに学習します。特に、異文化コミュニケーションと異文化理解の考え方から、日本語教育のための文法・表現と日本語についての社会言語文化を中心に、理論と実践の両方の側面から学びます。
-------	--

到達目標	1. 多文化・多言語共生社会での日本語教育及び日本語教師の実践と活動を理解すること 2. 外国語教育としての日本語文法の体系的な教え方を学ぶこと 3. 文献を読み理解し要点を把握して、他の人に伝え発表できること 4. 自分の意見を整理して他の人に説明し、発表できること 5. 日本語教育に関連するテーマの一つを選び、授業でプレゼンテーションを行うこと
講義方法	講義とあわせて、グループ討論、発表、文献の購読などを行います。一方的に講義を行うのではなく、双方向授業の形式で行います。課題への主体的取り組み、授業への積極的参加、自己の意見の意欲的な説明と発表を期待します。
準備学習	1. 日本語教育の観点からの異文化コミュニケーション、異文化理解、多文化共生社会に対する基礎知識が必要なため、「日本語教育研究Ⅰ」で学んだ、外国人に対する日本語教育概略と日本語文法と表現の基本を修得していることが前提です。 未修得の学生は、『新・はじめての日本語教育1』、『はじめての日本語教育2』(アスク講談社)、 『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社刊、『多文化共生のコミュニケーション—日本語教育の現場から』アルク、を参考にしましょう。 2. My KONANIに、持参するべき資料や連絡事項を掲載しているので、毎回チェックしてから授業に参加するようにしましょう。
成績評価	出席30%のほかに提出物、発表、試験により総合的に評価します。
講義構成	以下のテーマを取り上げます。一つのテーマが複数回になることや、テーマの順序が入れ替わることがあります。 ・異文化コミュニケーションと日本語教育 ・日本語文法と表現 ・日本語文法をどう教えるか ・日本語文法と社会言語文化
教科書	特に指定はしません。必要に応じて資料を配布します。

授業コード	11079		
授業科目名	日本語教育特殊講義(前)		
担当者名	鈴木庸子(スズキ ヨウコ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜5限

講義の内容	日本語教育能力検定試験は、日本語教員として、日本語学校、公的機関等で働くための資格の一つですが、出題範囲が幅広く、効果的な対策が必要です。 本講義では、日本語教育能力試験の問題を解きながら、日本語教育の実践につながる体系的な基礎知識を確認していきます。 日本語教育のための文法、語彙、音声など言語一般の基礎知識と、言語と社会、言語と心理、第二言語習得、異文化理解などを出題傾向を考えながらまとめていきます。
到達目標	日本語教育学において、基礎的な知識を固め、実践に生かすために、どのように対応すればいいか考えることができる。 日本語教育能力試験を目指す人は、検定合格のための知識を確実なものにし、どの分野の勉強が必要か把握することができる。
講義方法	実際に試験問題を解きながら、配付プリントに沿って講義する。聴解問題は試験の出題傾向に慣れるため、音声CDを聞き、要点をまとめていく。
準備学習	日本語学習者は多様で、学習環境も様々です。日本語学習者、日本語教育に関する記事やニュースなどには目を通し、交流センターなどで日本語学習者と接するようにすること。
成績評価	学期末の試験80%、出席・授業態度などの平常点20%
講義構成	第1回 日本語教育能力試験の概要 第2回～第8回 試験Ⅰ(日本語の文法、語彙、言語学、言語教育法、異文化間教育、言語習得などの基礎的知識)、試験Ⅱ(音声)を解きながら、基礎を固める。 第9回～第15回試験Ⅲ(横断的な設問や現場対応能力)を解きながら、応用能力を高める。
教科書	『平成21年度 日本語教育能力検定試験 試験問題』財団法人 日本国際支援協会 凡人社
参考書・資料	講義内で紹介します。

授業コード	11077		
授業科目名	日本語教授法研究I(前)		
担当者名	長谷川重和(ハセガワ シゲカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	この講義は、日本語教員養成課程の一環として、日本語教育に携わる人が心得ておくべき基本的な知識の習得を目的とする。前期は、日本語文法の基本的事項について実例を通して理解を深め、どのように教えるかを考えていく。
到達目標	(1) 日本語文法の基礎を理解する (2) 日本語学習者が理解しやすい例文を作る能力を身につける (3) 具体的な場面・状況を考え、初級教材を作成する
講義方法	講義形式ではなく、全員参加型の討論主体の授業。毎回のテーマについて各自が事前に調べ、授業で発表するというタスクを課す。タスクをこなしながら基本的知識を身につけるという手法で進める。
準備学習	日本語学や言語学などの基本的知識を修得していることが望ましい。
成績評価	出席(20%)、各テーマについてのミニ・レポート(30%)、プロジェクト・ワーク(20%)、学期末のレポート(30%)
講義構成	(1) 日本語のきまりと仕組み (2) 文の構成要素とその種類 (3) 述語の種類 (4) 「主語」「主題」「とりたて」 (5) 述語の活用 (6) テンス・アスペクト (7) ヴォイス(態)
教科書	国立国語研究所(編)寺村秀夫著『日本語の文法(上)』(日本語教育指導参考書4)国立印刷局 ISBN4-17-311404-4

担当者から一言	日本語を教えるためには日本語文法についてしっかり理解しておくことが大切です。さまざまな準備作業を通じて、実際の授業で役立つ実践的な技術を身につけ、日本語教育のための「実用文法」とは何かを考えていきたいと思えます。
---------	--

授業コード	11078		
授業科目名	日本語教授法研究II(後)		
担当者名	長谷川重和(ハセガワ シゲカズ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜4限

講義の内容	この講義は日本語教員養成課程の一環として、日本語教育に携わる人が心得ておくべき基本的な知識の習得を目的とする。後期は中・上級の学習者にどのように教えるのかを中心課題とする。特に、複文について基本的な文型と実際にどう教えるかを考えていく。
到達目標	(1) 中級・上級の学習者のための文型を理解する (2) 学習者が理解しやすい例文を作る能力を身につける (3) 実際の場面・状況を考え、中上級教材を作成する
講義方法	講義形式ではなく、全員参加型の討論主体の授業。毎回のテーマについて各自が事前に調べ、授業で発表するというタスクを課す。タスクをこなしながら基本的知識を身につけるという手法で進める。
準備学習	日本語文法の基礎を修得していることが望ましい。
成績評価	出席(20%)、各テーマについてのミニ・レポート(30%)、プロジェクト・ワーク(20%)、学期末のレポート(30%)
講義構成	(1) 複文の類型 (2) 並列的接続

	(3)理由・原因 (4)時の特定 (5)条件表現 (6)連体修飾1 (7)連体修飾2
教科書	国立国語研究所(編)寺村秀夫著『日本語の文法(下)』(日本語教育指導参考書5)国立印刷局 ISBN4-17-311405-2

担当者から一言	中級・上級の学習者がより日本語らしい表現を身につけるためにはどんな工夫が必要でしょうか。学習者が実際の場面で用いることのできる、自然な日本語表現とは何かを考えていきたいと思えます。
---------	--

授業コード	11L11		
授業科目名	日本語教授法実習I(1クラス)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
オフィスアワー	原田…火曜日14:40～16:10、その他必要に応じて電話や口頭で予約のうえ随時。		

講義の内容	優秀な日本語教員は、日本語の言語に関する体系的な知識を持っていると同時に、いかにして、学習者に日本語を早く正確に習得させるかの教授方法を身につけていかねばなりません。 この実習では、甲南大学における「日本語教員養成課程」での最終段階として教壇実習や交流活動を行ない、これまで学んだ体系的知識を実際教育でどう生かすかを実践してみます。
到達目標	・日本語教育文法や表現を、外国人を対象に共に学び教えることができること ・外国人を対象に、チューターや教師として実際に教える体験と能力を培うこと
講義方法	1) 双方向授業の形式で行います。 2) 受講者は、課題について、発表や報告をします。 3) 教師と学生の役割を担って、模擬授業を行います。 4) 留学生と交流を行い、意見を交換し、共同授業などを行います。 5) 留学生を対象に教壇実習をします。 6) 留学生や地域の外国人との交流活動を行い、企画や実施状況について話し合います。
準備学習	・日本語教育についての全般的知識を習得していることが前提です。「日本語教員養成課程」のコースで学習したことで、苦手だった分野は復習しておくこと。特に、日本語教育文法の基本的な知識は身に付けておくことが大切です。
成績評価	出席(20%)、教壇実習を行う、又は、交流活動を行いその報告書を提出する(40%)、試験(20%)、その他発表や提出物など(20%)
講義構成	1) 実践に必要な知識や技術を習得するための授業。 2) 各文法項目・レベル・テーマ別に課題に沿った発表や報告。 3) 留学生や他の日本語教育機関との交流、授業見学、意見交換、共同授業を通じての異文化コミュニケーションと多文化への理解と実践。 4) 甲南大学の留学生を対象に実際に教壇で教える実践活動。 5) 留学生や地域の外国人との交流活動を企画し実際に行い、異文化や多文化への理解を深めて報告書にまとめる。
教科書	授業時に指定、随時プリント配布
参考書・資料	『新改定版日本語教授法』石田敏子著(大修館書店)、『日本語教授法』木村宗男他編(桜楓社)、『教授法マニュアル70例、上・下』富田隆行著(凡人社)
講義関連事項	「日本語教育研究」「日本語教授法概論」「日本語教授法研究Ⅰ、Ⅱ」新聞・日本語関係雑誌の日本語教育に関する記事

担当者から一言	この授業を通じて、異文化交流の難しさと同時に楽しさを体験することでしょう。互いに理解し合うために、どのように自己表現を工夫し、経験を積み重ねていったらよいか、学生同士が互いの発表や実習について、評価を交換しながら考えていきます。一年後の授業の成果が楽しみです。
---------	--

その他	日本語教員養成課程、実習の科目を始めて履修する者は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること
-----	---

授業コード	11L12		
授業科目名	日本語教授法実習I(2クラス)(前・集中)		
担当者名	中島孝幸(ナカハタ タカユキ)、黄 淑燕(コウ シュクエン)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	これまで日本語、日本語教育に関する種々の科目から学んだことを基礎に、実際に日本語を教える場に立つて、日本語教育の実験を経験する。
到達目標	日本語教材の作成、教室活動の研究を通して、外国人に日本語を教える上での実践的な力を養うのが目標である。
講義方法	(前期)テキストに沿って、教材作成や教室活動の実際について学ぶ。順に担当者を決めて、模擬授業を行う。(後期)台湾台中市の東海大学において、日本語クラスを編成し、台湾の学生を対象に日本語を教える実習を行う(夏期休暇中の9月上旬、一週間集中)。
準備学習	「日本語学概論」「日本語文法論」「日本語教育概論」等の履修によって、日本語や日本語教育に関する基礎的知識を習得しておくこと。
成績評価	教室での発表、実習への取り組み、実習態度等を総合的に評価する。
講義構成	(前期) 1. 学習者のニーズ分析 2. 教材研究 3. 教授法研究 4. 模擬授業 5. 台湾事情 (後期) 1. 実習の計画 2. 実習 3. 実習の反省 後期の実習は、台湾東海大学の学生とチームを組んで行う。前期から、インターネット上の掲示板、email等で台湾の学生と連絡を取り合いながら進める予定である。
教科書	『やさしい日本語指導8 教室活動』藤沢昌弘著(凡人社)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	可能な場合は、日本語ボランティア等に積極的に関わってください。

担当者から一言	実習費用は、往復航空運賃、宿泊費を含めて8万円程度かかる見込み。そのほかに実習費を徴収する。日程、費用ともに正確には決定していないので、前期中の連絡に注意すること。
その他	本科目は通年科目であるが、後期分は夏期休暇中に集中して行うので、後期の通常時間帯での授業は行わない。

授業コード	11L21		
授業科目名	日本語教授法実習II(1クラス)		
担当者名	原田登美(ハラダ トミ)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(火曜3限)
オフィスアワー	原田…火曜日14:40～16:10、その他必要に応じて電話や口頭で予約のうえ随時。		

講義の内容	優秀な日本語教員は、日本語の言語に関する体系的な知識を持っていると同時に、いかにして、学習者に日本語を早く正確に習得させるかの教授方法を身につけていかねばなりません。この実習では、甲南大学における「日本語教員養成課程」での最終段階として教壇実習や交流活動を行ない、これまで学んだ体系的知識を実際教育でどう生かすかを実践してみます。
到達目標	・日本語教育文法や表現を、外国人を対象に共に学び教えることができること ・外国人を対象に、チューターや教師として実際に教える体験と能力を培うこと
講義方法	1) 双方向授業の形式で行います。 2) 受講者は、課題について、発表や報告をします。 3) 教師と学生の役割を担って、模擬授業を行います。 4) 留学生と交流を行い、意見を交換し、共同授業などを行います。 5) 留学生を対象に教壇実習をします。 6) 留学生や地域の外国人との交流活動を行い、企画や実施状況について話し合います。

準備学習	・日本語教育についての全般的知識を習得していることが前提です。「日本語教員養成課程」のコースで学習したことで、苦手だった分野は復習しておくこと。特に、日本語教育文法の基本的な知識は身に付けておくことが大切です。
成績評価	出席(20%)、教壇実習を行う、又は、交流活動を行いその報告書を提出する(40%)、試験(20%)、その他発表や提出物など(20%)
講義構成	1) 実践に必要な知識や技術を習得するための授業。 2) 各文法項目・レベル・テーマ別に課題に沿った発表や報告。 3) 留学生や他の日本語教育機関との交流、授業見学、意見交換、共同授業を通じての異文化コミュニケーションと多文化への理解と実践。 4) 甲南大学の留学生を対象に実際に教壇で教える実践活動。 5) 留学生や地域の外国人との交流活動を企画し実際に行い、異文化や多文化への理解を深めて報告書にまとめる。
教科書	授業時に指定、随時プリント配布
参考書・資料	『新改定版日本語教授法』石田敏子著(大修館書店)、『日本語教授法』木村宗男他編(桜楓社)、『教授法マニュアル70例、上・下』富田隆行著(凡人社)
講義関連事項	「日本語教育研究」「日本語教授法概論」「日本語教授法研究Ⅰ、Ⅱ」新聞・日本語関係雑誌の日本語教育に関する記事
担当者から一言	この授業を通じて、異文化交流の難しさと同時に楽しさを体験することでしょう。互いに理解し合うために、どのように自己表現を工夫し、経験を積み重ねていったらよいか、学生同士が互いの発表や実習について、評価を交換しながら考えていきます。一年後の授業の成果が楽しみです。
その他	日本語教員養成課程、実習の科目を始めて履修する者は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること

授業コード	11L22		
授業科目名	日本語教授法実習Ⅱ(2クラス)(前・集中)		
担当者名	中畠孝幸(ナカハタ タカユキ)、黄 淑燕(コウ シュクエン)		
配当年次	4年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(火曜3限)、後期(集中講義)
オフィスアワー	木曜日14:40～16:10		

講義の内容	これまで日本語、日本語教育に関する種々の科目から学んだことを基礎に、実際に日本語を教える場において、日本語教育の実践を経験する。日本語教材の作成、教室活動の研究を通して、外国人に日本語を教える上での実践的な力を養うのが目的である。
到達目標	日本語教授の基本的な方法について学ぶ。異文化に関する興味を深める。
講義方法	(前期)テキストに沿って、教材作成や教室活動の実際について学ぶ。順に担当者を決めて、模擬授業を行う。(後期)台湾台中市の東海大学において、日本語クラスを編成し、台湾の学生を対象に日本語を教える実習を行う(夏期休暇中の9月上旬、一週間集中)。
準備学習	模擬授業等の担当の準備をしておくこと。
成績評価	教室での発表、実習への取り組み、実習態度等を総合的に評価する。
講義構成	(前期) 1. 学習者のニーズ分析 2. 教材研究 3. 教授法研究 4. 模擬授業 5. 台湾事情 (後期) 1. 実習の計画 2. 実習 3. 実習の反省 後期の実習は、台湾東海大学の学生とチームを組んで行う。前期から、インターネット上の掲示板、email等で台湾の学生と連絡を取り合いながら進める予定である。
教科書	『やさしい日本語指導8 教室活動』藤沢昌弘著(凡人社)
参考書・資料	授業時間中に指示する。
講義関連事項	可能な場合は、日本語ボランティア等に積極的に関わってください。

担当者から一言	実習費用は、往復航空運賃、宿泊費を含めて8万円程度かかる見込み。そのほかに実習費を徴収する。日程、費用ともに正確には決定していないので、前期中の連絡に注意すること。
その他	本科目は通年科目であるが、後期分は夏期休暇中に集中して行うので、後期の通常時間帯での授業は行わない。尚、「日本語教授法実習Ⅱ」は、すでに「日本語教授法実習Ⅰ」を履修した者が登録すること。未履修の場

	合は「日本語教授法実習Ⅰ」に登録すること。
--	-----------------------

授業コード	11059		
授業科目名	日本語語彙論Ⅰ(前)		
担当者名	橋本行洋(ハシモト ユキヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	【テーマ】日本語語彙の史的研究(Ⅰ) 日本語の語彙について史的(通時的)観点から考察を行う。
到達目標	日本語の語彙およびその研究に関する基礎知識を習得するとともに、具体的な考察を通して、語彙史研究の実際についての理解を深めることを目的とする。
講義方法	対面講義
準備学習	講義においては、既に明らかな事実を示すとともに、現在担当者が構築中の論をも提示することがある。その点を踏まえ、受講者は講義担当者と同様の問題意識を持つことを心がけてほしい。
成績評価	定期試験(筆記)による評価
講義構成	1 「語」と「語彙」 2 語種について 3 語義変化と語形変化 4 語彙体系とその変化 5 語の派生・語構成について 6 類推と異分析 7 語彙史研究の立場から見た「ら抜きことば」と「くれすことば」 8 「さ入れことば」の成立をめぐって
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。
参考書・資料	講義中に適宜紹介する。
担当者から一言	試験に際しては講義ノート(自筆)が最も重要な資料となる。 また、講義内容は通年を考えているので、できるだけ「日本語語彙論Ⅱ(後)」とともに受講することが望ましい。

授業コード	11060		
授業科目名	日本語語彙論Ⅱ(後)		
担当者名	橋本行洋(ハシモト ユキヒロ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜3限

講義の内容	【テーマ】日本語語彙の史的研究(Ⅱ) 日本語の語彙について史的(通時的)観点から考察を行う。
到達目標	日本語の語彙およびその研究に関する基礎知識を習得するとともに、具体的な考察を通して、語彙史研究の実際についての理解を深めることを目的とする。
講義方法	対面講義
準備学習	講義においては、既に明らかな事実を示すとともに、現在担当者が構築中の論をも提示することがある。その点を踏まえ、受講者は講義担当者と同様の問題意識を持つことを心がけてほしい。
成績評価	定期試験(筆記)による評価
講義構成	1 語彙史研究概説 2 食事語彙(三食の呼称)とその変遷 3 「語彙体系の穴」を埋める:「食感」の成立と展開 4 近世近代における漢語副詞語彙の受容と展開:「全然」「断然」および「俄然」等
教科書	教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

参考書・資料	講義中に適宜紹介する。
担当者から一言	試験に際しては講義ノート(自筆)が最も重要な資料となる。 また、講義内容は通年を考えているので、できるだけ「国語学特殊講義(一)a」とともに受講することが望ましい。

授業コード	11022		
授業科目名	日本語史I(前)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	火曜日4時間目・水曜2時間目、その他適宜。なるべく前もって連絡すること		

講義の内容	上代日本語の形成から中世までを中心に、日本語史の基本的な事項について講義します。
到達目標	日本語学の素養を身につけ、古典をはじめとする言語資料の読みをより確かなものとする。
講義方法	テキストおよび配布プリントによる講義。 授業中にしばしば配布資料による少時間の言葉調べの作業を課します。 これは、具体的に資料を調べることによって、 帰納法という思考の方法を会得することが目的です。
準備学習	教科書による予習。 前回の講義箇所の復習を行い、 プリントやテキストの記述に目を通しておく。 質問事項がないか、自分自身で考えてみる。
成績評価	定期試験を主として、出席状況などを勘案して総合的に評価します。 多すぎる欠席は大きな減点の対象となります。
講義構成	1. 上代語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 2. 中古語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 3. 中世語の資料と言語 ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 (中世は古代語から近代語への転換点であるので、後期にも継続します)
教科書	金田弘・宮腰賢 『新訂国語史要説』 大日本図書
参考書・資料	授業中に示します。
講義関連事項	日本語学、日本文学、言語学など

担当者から一言	ただの暗記でなく、相互関連や変化の理由など考えましょう。
---------	------------------------------

授業コード	11023		
授業科目名	日本語史II(後)		
担当者名	小谷博泰(コタニ ヒロヤス)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜4限
オフィスアワー	金曜日3限・5限		
講義の内容	近世・近代・現代の日本語を中心に講義します。現代語を認識する参考になります。		
到達目標	各種の日本語文献を読む際に、日本語学の素養を生かす。		
講義方法	テキストおよび配布プリントによる講義。 授業中にしばしば配布資料による言葉調べの作業を課します講義。		
準備学習	前回の講義箇所の復習を行い、 プリントやテキストの記述に目を通しておく。 質問事項がないか、自分自身で考えてみる。		
成績評価	定期試験、出席、提出物の状況などで総合評価します。		
講義構成	<p>中世は古典語から近代語への大きな転換点であるので、そこを復習、追加学習した上で次の時代へ移る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 近世語の資料と言語 <ul style="list-style-type: none"> ・表記 ・音韻 ・語彙 ・文法 2. 近代の資料と言語 3. 現代の資料と言語 <p>近代、現代については、日本語学概論をはじめ、語彙、文法など他に関連する講義科目も多い。全体の進行状況によっては、プリントを配布した上で、各自の学習や考察にゆだねることもある。</p>		
教科書	金田弘・宮腰賢『新訂国語史要説』大日本図書		
参考書・資料	授業中に示します。		
講義関連事項	日本語学、日本文学、言語学など		
担当者から一言	暗記だけでなく、資料にもとづいて考えましょう。		

授業コード	11091		
授業科目名	日本語表現研究II(後)		
担当者名	安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜2限
講義の内容	日本語の表現を研究するために養ってきた基礎知識を応用して、文学作品の表現を日本語学の観点から分析・考察することを目的に講義を行います。作品は、阪神間を舞台とした谷崎潤一郎の『細雪』を対象とします。表現研究の方法を実際に体験してみてください。		
到達目標	実際の表現研究を体験し、その他の作品においても、その研究方法を応用できるようにすることが本講義の目標です。		
講義方法	まずは『細雪』の表現について、その使用を確認する課題を毎時間行ってもらいます。その後、それを元に『細雪』の表現研究を講義形式で行います。少人数の場合は参加型の講義になりますので、その心づもりでください。		
準備学習	『細雪』を読んでおいてください。		
成績評価	学期末試験60%＋課題30%＋自主学習10% 詳細は初回講義にて説明します。		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 『細雪』について 2 方言 3 視点 4 命名 5 自称詞 6 対照詞 		

	7 文末 8 感動詞 9 待遇表現① 10 待遇表現② 11 文の長さ 12 漢字 13 句読点 14 記号 15 その他作品の表現研究
教科書	プリント(A4またはA3)を使用します。
参考書・資料	谷崎潤一郎『細雪(上)』の文庫本を用意しておいてください。

授業コード	11K11		
授業科目名	日本語表現法I (A)(前)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	日本語日本文学科1年次		

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(半期4回以上)とレポート、授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレインストーミングという手法 3 作文を書く 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く 手紙の様式 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る 辞書の文章表現の分析 グループでオリジナル辞書を作成する
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入しておく必要はありません。)

担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来快いことです。課題は多いですが、楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。
---------	---

授業コード	11K12		
授業科目名	日本語表現法I (B)(前)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	日本語日本文学科1年次以外		

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(4回以上)とレポート、授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 <ul style="list-style-type: none"> 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレインストーミングという手法 3 作文を書く <ul style="list-style-type: none"> 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く <ul style="list-style-type: none"> 手紙の様式 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る <ul style="list-style-type: none"> 辞書の文章表現の分析 グループでオリジナル辞書を作成する
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入しておく必要はありません。)
担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来楽しいことです。課題に楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。様々な学部、学年の人の集う少人数のクラスですので、一人一人にあった指導をしています。

授業コード	11K21		
授業科目名	日本語表現法II (A)(後)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限
特記事項	日本語日本文学科1年次		

講義の内容	日本語表現法Ⅱでは、日本語表現法Ⅰで培ってきた、文章表現に関する基礎的な知識と基本的な文章作成力に立脚して、論説文・意見文の作成、ディベート、創作などの課題に取り組む中で、論理的な思考力を培い、現実の切り取り方を学び、より高度な自己表現能力の鍛錬を目指します。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章表現能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、レポート、提出課題(4回以上)と授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて 2 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く 3 ディベートを楽しもう グループの作戦会議 ディベートをする 4 意見文を作成する 5 創作 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円 『論文ワークブック』浜田麻里他著 くろしお出版 2500円 (その他、随時、講義の中で紹介していきますのであらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	日本語表現法Ⅰの受講を前提に講義を進めます。授業の中で、同世代の人たちの思いや考えを知り、自分一人では思い及ばないような様々な表現方法にふれることは、自分自身の考えを鍛え、表現を考える、貴重な機会になります。積極的に授業に参加し、自分自身の考えを発信していきましょう。

授業コード	11K22		
授業科目名	日本語表現法Ⅱ(B)(後)		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限
特記事項	日本語日本文学1年次以外		

講義の内容	日本語表現法Ⅱでは、日本語表現法Ⅰで培ってきた、文章表現に関する基礎的な知識と基本的な文章作成力に立脚して、論説文・意見文の作成、ディベート、創作などの課題に取り組む中で、論理的な思考力を培い、現実の切り取り方を学び、より高度な自己表現能力の鍛錬を目指します。授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見していきましょう。
到達目標	基礎的な文章表現能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、レポート、提出課題(4回以上)と授業への参加度によって評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。

講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて 2 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く 3 デベートを楽しもう グループの作戦会議 デベートをする 4 意見文を作成する 5 創作 表現の現場から
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』 伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』 丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円 『論文ワークブック』 浜田麻里他著 くろしお出版 2500円 (その他、随時、講義の中で紹介していきますのであらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	日本語表現法 I の受講を前提に講義を進めます。授業の中で、同世代の人たちの思いや考えを知り、自分一人では思い及ばないような様々な表現方法にふれることは、自分自身の考えを鍛え、表現を考える、貴重な機会になります。積極的に授業に参加し、自分自身の考えを発信していきましょう。

授業コード	11013		
授業科目名	日本語表現論		
担当者名	佐々木聖佳(ササキ ミカ)		
配当年次	1年次	単位数	4
開講期別	2010年度 前期～後期	曜日・時限	前期(木曜2限)、後期(木曜2限)

講義の内容	これからの社会では、情報を分析し、問題を発見し、他者とコミュニケーションをとりながら問題解決をはかる能力と、その内容を正しく表現できる文章力が必要になってきます。この講義では、日本語による様々な文章表現について、個人で、グループで、クラスで分析し、話し合い、そして考えて、文章を書き上げていきます。一年間の授業を通じて、表現することが楽しいと思えるような、そんな「自分の表現」を発見してください。
到達目標	基礎的な文章作成能力を確実に身につけ、論理的な思考力とコミュニケーション力を培い、多様な表現活動を実践していくことを到達目標としています。
講義方法	演習が中心になります。文章作成の基礎的な事項についてはプリントを配布して講じます。また、グループ単位、クラス単位で、課題解決学習、討議、発表を行うことがしばしばあります。
準備学習	日頃から、本、新聞、メディア、映画、漫画など様々な表現に関心を持ち、積極的にふれるようにしてください。
成績評価	出席、提出課題(年間8回以上)とレポート、授業への参加度によって総合的に評価します。グループ活動やディスカッションなど授業に積極的に参加し、課題を確実に提出して下さい。皆出席であっても課題が出されていなければ評価しません。
講義構成	(前期) <ol style="list-style-type: none"> 1 講義内容についてのガイダンス 2 文章表現の基礎 書く技術 題材の選択—主観と客観 ブレインストーミングという手法 3 作文を書く 原稿用紙の使い方 構想をたてて作文を書く 推敲をする 4 手紙文を書く 手紙の書き方 手紙の用語と慣用表現 形式を整えて手紙を書く 5 オリジナル辞書を作る 辞書の文章表現の分析

	<p>グループでオリジナル辞書を作成する</p> <p>(後期)</p> <p>6 履歴書とエントリーシートの書き方 就職活動に備えて</p> <p>7 論説文を書く 論説文とは何か 論説文の用語と構成 論説文を書く</p> <p>8 ディベートを楽しもう グループの作戦会議 ディベートをする</p> <p>9 意見文を作成する</p> <p>10 創作 表現の現場から</p>
教科書	教科書は用いず、プリントを配布します。プリントを整理できるように、ファイルを用意してください。
参考書・資料	『文章表現ハンドブック』伊坂祐次他編、笠間書院 1500円 『国語表現法』丸山顕徳編 佐々木聖佳他著、嵯峨野書院 1700円など (随時、講義の中で紹介していきますので、あらかじめ購入する必要はありません。)
担当者から一言	自分の考えや思いを人に伝え、理解してもらうことは、本来楽しいことです。課題に楽しんで取り組んでもらえたらと思います。面白くて、役に立つ、そして、皆さんを刺激することのできる教材を考えていきます。様々な学部、学年の人の集う少人数のクラスですので、一人一人にあった指導をしています。

授業コード	11024		
授業科目名	日本語文法論I(前)		
担当者名	益岡隆志(マスオカ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オフィスアワーの代わりに、授業内容に関する質問はeメール(masuoka@gold.ocn.ne.jp)で受付けます。		

講義の内容	私たちの母語である現代日本語(共通語)の文法がどのような仕組み(構造)になっているのかということについて、具体的な表現を観察しながら考えていきます。日本語を日常、何不自由なく使用できるということと、日本語の文法の仕組み(構造)を認識するということが、いかに異なることなのかを深く理解することが、この講義の目的です。
到達目標	日本語を知らない人に日本語の文法の仕組みについて具体的に説明ができるようになること。
講義方法	教科書をもとにして適宜、質問するなどして、母語の文法に対する理解が深まるよう、また、文法を体系的に見る目を養うよう工夫します。
準備学習	日本語についての初歩的・入門的な本(日本語概説・日本語概論など)を予め読んでおくことを望みます。教科書『24週日本語文法ツアー』を予習・復習のために読んでください。
成績評価	出席状況とレポート(計2回)を総合して評価します。
講義構成	教科書を基本にして、それに多少の話題を付け加える予定です。一つの課を一回で講義するというのが基本的なペースです。教科書の11週までの部分を取り上げます。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 教科書1週から11週(他に、教科書以外の題材を追加する) 第15回 まとめ
教科書	益岡隆志著『24週日本語文法ツアー』くろしお出版
参考書・資料	益岡隆志・田窪行則著『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
講義関連事項	日本語学・言語学に関わる各科目

担当者から一言	日常無意識に使用している母語の仕組み(構造)を考えるには、意識的なトレーニングが必要です。身近な言葉のなかの隠れた規則性を発見する楽しみを実感してほしいと思います。
ホームページタイトル	益岡隆志のホームページ
URL	http://www2.ocn.ne.jp/~masuoka/

授業コード	11025		
授業科目名	日本語文法論Ⅱ(後)		
担当者名	益岡隆志(マスオカ タカシ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	オフィスアワーの代わりに、授業内容に関する質問はeメール(masuoka@gold.ocn.ne.jp)で受け付けます。		

講義の内容	私たちの母語である現代日本語(共通語)の文法がどのような仕組み(構造)になっているのかということについて、具体的な表現を観察しながら考えていきます。日本語を日常、何不自由なく使用できるということと、日本語の文法の仕組み(構造)を認識するということが、いかに異なることなのかを深く理解することが、この講義の目的です。
到達目標	日本語を知らない人に日本語の文法の仕組みについて具体的に説明ができるようになること。
講義方法	教科書をもとにして適宜、質問するなどして、母語の文法に対する理解が深まるよう、また、文法を体系的に見る目を養うよう工夫します。
準備学習	日本語についての初歩的・入門的な本(日本語概説・日本語概論など)を予め読んでおくことを望みます。教科書『24週日本語文法ツアー』を予習・復習のために読んでください。
成績評価	出席状況とレポート(計2回)を総合して評価します。
講義構成	教科書を基本にして、それに多少の話題を付け加える予定です。一つの課を一回で講義するというのが基本的なペースです。教科書の12週から24週までの部分を取り上げます。 第1回 オリエンテーション 第2回～第14回 教科書12週から24週(他に、教科書以外の題材を追加する) 第15回 まとめ
教科書	益岡隆志著『24週日本語文法ツアー』くろしお出版
参考書・資料	益岡隆志・田窪行則著『基礎日本語文法—改訂版—』くろしお出版
講義関連事項	日本語学・言語学に関わる各科目
担当者から一言	日常無意識に使用している母語の仕組み(構造)を考えるには、意識的なトレーニングが必要です。身近な言葉のなかの隠れた規則性を発見する楽しみを実感してほしいと思います。
ホームページタイトル	益岡隆志のホームページ
URL	http://www2.ocn.ne.jp/~masuoka/

授業コード	11090		
授業科目名	日本語表現研究Ⅰ(日本語の表現)(前)		
担当者名	安井寿枝(ヤスイ カズエ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜2限

講義の内容	私たちはどのような話し方をするか、または書き方をするかを、人間関係・媒体・目的などの条件から場面に応じて反射的に選択して日常生活を送っています。この授業ではそれらがなぜ選択されたのかを意識することで、日本語の表現に注目し、さらにそれに必要な知識を学んでいきます。自らが使用する表現を、研究することに慣れていきましょう。
到達目標	自ら考える力ことを第一の目標とします。そして、自ら考えることにより、基礎知識を確実なものにしましょう。
講義方法	提示したテーマにそった課題を初めに行ってもらい、それに準じた講義を行います。講義後、さらに深めた分析・考察してもらいます。
準備学習	日常の中から表現についての疑問点を探し、なぜそのような表現をするのか考える習慣をつけましょう。
成績評価	学期末試験60%+課題30%+自主学習10% 詳細は初回講義にて説明します。
講義構成	1 校正

	2 メールのことば 3 歌詞 4 短歌 5 オノマトペ 6 位相語・役割語 7 語種 8 文体 9 源氏物語訳 10 品詞 11 話し言葉と書き言葉 12 文章構成 13 文末 14 描写と説明 15 日常の疑問を考える
教科書	プリント(A4またはA3)を使用します。
参考書・資料	多門靖容・半沢幹一編(2005)『ケーススタディ 日本語の表現』おうふう

授業コード	11080		
授業科目名	日本事情(前)		
担当者名	野口雅司(ノグチ マサシ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜1限

講義の内容	日本の大学に入学を希望する外国人日本語学習者に要求される、日本に関する知識及び一般教養的な知識を提示し、それらを踏まえた上で日本語教師として必要とされる知識について学習する。		
到達目標	日本人として、また日本教師として、日本、世界に関する一般的な知識および教養を身につける。		
講義方法	① 日本の大学への進学を希望する外国人が受験する日本留学試験の一つである「総合科目」の問題等を受講者とともに解いていく。 ② 日本語学習者が持つ疑問を具体的に提示し、その回答を受講者とともに考える。		
準備学習	講義は一部発表形式とするので、事前に与えられた課題について各自調べておくこと。		
成績評価	1 平常点(出席率・講義参加度):50% 2 発表:25% 3 学期末テスト:25% * 学期末テストだけでの単位取得は困難である。		
講義構成	1:「総合科目」(「日本留学試験」)及び「異文化コミュニケーション」・「日本事情」(「日本語教育能力検定試験」)に関する問題を実際に受講生に解いてもらう。 2:問題に関連する知識、情報、統計等を提示する。 3:日本人の言動や日本の伝統・習慣などに関して、多くの日本語学習者が持つ疑問を提示、その回答を次の講義までの課題とする。課題の回答は受講生の担当制とし、発表形式をとる。		
教科書	「日本留学試験 総合科目」の過去問題等のプリントを講義時に配布する。		
参考書・資料	『チャレンジ総合科目 日本留学試験対応』(日本留学試験研究会(編)国書刊行会)		
担当者から一言	日本事情に関する知識は日本語学習者はもちろん、日本語教師にとっても必要不可欠な知識である。将来日本語教師を目指す人は、ぜひ受講してほしい。		

授業コード	11086		
授業科目名	日本の芸能(後)		
担当者名	大山範子(オオヤマ ノリコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜3限

講義の内容	能・狂言に関する講義。能楽(能・狂言)を楽しむための基本的なことがらについて解説後、具体的に作品に触れながら、中世・近世の文化との関わりを中心に論じる。
到達目標	受講者が能楽についての知識を深め、楽しく鑑賞しつつその特性を理解できることを目指す。また、能を含めた中世の芸能とそれらが後世に与えた影響を知ることで、日本文化について考える際の手がかりの一つを得る。
講義方法	最初に、能についてさまざまな面から概説的講義を行う(現代の上演芸術としての能や、そこに至る歴史の変遷など)。その上で、いくつかの作品を取り上げて詞章を読み、ビデオ等を用いて舞台映像を鑑賞しながら、能が先行する文化(特に文学作品)をどのように受容し創作されているのか、また後世にどのような影響を及ぼしたかなど、幅広く考察する。
準備学習	取り扱う作品の詞章は事前に配布するので、必ず目を通して講義に望むこと。
成績評価	講義時に課す小課題(不定期、数回を予定)30%、期末レポート70%で評価する。
講義構成	第1回 能ってどんなもの? —能・狂言入門— 第2回 能の諸相 —能を「見る」・「聞く」・「読む」— 第3回 能の歴史と受容史 第4回 能の詞章と古典文学をめぐって 第5～6回 能《高砂》—能と古今注— 第7～8回 能《忠度》—能と『平家物語』— 第9～10回 能《野宮》—能と『源氏物語』— 第11～12回 能《隅田川》—能と『伊勢物語』— 第13～14回 能《安宅》と「勸進帳」—能と近世演劇— 第15回 狂言「附子」—狂言と説話・伝承—
教科書	特に定めず、講義時にプリントを配布する。
参考書・資料	新潮日本古典集成『謡曲集(上・中・下)』(新潮社) 日本古典文学大系『謡曲集(上・下)』(岩波書店) 新編日本古典文学全集『謡曲集(一)・(二)』(小学館) 『岩波講座 能・狂言(Ⅰ?Ⅶ、別巻)』(岩波書店) 詳細は、各作品に関する文献も含め、講義の中で適宜紹介する。
担当者から一言	能・狂言の世界を通して、日本の「中世」を感じてみませんか。
その他	「講義構成」に掲げた作品は、受講者の人数や関心によっては変更する場合があります。

授業コード	11001		
授業科目名	日本文学概論I(後)		
担当者名	木股知史(キマタ サトシ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限
オフィスアワー	火曜 12時30分～13時		

講義の内容	日本近代文学の概要を多様なジャンルの作品を通じて理解することを目標としています。 ジャンルとは、芸術作品の様式のことを言いますが、近代文学では、小説(長編小説、ノベル、短編小説など)、詩歌(短歌・俳句・詩など)、戯曲、批評といった表現様式があります。 それぞれの表現様式から、具体的な作品を取り上げて、表現の特性を理解するとともに、あわせて、研究の基礎についてもふれることができるように配慮したいと思います。 作品については、明治大正期のもものと、現代に近いものを対照して、近代文学のひろがり理解できるように工夫したいと考えています。 文学史のありかた、メディア環境と文学といった、近代文学を成立させている枠組についても視野に含めたいと思います。
到達目標	日本近代文学の多様性について、具体的な作品を通して理解すること。 文学と社会のつながりについて考えること。 基本的なキーワードの意味を的確に理解すること。
講義方法	各項目毎に、プリント教材を配布して進める。 質問紙、小レポートを適宜配布し、受講者の声を反映したい。
準備学習	抄出作品については、全文を読むようにすること。 文学事典などをひく習慣を身につけること。

成績評価	レポート(小レポート、期末レポート)、出席等によって評価します。
講義構成	1 近代文学のジャンルと「文学」概念の変遷 2 小説 短編小説 3 小説 長編小説 4 小説 メタフィクション 5 詩歌 6 戯曲 7 文学と伝承 * 各項目について1～2回の講義をおこなう。
教科書	各テーマごとに冊子型のプリントを配布する。
参考書・資料	配布プリント等で指示します。
担当者から一言	注意事項 ①受講者は、かならず第1回目の授業に出席すること。 ②配布プリントを保存するファイルを各自準備し、授業時に持参すること。

授業コード	11002		
授業科目名	日本文学概論II(前)		
担当者名	周防朋子(スホウ トモコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	古典文学を勉強するための基礎的な知識を身につけるとともに、変体仮名(くずし字)の解読方法や初歩的な書誌学をあわせて学ぶ。
到達目標	変体仮名(くずし字)の解読の練習を行うことによって、直接原典やその影印が読める能力が身につく。
講義方法	担当者の講義形式が主であるが、くずし字の解読の際は受講者を指名して読んでもらう。また、適宜小テストを行い、学習の進展具合を確認しつつ進める。
準備学習	『字典かな』を使って、テキストの予習と復習を行い、くずし字に触れるようにしてほしい。
成績評価	講義に4回以上欠席した受講者は、その段階において単位を取得することができない(不可の評価になる)。その他の場合は、出席点(30パーセント)と期末の試験(70パーセント)によって評価する。日常の学習態度や提出物も加味する。
講義構成	1、書誌学の基礎の基礎 2、くずし字解読の初歩――「いろは」を学ぶ 3、くずし字解読の初歩――字母とくずし方 4、くずし字解読・中級編(1)連綿体を読む 5、くずし字解読・中級編(2)和歌を読む 6、くずし字解読・やや難解編(1)古筆切を読む 7、くずし字解読・やや難解編(2)さらに古筆切を読む 8、くずし字解読と翻刻、釈文作成について 9、「一寸法師」をくずし字で読む 適宜に、パワーポイントの画像を使って講義を行う。
教科書	『一寸法師』(原本複製 お伽草子、市古貞次編)三弥井書店[500円+税] 『字典かな』(出典明記、改訂版)笠間書院[380円+税] どちらも必ず購入しておくこと。 また、適宜資料を配付する。配布資料は、当日欠席した者の分を後日配布することはない。
参考書・資料	適宜授業中に指示する。
講義関連事項	高等学校までに学んだ古文の知識は身に付いているものとして講義する。

担当者から一言	今後、近代文学や日本語学を専攻しようとする人にとっても、古典文学の基礎は必要な知識である。たとえば、明治時代の作家には古文体で執筆する者もおれば、その生原稿がくずし字で書かれていることも多い。「自分にはいらないから」という気持ちは捨てて取り組むこと。予習、復習は必ずしておくこと。授業中に指名して答えてもらう。厳しく指導するが、がんばればくずし字は1、2ヶ月で読めるようになるので、ついてくること。
その他	授業中、はなはだしい私語で周囲に迷惑をかけた場合は退出を命じる。携帯電話は電源を切ってかばんの中に

	しまうこと。病気等の場合を除いて、授業中の飲食は禁止し、飲料などを机の上に置かないようにしてほしい。化粧品などの授業に関係ないものを授業中に取り出した場合も退出を命ずる。必修科目なので、出来る限り一年次で単位を取得しておくよう努力すること。
ホームページタイトル	HPはなし。

授業コード	11014		
授業科目名	日本文学史Ia (前)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	水曜日9:40~10:40		

講義の内容	これまでの諸君にとって、「日本文学史」はどんな存在だったろうか。『国語便覧』などに載っている知識をそのまま「暗記」するものであり、定期試験などでは、そうした「暗記」に拠る得点源だったのではないだろうか。本講義では、〈日本文学史〉は、ある〈視点〉から創り上げられたものであることを自覚することから始めよう。そしてそのうえで、〈日本文学史〉を構想することはいかに可能であるかを、共に〈考えて〉いこう。
到達目標	日本文学や日本文化について論じるための基礎を固める。
講義方法	毎回配布するプリントに基づいて講義する。
準備学習	〈考える〉ためのトレーニングをしておいて下さい。例えば、新聞の論説を読んで、自分ならばどう論じるかを考えてみる、などです。
成績評価	定期試験の成績に拠る。
講義構成	○〈日本文学史〉を構想することとは？ カノン(〈古典〉)の形成について 「国歌集としての『万葉集』」という刷り込みについて ○〈日本文学史〉を構想することはどのように可能か？ 同一題材の利用に見る〈日本文学史〉
教科書	毎回配布する担当者独自のプリント
参考書・資料	ハルオ・シラネ氏、鈴木登美氏編『創造された古典』(1999年4月、新曜社)
担当者から一言	高校までで受けた授業とは異なる刺激的な講義となろう。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	11015		
授業科目名	日本文学史Ib (後)		
担当者名	廣川晶輝(ヒロカワ アキテル)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜3限
オフィスアワー	水曜日9:40~10:40		

講義の内容	これまでの諸君にとって、「日本文学史」はどんな存在だったろうか。『国語便覧』などに載っている知識をそのまま「暗記」するものであり、定期試験などでは、そうした「暗記」に拠る得点源だったのではないだろうか。本講義では、〈日本文学史〉は、ある〈視点〉から創り上げられたものであることを自覚することから始めよう。そしてそのうえで、〈日本文学史〉を構想することはいかに可能であるかを、共に〈考えて〉いこう。
到達目標	日本文学や日本文化について論じるための基礎を固める。そのうえで、日本文学や日本文化について自らの視点で論じる力を身に付ける。
講義方法	毎回配布するプリントに基づいて講義する。
準備学習	前期の「日本文学史 I a」において得る知見を基盤として講義は進むので、「日本文学史 I a」の講義内容を修得しておくように。
成績評価	定期試験の成績に拠る。

講義構成	○〈日本文学史〉を構想することとは？ カノン(〈古典〉)の形成について 「国民的叙事詩としての『平家物語』」という渴望について ○〈日本文学史〉を構想することはどのように可能か？ 折口信夫に学ぶ 和歌史をめぐる
教科書	毎回配布する担当者独自のプリント
参考書・資料	ハルオ・シラネ氏、鈴木登美氏編『創造された古典』(1999年4月、新曜社)
講義関連事項	上掲「準備学習」の項目で記したとおりである。前期の「日本文学史 I a」を履修し知見を得ておくことを勧めたい。
担当者から一言	高校までで受けた授業とは異なる刺激的な講義となろう。受身ではない積極的な参加を望む。

授業コード	11016		
授業科目名	日本文学史IIa (前)		
担当者名	塚本章子(ツカモト アキコ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	授業終了後		

講義の内容	明治中期から大正末頃にかけての文学史について講義します。この時期は、西洋文学の影響を受けながら、言文一致、浪漫主義、自然主義、白樺派といった文学が、急速に開花し展開していく時期です。明治以降、近代社会が形成されていくなかで、個人の内面は、どのように発見され、描き出されていったのでしょうか。そして、自由を求める精神と社会との衝突はどのように起きていったのでしょうか。こういった問題を、女性の生き方の変化、女性作家の活躍、文学に描かれる女性像の変化を一つの軸にして、作品に触れながら考察していきます。
到達目標	日本近代文学の歴史、女性像の変化、女性文学の展開について理解し、明治大正期の文学を読んで適切な意見を述べることができる。
講義方法	プリントを配布します。実際の作品本文をできるだけ多く紹介します。写真や映像等の視聴覚教材も用います。意見を書いてもらい、紹介することもあります。
準備学習	高等学校で習った文学史を復習しておいてください。
成績評価	試験(50%)、提出物・出席・授業態度等(50%)によって評価します。3分の2以上の出席をしなければ成績を評価しません。
講義構成	1 坪内逍遙と二葉亭四迷の試み 2 樋口一葉の登場と活躍 3 与謝野鉄幹と与謝野晶子の闘い 4 自然主義文学と女性 5 大逆事件の衝撃 6 夏目漱石の作品に見る女性像 7 森鷗外の苦悩 8 白樺派の作家たちと新しい女性像 9 梶井基次郎と芥川龍之介の新しさ ※各テーマごとに、1～2回の講義をあてます。順序を変更することもあります。
教科書	プリント配布
参考書・資料	プリント配布。参考になる著書を授業で紹介します。
講義関連事項	特になし
担当者から一言	授業をよく聞き、要点を書き取っていくこと。配布したプリントは、各自ファイルなどに整理していくこと。紹介した作品全体を出来るだけ多く読んで、興味や関心を広げていってください。
その他	特になし

ホームページタイトル	なし
------------	----

授業コード	11017		
授業科目名	日本文学史IIb(後)		
担当者名	島村健司(シママラ ケンジ)		
配当年次	1年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限
オフィスアワー	講義直後、およびメールにて応じます。		

講義の内容	昭和期の文学 1920～1950年代あたりをおもな射程として、文学とくに小説の転回を考える。昭和中期までに相当するこの時期は「激動の昭和」ともいわれる。文学作品が生成されてきたこうした時代背景に眼を向けながら、具体的な作品もとりあげてすすめる。その際、既存の文学史を問いなおし、単に歴史的に過去をなぞるのではなく、いまのわれわれの問題とかかわらせながら考えていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ◆主として1920年代から1950年代の文学、とくに小説の転回をとらえる。 ◆さまざまな文学者、作品に触れ、見識を広げる。 ◆文化的背景と表現のかかわりを考える力を養う。 ◆われわれが身をおく日常空間と物語世界とのかかわりについて自覚的になる。
講義方法	講義形式で行なう。配布資料を中心とする。場合によっては視覚資料(パワーポイントを利用)を用いる。
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ◆後期の講義開始までに昭和期の日本文学の流れについて書かれている書物を読んでおくこと。書名は指定しないので、各人で探すこと。 ◆資料はなるべくそれを扱う時間の前時に配布するようこころがけるので、資料内容に目を通し、知らない人名などを調べたり、引用してある作品(資料には抜粋した本文のみ掲載)などの全文を読んでみる。
成績評価	試験(50%)、課題(30%)、出席(20%)を総合して評価する。
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 関東大震災がもたらしたもの 2 プロレタリア文学と新感覚派 3 「セメント樽の中の手紙」と「機械」 4 大衆文学の興隆 5 「文芸復興」が叫ばれる時代 6 「墨東綺譚」と「道化の華」 7 戦時下の統制 8 戦後の転回 <p>*各テーマごとに1～3回の講義にあてる。</p>
教科書	とくに指定しない。資料を配る。
参考書・資料	講義時に紹介する。
担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> ◆配布資料はファイルにまとめるなどして整理すること。 ◆講義内容は、必ず要点を書き取り、ノートなどにまとめること。 ◆課題は期日までに必ず提出すること。 ◆疑問や意見などがある場合は、遠慮なく発言することを望む。

授業コード	11054		
授業科目名	日本文学特殊講義I(後)		
担当者名	中原香苗(ナカハラ カナエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	金曜2限

講義の内容	『方丈記』の著者として名高い鴨長明は、和歌や管絃に造詣の深い数寄者である。『方丈記』のほか、歌集『鴨長明集』、歌論書『無名抄』、説話集『発心集』を編んでいる。このうち『無名抄』には、彼の和歌に対する考え方とともに和歌に関しての興味深い逸話が多数収録されている。
-------	--

	この講義では、長明の生涯を知り、歌人としての鴨長明にもふれつつ、長明の数寄者の側面にも着目し、『方丈記』『無名抄』『発心集』に拠りながら、長明における和歌と数寄との関係などについて考えたい。
到達目標	鴨長明という人の多面性を知ることができる。 長明の和歌・歌論について学び、和歌に対する理解を深めることができる。 また、長明の和歌に対する考えと、当時の和歌思潮との関わりについて知ることができる。 長明編の説話集を読み、説話の読み方、説話を理解する際の背景などについて理解できる。 長明というフィルターを通して、中世という時代に対しての認識を深めることができる。
講義方法	プリントを用いて授業を進めます。 理解の助けとなるよう、必要に応じて、スライドやインターネットなどの画像を利用することもあります。
準備学習	鴨長明に関する本(何でも可)を読んでおいてください。 毎回、授業で配布した資料は、My KONANに掲載しておきますので、 授業を欠席した人は、確認するようにしてください。
成績評価	小テスト(30%) 定期試験(70%)
講義構成	第1回～第3回 授業の概要説明、鴨長明の生涯 第4回～第6回 歌人としての鴨長明、楽人としての鴨長明 第7回～第8回 鴨長明と和歌 第9回～第11回 鴨長明の歌論 第12回～第14回 長明と数寄
教科書	ありません。
参考書・資料	三木紀人『閑居の人 鴨長明』(新典社) (講談社学術文庫) →どちらも同じ本です。 新潮日本古典集成『方丈記 発心集』
担当者から一言	鴨長明という人は、『方丈記』の著者としてあまりに有名ですが、それ以外の側面は知らない、という人は多いのではないのでしょうか。 彼は、和歌の修練を積んで勅撰集入集を志し、また出家後は仏道修行に励みながら、仏道に関わる説話集を編むなど、多彩な側面をもっています。 授業を通して、人間「鴨長明」にふれ、彼をとりまく世界を感じてほしいと思います。
その他	私語は禁止。 携帯電話はマナーモードにし、机に出さないようにしておいてください。

授業コード	11055		
授業科目名	日本文学特殊講義II(後)		
担当者名	岩見幸恵(イワミ サチエ)		
配当年次	3年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜3限

講義の内容	日本は早くから港湾をひかえた門前町や城下町といった近代的都市が各地に存在し、そこに文学を含む文化が発達した。そこで都市論的見地から近代・現代文学について論じる。
到達目標	都市の真の意味を把握すると共に、広く文学・芸術全般において優れた読者、鑑賞者となる。
講義方法	授業形式で講義を行なう。永井荷風、江戸川乱歩、谷崎潤一郎、横溝正史、村上春樹等を中心に東京、神戸に関わる作家を取り上げる。
準備学習	シラバスに記した作家の作品を何れか1作品以上読んでおくこと。また第一印象を大切にするためにメモを残すこと。
成績評価	期末試験(40%)、レポート(40%)、出席率(20%)によって総合的に評価する。10回以上授業に出席しなければ成績を評価しない。
講義構成	1、オリエンテーション 2、都市の条件:大陸の城壁と日本の城下町 3、近代の都市:産業革命と大衆文化 4、都市の文学的アイテム:迷路と田園 5、東京と神戸:地震と戦争と再開発 6、永井荷風①経歴 7、永井荷風②『日和下駄』下駄と傘 8、永井荷風③『すみだ川』『墨東綺譚』

	9、江戸川乱歩 10、横溝正史 11、村上春樹①経歴 12、村上春樹②作品 13、谷崎潤一郎 14、谷川流『涼宮ハルヒの憂鬱』と有川浩の作品 15、まとめ
教科書	プリントを配布する。
参考書・資料	作品に関する研究書と論文。
講義関連事項	適宜配布するプリントは授業に繰り返し使用するので、各自ファイルして毎回持参すること。
担当者から一言	提出物は自ら学習した証です。確実に提出すること。

授業コード	11085		
授業科目名	日本文化の諸相(後)		
担当者名	佐藤愛弓(サトウ アユミ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	水曜3限

講義の内容	「戦乱の時代の文学」南北朝時代は乱世といわれる中世の中でも、類をみない混乱の時代である。人々は、そのような時代の中を、時に裏切り、時に分裂しつつ、たくましく個性的に生き抜いており、その世界では敵と味方を二つに分けて考えることができない。またこのような混乱の時代においては、密教を中心とした宗教が、政治と深く結びついて大きな影響を与えていた。本授業では、『太平記』を基礎として時代の流れを把握しつつ、密教僧の文化を中心として鎌倉時代末期から南北朝時代の言説を読み解いていく。		
到達目標	古典作品の性質は、その作品が成立した時代状況と深く関係する。 本授業では、古典鑑賞に必要な読解力を身につけるとともに、中世という時代の躍動を感じ、作品と時代とを連動させて理解することを目標とする。		
講義方法	講義		
準備学習	とくになし。		
成績評価	期末レポート85%、平常点15% (但し全授業数の3分の1を欠席した場合は、期末レポートの提出を認めません)		
講義構成	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション (鎌倉時代末期～南北朝時代について) 2 王権と密教(後宇多の灌頂) 3 王権と密教(鳥羽宝蔵をめぐる言説1) 4 王権と密教(鳥羽宝蔵をめぐる言説2) 5 後醍醐天皇の倒幕活動と密教僧1 6 後醍醐天皇の倒幕活動と密教僧2 7 鎌倉幕府における密教僧の役割 8 鎌倉幕府の滅亡 9 建武の新政と密教僧 10 南北朝の騒乱1 11 南北朝の騒乱2 12 南北朝の騒乱と密教僧 13 室町幕府と密教文化(秩序の回復をめざして) 14 室町幕府と密教文化(鎮魂の言説1) 15 室町幕府と密教文化(鎮魂の言説2) 		
教科書	授業中にプリントを配布します。		

授業コード	11056		
授業科目名	比較文学特殊講義(前)		
担当者名	田中雅史(タナカ マサシ)		

配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜4限
オフィスアワー	水曜3限		

講義の内容	この授業では、幻想的なものの芸術作品における現れを歴史的な流れにおいて比較検討すると同時に、それを精神分析の中の対象関係論という分野のモデルと比較して考えていきます。何回かの説明の後、宮部みゆきの『龍は眠る』、長野まゆみ『少年アリス』などを読んできます。第1部を読んでも授業が理解できるように配慮する予定です。文学作品以外に映画・漫画・音楽などの他のジャンル・メディアの作品も参照しながら、芸術作品と人間の内的世界の関わりについて考えていきます。授業中に意見をきくことが多いので、はじめは大変かもしれませんが、しばらくすると慣れて楽しめると思います。
到達目標	作品を通して、言葉を使いながらも言葉におさまりきらない人間存在の奥の深さを理解する。
講義方法	作品を順に細かく読んでいきます。その週に検討する部分について、出席者に意見を求め、それにコメントを加えていきます。必要に応じ、パワーポイントやプリントで解説します。
準備学習	授業の範囲を精読し、コメントを考える。
成績評価	レポートを中心に、出席、授業中のコメント等を加味
講義構成	1.近代文学における幻想的なものの位置づけについて 2.ロマン主義、象徴主義、シュルレアリスムなど 3.日常性と狂気 4.前エディプス期の精神内界と芸術 5.宮部みゆき『龍は眠る』 6.長野まゆみ『少年アリス』 なるべく多くの国、多くのジャンルの作品を参照していきたいと思っています。
教科書	宮部みゆき『龍は眠る』、予言する鳥編(新潮文庫)、長野まゆみ『少年アリス』(河出文庫)

授業コード	11050		
授業科目名	文学と表現I(前)		
担当者名	古澤夕起子(フルサワ ユキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	「こども」がどのように表現されてきたのかという視点から、近代の文芸作品を味読する。したがって、児童文学の範疇に入る作品も含まれる。
到達目標	日本の近代において、子どもがどのように表現されてきたかに関心を持ち、授業で扱った以外の作品も、そうした視点で読んでみるができる。
講義方法	担当者による講義形式を基本とする。受講生に課す毎時の感想文を、適時フィードバックさせていく。
準備学習	これまでの読書体験が「準備」ということになるでしょうか。テキストには、高校までの教科書に記載されている作品を含め、読んでおいた方が望ましい作品を集めています。全文を掲載できなかった作品もあるので、とりあえずは図書館などで本を手にとり、読んでもらうことが望まれます。
成績評価	課題レポート(40%)。課題は前もって授業中に示します。毎回、感想文の提出を求め、それをもって出席とします。(未提出の場合、出席とは認めません。)これを平常点(60%)とします。
講義構成	回想される「こども期」から始まって、描かれるこどもの大まかな年齢(幼年期、少年少女期、青年期)に沿って進む予定であるが、順序は変更することがある。 1. オリエンテーション 「こども像」の変遷 2. こどもの育つ場所 「硝子戸の中」 夏目漱石 3. ひきだしの中の宝物 「銀の匙」 中 勘助 4. ギャングエイジの冒険 「鷹の巣とり」 千葉省三 5. 友だちが見知らぬ顔に 「久助君の話」 新美南吉 6. 暗くなった帰り道 「トロッコ」 芥川龍之介 7. おとなまでの長い時間 「女生徒」 太宰 治 8. 分け合うよろこび 「風琴と魚の町」 林 芙美子

	9. 少年と青年のはざままで「少年の死」 木下杢太郎 10. ぼくの冒険「鹿狩り」 国木田独歩 11. 父の怒りに触れた日「八十吉」 斎藤茂吉 12. 食べないこども「鮎」 岡本かの子 13. すなおに親切を受ける「伊豆の踊子」 川端康成 14. 人形娘がおとなになる時「伸び支度」 島崎藤村 15. 課題レポートの作成と提出
教科書	『伸び支度 名作に描かれた少年少女』上田博監修、古澤夕起子・辻本千鶴編 おうふう
参考書・資料	適時、紹介しますので積極的に読んでください。
担当者から一言	つい昨日まで「こども」だったあなたたちと一緒に、名作の中の「こども」を訪ねる時間を楽しみにしています。授業の性質上、30分以上の遅刻は入室を遠慮してください。

授業コード	11051		
授業科目名	文学と表現II(後)		
担当者名	古澤夕起子(フルサワ ユキコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	この百年の間、「こども」はどのように表現されてきたのか。文学作品を中心に、まんがや映画、歌などにも触れながら考えていきたい。		
到達目標	「こども」をキーワードに、文学作品やアニメ、社会的な現象に関心を持つことができる。		
講義方法	担当者による講義形式を基本とする。受講生に課す毎時の感想文を、適時フィードバックさせていく。		
準備学習	「こども」をめぐる問題は、こどもを持つ人だけのものではありません。「こども」でなかった人はいないからです。自分の中の「こども」を意識して眺めてみるのが「準備」になります。毎時の授業については、現在進行形のさまざまな問題を、授業に引き付けて考えることが「準備」でもあり、「復習」でもあります。		
成績評価	レポートによる(40%) 毎時、感想文の提出を求め、平常点とします(60%)。(未提出の場合、出席とは認めません。)		
講義構成	1 「少女」のイメージはどこから来たか 2-3 欧米への発信と受信「ちりめん本」+児童文学の翻訳 4-5 明日はおとなに「たけくらべ」樋口一葉 6 作られる少女像 明治・大正の少女雑誌をのぞいてみる 7 いつまでも子どもで「花物語」吉屋信子 8-9 大正期、少女たちのハローワーク「八つの夜」与謝野晶子 10 「桜の園」吉田秋生のまんが+中原俊監督の映画 11 ニンゲンフシンの男の子「星の光は昔の光」川上弘美 12 小学生と高校生がチャットでバイト「インストール」綿矢りさ 13 パジャマを脱ぐとき「パジャマガール」きど・のりこ+「14歳」千原ジュニア 14 「解散」する家族「ホームレス中学生」田村裕+「幸福な食卓」瀬尾まいこ 15 ザ・ブルーハーツの時代 1985-1995「終わらない歌を歌おう」		
教科書	特に定めない。プリントなどによって進める。		
参考書・資料	適時、紹介しますので積極的に読んでください。		
講義関連事項	「こども」をめぐるニュースが氾濫している現代。その根っこを探っていくと・・・100年前まで繋がっていますよ。		
担当者から一言	毎時、提出してもらった感想文からは教えられるところが多く感謝しています。授業の性質上、30分を越える遅刻の場合は入室を遠慮してください。		

授業コード	11052		
授業科目名	文学と風土I(後)		
担当者名	田口道昭(タグチ ミチアキ)		
配当年次	2年次	単位数	2

開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜1限
講義の内容	兵庫県を舞台にした文学作品を鑑賞する。兵庫県出身またはゆかりの作家は多く、また、兵庫県を舞台にした作品はたくさんある。この講義では、それらの作品の中からいくつかを選び、それらがどのような土壌や伝統の中で生成したのかを説明し、また、それらを理解することで、作品がどのように読めるかを明らかにしていく。		
到達目標	地域ゆかりの作品に触れ、地域の文化や風土を理解する共に、文学作品の理解を深める。		
講義方法	兵庫県ゆかりの作品を紹介しつつ、それらの歴史的背景や地域的特性について説明し、作品の理解にどのようにかかわっているのかを説明する。		
準備学習	授業で取り上げる作品を読んでおくことが望ましい。		
成績評価	積極的な出席(20%)及び定期試験(80%)によって評価する。毎回出席をとる。遅刻3回を欠席1回としてカウントする。筆記試験は授業で取り上げた内容についての確に理解できているかどうかを評価する。		
講義構成	第1回 はじめに・兵庫県出身やゆかりの作家・作品紹介 第2回 谷崎潤一郎『乱菊物語』 第3回 同上 第4回 佐多稲子『素足の娘』 第5回 同上 第6回 村上春樹『風の歌を聴け』 第7回 同上 第8回 司馬遼太郎『菜の花の沖』 第9回 同上 第10回 遠藤周作『黄色い人』 第11回 同上 第12回 兵庫県ゆかりの歌人・俳人 正岡子規・前田純孝ほか 第13回 新田次郎『孤高の人』 第14回 同上 第15回 まとめ 受講者の理解度、関心度に応じて、授業計画が変更になることもある。		
教科書	資料を配布する。		
参考書・資料	適宜指示する。		

授業コード	11053		
授業科目名	文学と風土II(後)		
担当者名	諸岡知徳(モロオカ トモノリ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	月曜2限
オフィスアワー	なし		

講義の内容	物語には、さまざまな別の物語が混在している。作家は先行する物語を、ある時は意識的に地として、またある時は無意識に図として自らの物語に組み込み、再編成していく。風土とは、ある物語に導入された歴史のかつ地理的な物語なのだといえるだろう。 本講義では、大阪という都市を舞台にした織田作之助の小説をいくつか取り上げて、主にそのなかに現れる都市の歴史的、地理的な物語を補助線としながら、小説を読み解いていくことにしたい。		
到達目標	織田作之助をはじめとする文学テキストの読解および近代大阪の歴史や文化を知ること		
講義方法	授業形式での講義。講義は時間通りに始めるので、遅刻はしないこと。		
準備学習	織田作之助の小説については前の週にプリントを配布するので、それらを事前に読んでおくこと。		
成績評価	成績評価はレポートを主にして、出席状況・受講態度などを参照する。レポートの提出日時、課題は講義内で知らせる。		
講義構成	テーマ : 小説のなかの大阪 大阪を舞台とした小説を取り上げ、テキストを詳細に読み進めていく。 取り上げる小説は、織田作之助の大阪を舞台とした小説を予定している。		
教科書	必要時に随時プリントを配布する。		
参考書・資料	必要がある場合は、講義中に指示する。		

講義関連事項	必要に応じて講義時間内に説明する。
担当者から一言	それぞれの講義内容は関連しているため、欠席すると内容理解に支障が出る。なるべく欠席をしないように注意してください。
その他	特になし
ホームページタイトル	なし

授業コード	11067		
授業科目名	マスコミ言語研究I(前)		
担当者名	道浦俊彦(ミチウラ トシヒコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	月曜2限

講義の内容	<p>私(道浦)は、現役の読売テレビのアナウンサーです。 仕事の傍ら、甲南大学で週1コマ、この講座を担当して今年で5年目になります。</p> <p>講義では、ふだん何気なく耳にしている放送や新聞などで使われている言葉を取り上げ、その言葉にどういう意図があるのか、送り手の立場から解説・分析していきます。</p> <p>また、新聞の社説やコラムを読み込むことで、文章の読解力を養います。</p>
到達目標	放送を中心としたマスコミで使われる言葉に対する関心を高める。それによって、言葉で表現される向こう側にある、社会の実体に近づく。
講義方法	授業で資料を配布して講義する。
準備学習	ふだんから新聞を読んでおく。テレビを見る。
成績評価	レポート提出、出席などの総合評価。
講義構成	<ul style="list-style-type: none"> ・放送で使うことば ・新聞で使う言葉、放送で使う言葉 ・外来語の現在 ・「話し言葉」と「書き言葉」 ・若者言葉 ・関西方言の現在 ・変わりつつある現代の言葉 ・いつの間にか定着した言葉 ・「辞書」を考える ・メディアリテラシー <p>など。 配分に関しては、最初の授業で指示する。</p>
教科書	『スプーのさめない距離～辞書に載らない言い回し56』(道浦俊彦、小学館)
参考書・資料	『ことばと国家』(田中克彦、岩波新書) 『日本の方言地図』(徳川宗賢、岩波新書) 『日本語と外国語』(鈴木孝雄、岩波新書) 『新解さんの謎』(赤瀬川原平、文春文庫) 『新聞と現代日本語』(金武伸弥、文春新書) 『みんなで国語辞典!』(北原保雄監修、大修館書店) 『数え方の辞典』(飯田朝子、小学館) 『現代用語の基礎知識2010年版』(自由国民社)ほか
担当者から一言	<p>言葉のおもしろさ、日本語のおもしろさということの一端を、この講義で掴んでいただければと思います。</p> <p>ふだん、読売テレビの「情報ライブミヤネ屋」という番組を担当しています。 報道局とアナウンス部の兼務なので、「しゃべり手」としてだけでなく「番組の作り手」という視点から、また新聞用語懇談会の委員として新聞やテレビの言葉について携わってきた経験を、皆さんにお伝えできればと思っています。</p> <p>教科書として拙著を挙げましたが、あくまで「これがないと、授業についていけない」というものではありません。 その点をご安心を。</p>

ホームページタイトル	『道浦俊彦の平成ことば事情』
URL	http://www.ytv.co.jp/announce/index.html

授業コード	11068		
授業科目名	マスコミ言語研究II(後)		
担当者名	三上喜美男(ミカミ キミオ)、服部孝司(ハツリ コウジ)、松岡 健(マツオカ タケシ)、亀山正芳(カメヤマ マサヨシ)、竹内 章(タケウチ アキラ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 後期	曜日・時限	火曜4限

講義の内容	神戸新聞社編集局、論説委員室などのベテラン記者、デスクらが取材、執筆、見出しの付け方などを実践的に指導する。新聞からより多くの情報、知識を読み取る力を磨く一方、書く力も養う。新聞記者志望の学生には、記者になるための具体的なノウハウを教える。情報が氾濫する現代、必要な情報を選び出し、かつ、自らの考えを的確に伝え、納得してもらえる術を身に付けさせる。
到達目標	開講時に指示する。
講義方法	その日の新聞からホットなニュースや世相を切ったフィーチャー記事を題材にして、新聞を深く読み込んでいく。何が書かれているか、何を強調しているのかなど、記事について活発にディスカッションして、知られざる新聞の価値、魅力に迫っていく。また、毎回、話し合ったテーマについてレポートを書き、社会で通用する文章力を養う。
準備学習	開講時に指示する。
成績評価	毎回のレポートが出席簿と試験の代わりとなり、講義をした記者やデスクがマスコミの視点で採点する。
講義構成	講義は5、6人で担当するため、リレー式に基本から応用までレクチャーしていく。5W1Hから始まって、相手を納得させる文章表現まで実践的に指導していく。甲南大学卒の神戸新聞記者をゲストに招くことも計画している。
教科書	講義当日の神戸新聞朝刊(大学最寄駅のキオスクかコンビニで入手可能)
参考書・資料	その日の講義内容に従って、講師が用意する。
担当者から一言	マスコミに関心がある学生や新聞記者を志望する学生にとっては大いに役立つ講座です。

授業コード	11089		
授業科目名	メディア・リテラシー(前)		
担当者名	畠山兆子(ハタケヤマ チョウコ)		
配当年次	2年次	単位数	2
開講期別	2010年度 前期	曜日・時限	木曜2限

講義の内容	豊かな物語性を持つ画像や映像は、私たちに魅了して放さない。それは何故か。その構造を読み解くことばを獲得することは、メディアとしての自分自身を自覚し、文化的アプローチに立った自己認識にいたることである。
到達目標	画像や映像を読み解くことばを獲得する
講義方法	パソコンを使って、画像を提示して講義する。その後、課題作品の企画書を作成し、各自パソコンで制作する。課題作品の合評を行う。
準備学習	日常接する画像や映像に関心を持つこと
成績評価	授業中の課題作品4回 提出物
講義構成	1 パート1 「ことば」から出発 ことば遊び・物語作り 2 パート2 動物編 ① 写真は語る ② 動物絵本を考える ③ フォト・ドキュメンタリーの制作 ④ 課題作品の合評 ⑤ 映像ドキュメンタリーの制作 ⑥ 課題作品の合評 3 パート3 広告編 ① 新聞広告を読む

	<p>② 物語キャンペーンの制作 ③ 課題作品の合評</p> <p>4 パート4 CM編 ① CMとは何か ② 静止画CM編の制作 ③ 課題作品の合評</p> <p>注意事項：進行状況等により内容が変更になる場合があります。</p>
教科書	松山雅子編著『自己認識としてのメディア・リテラシー』教育出版(CD付き)定価2300円＋税
講義関連事項	「子どもの文学・文化」の講義で、アニメーション番組の放送形態について取り上げています。
担当者から一言	パソコンを使って、自分で作品を作ることができるCDがついています。写真絵本やフォト・ドキュメンタリー、アニメーション番組予告編作りなど、制作者体験をしてみませんか。自分の中に眠っている才能を見つけ出せるかもしれません。